

2026

AOMORI

青の煌めきあおもり国スポ

第80回国民スポーツ大会

セーリング競技会

会期 9.4^金 - 9.7^月

会場 大平マリーナ



むつ市マスコットキャラクター
ムッシュ・ムチュラン1世

2026 AOMORI

第80回国民スポーツ大会

The 80th JAPAN GAMES

国民スポーツ大会（国スポ）は、都道府県対抗で毎年開催される国内最大のスポーツの祭典です。本県での開催は、前回のあすなろ国体[※]以来49年ぶりであり、前回同様、冬季大会と本大会を同一県で開催する「完全国スポ」です。

※ 2024年から「国民体育大会」の名称が「国民スポーツ大会」に変わりました。

あすなろ国体とは？

昭和52年、青森県で国体史上初となる完全国体（冬・夏・秋と3季にわたり行われる大会を同一県で実施した国体）として、第32回国民体育大会（あすなろ国体）が県内各地で華々しく開催され、本県は天皇杯を獲得しました。



大会愛称

青の煌めき^{きら}あおもり国スポ

青い空、青い海や湖、青い山並みなど美しく豊かな自然に恵まれた青森県で、あおもり国スポに参加する全ての人々が、交流を深め、感動を創出し、いきいきと煌めくような大会を目指します。

スローガン

翔ける未来^{きら}へ縄文の風に乗って

縄文時代の遺跡が数多く存在する青森から、新たな歴史と感動を全国に向けて発信し、未来につなげていきたいという願いを込めています。

イメージソング「翔ける未来へ」



作詞：井元 仁江
作曲：T. Mikami
編曲：多田 慎也、島田 尚
歌唱：りんご娘
（ピンクレディ、
スターキングデリシャス、
はつ恋ぐりん、金星）

ダンス「青の煌めきダンス」^{きら}



イメージソング「翔ける未来へ」にあわせ、振付けに青森県を表現するポーズやねぶたの跳人の動き、手話による表現などを盛り込んだ、青森らしいユニバーサルデザインダンスです。

公式マスコット



「アップリート君」

特徴ある県の形と、ハチマキの中央にある「りんご」で青森県を表現しています。

LINEスタンプも販売！



最新情報は公式アプリ・HP・SNSで！

公式アプリ



Download on the
App Store

GET IT ON
Google Play

あおもり国スポ

検索

今すぐ無料ダウンロード！

公式HP



X



Instagram



YouTube



目 次

—あいさつ—

第 80 回国民スポーツ大会会長 公益財団法人 日本スポーツ協会会長 遠藤 利明	1
文部科学大臣 松本 洋平	2
公益財団法人 日本セーリング連盟会長 馬場 益弘	3

—歓迎のことば—

青の煌めきあおもり国スポ・障スポ実行委員会会長 青森県知事 宮下 宗一郎	4
青の煌めきあおもり国スポ・障スポむつ市実行委員会会長 むつ市長 山本 知也	5
青森県セーリング連盟会長 菊池 浩太郎	6

国民スポーツ大会天皇杯・皇后杯授与規程	7
国民スポーツ大会会長トロフィー授与規程	8
大会役員	9
競技会役員	13
競技役員	15
競技補助員・競技会係員・競技会補助員・その他協力機関・団体	18
総 則	19
セーリング競技実施要項	38
帆 走 指 示 書	45
サポーターチーム規程	58
大会装備規程	63
式典次第	70
セーリング競技の見方	72
都道府県別参加人数一覧表	74
監督・選手一覧表	75
過去の成績（種目別成績・総合成績）	86

敷 地 内 全 面 禁 煙

受動喫煙防止のため喫煙所を設置しています。
喫煙される方は、指定された喫煙所をご利用ください。

青の煌めきあおもり国スポ・障スポむつ市実行委員会

あいさつ



公益財団法人日本スポーツ協会
会長 遠藤 利明

はじめに、本年 7 月 28 日に発生した令和 8 年熊本地震により亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。また、同地震及び昨年 12 月 8 日に発生した青森県東方沖地震により被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げ、一日も早い復興と皆様のご健康を心からお祈りいたします。

第 80 回国民スポーツ大会は、本年 1 月から 2 月に行われた冬季大会と併せ、「完全国スポ」として開催いたします。

第 71 回岩手大会以来、10 年ぶりとなる「完全国スポ」を締めくくる本大会が、縄文の時代から育まれてきた歴史と文化を有し、豊かな風土に恵まれた本州最北の地、ここ青森県において開催されますことは、誠に意義深いことであります。

本年は、第 25 回オリンピック冬季競技大会(ミラノ・コルティナ)、サッカー FIFA ワールドカップ 2026、第 20 回アジア競技大会(愛知・名古屋)などの大規模な国際総合競技大会が開催され、多くのアスリートの目覚ましい活躍が、私たちに大きな勇気を届けています。

本大会が「翔ける未来へ縄文の風に乗って」というスローガンの通り、出場するアスリートの皆様にとって、世界へ羽ばたく契機となることを切に願っています。

さて、日本スポーツ協会では、「有識者会議」からの提言に基づき、令和 7 年 7 月、改革を具体的に進める組織として、「国スポ改革タスクフォース」を設置しました。

今後、現状と課題を分析し、国民スポーツ大会が競技性・祝祭性・社会性・文化性を掛け合わせた、「トップアスリートと地域スポーツの好循環 ～人と地域の未来を創る～」という理念を具現化できる大会となるよう、検討を進めているところです。

結びに、地震からの復旧に取り組みながら、本大会の開催にあたり諸準備にご尽力いただきました青森県をはじめ、関係の皆様方のご支援、ご協力に対し心から深く感謝申し上げます。

あいさつ



文 部 科 学 大 臣
松 本 洋 平

はじめに、令和8年熊本地震によりお亡くなりになられた方々に哀悼の意を表するとともに、被災された全ての方々に心からお見舞い申し上げます。

文部科学省としては、被災された熊本県をはじめとする自治体への支援に全力を挙げて取り組んでまいります。

天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、ここ青森県において昭和100年記念 第80回国民スポーツ大会「青の煌めきあおもり国スポ」が盛大に開催されますことを、誠に喜ばしく存じます。

青森県は、世界自然遺産の「白神山地」、四季折々の表情を見せる「八甲田山」や「岩木山」など豊かな自然の魅力にあふれ、世界文化遺産である「北海道・北東北の縄文遺跡群」や重要無形民俗文化財である「青森のねぶた」など、自然と文化が息づく県です。

昭和52年のあすなろ国体以来49年ぶりの青森県での開催となり、「翔ける未来へ縄文の風に乗って」をスローガンに、県全域を舞台に熱戦が繰り広げられます。

本大会は、史上初となる総合開会式・閉会式の屋内開催に加え、大会公式アプリによる競技情報や結果速報の提供、デジタルチケットの活用などデジタル技術の活用により、選手と観客双方に配慮した大会運営となっています。「青の煌めきあおもり国スポ」が、国民に夢と感動を与え、青森県の魅力発信と活性化につながる大会となりますことを心から願っております。

郷土の代表として参加される選手の皆さんが、積み重ねてこられた練習の成果を思う存分発揮され、我が国の国際競技力の向上が図られるとともに、この機会に全国の仲間や青森県民の皆さんとの交流を通じて、思い出に残る大会となりますことを期待しております。

昨年度は、東京2025世界陸上競技選手権大会、第25回夏季デフリンピック競技大会東京2025、ミラノ・コルティナ2026冬季オリンピック・パラリンピック競技大会が、今年度は、愛知・名古屋において、第20回アジア競技大会、第5回アジアパラ競技大会が開催され、国民のスポーツへの関心はますます高まっているところです。

文部科学省としても、アスリートや子供たちの活動の機会を確保し、スポーツの持つ力やすばらしさが社会の活力につながるよう、関係の皆様と一丸となって取組を進めてまいります。

結びに、「青の煌めきあおもり国スポ」の開催に当たり御尽力いただいた地元青森県、会場となる各市町村をはじめとする関係の皆様の御支援、御協力に対し、心から敬意と感謝の意を表しまして、御挨拶いたします。

ご 挨 拶



公益財団法人日本セーリング連盟
会 長 馬 場 益 弘

はじめに、本年 7 月に発生した令和 8 年熊本地震、ならびに昨年 12 月の青森県東方沖地震により被災された皆様に、謹んでお見舞い申し上げます。今なお困難な状況にある方々に寄り添い、一日も早い復興と皆様のご健康を心からお祈りいたします。

第 80 回国民スポーツ大会「青の煌きらめきあおもり国スポ・障スポ」セーリング競技会が、青森県むつ市、大平マリーナで開催されることをお慶び申し上げます。大会開催に御尽力いただきました青森県、むつ市、青森県教育委員会、公益財団法人青森県スポーツ協会、特定営利活動法人むつ市スポーツ協会、ならびに青の煌めきあおもり国スポ・障スポむつ市実行委員会、青森県セーリング連盟の関係各位に心からお礼申し上げます。

「翔けろ 未来へ縄文の風に乗って」このスローガンは、世界遺産をはじめとした多くの縄文遺跡が存在する青森県から、新たな歴史と感動を全国に向けて発信し、未来へつなげていきたいという願いが込められています。日本各地から集結した参加セーラーが、縄文の風に乗って白熱したレースを展開することを期待しております。海の上では互いに実力を高め合い、陸に上がれば最高の仲間として絆を深める。そんな熱くて素晴らしい経験ができるよう、思い切り楽しんでください。

近年、国スポでは「熱中症リスクの管理」が運営上の最優先事項となっております。セーリング競技においても、大会中の暑熱対策・熱中症対策が重要な課題として、昨年「国民スポーツ大会セーリング競技会における暑熱対策案」を策定し、陸上及び水上での対策とともに、湿球黒球温度(WBGT)による競技運営上のガイドラインを施行しました。引き続き、選手・監督・競技役員の熱中症に関する注意を促進してまいります。

最後に、参加選手の皆さんに記憶に残る素晴らしい大会となり、安全かつ成功裏に進みますことを祈念してご挨拶いたします。

歓迎のことば



青森県知事 宮下 宗一郎

はじめに、令和8年熊本地震によってお亡くなりになられた方々に、深く追悼の意を表しますとともに、御遺族と被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。

昭和100年記念青の煌めきあおもり国スポ「第80回国民スポーツ大会」が昭和元年(1926年)から起算して満100年の節目となる年に、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、青森県において開催されますことをお喜び申し上げます。そして、全国各地からお越しくださいました選手及び関係者の皆様を、県民を代表して心から歓迎いたします。

「青の煌めきあおもり国スポ」は、史上初の完全国体である「あすなろ国体」以来49年ぶりとなる青森県での開催であり、国民体育大会から国民スポーツ大会に大会名称が変更されてから、初の“完全国スポ”となります。

「翔けろ未来へ縄文の風に乗って」のスローガンのもと、美しく豊かな自然の恵みを受けながら、一万年以上にわたり縄文文化が営まれていたこの青森の地で生まれる新たな歴史と感動、そしてこれを希望ある未来へつなげていきます。

“スポーツで青森県が一つ”に、“私たち県民の心がスポーツで一つ”になる、「青森新時代」の大会を目指し、県民総参加で青森県を青の煌めき一色に染め上げ、スポーツの祭典を盛り上げたいと考えています。

選手の皆様には、日々の練習で培ったパフォーマンスを存分に発揮されますとともに、感動と温かい交流にあふれ、皆様の心に残る最高の大会となることを願っています。

結びに、今大会の開催に御尽力されました関係者の皆様に心から感謝を申し上げるとともに、今大会の成功と選手の皆様の御健闘をお祈りし、歓迎のことばといたします。

歓 迎 の こ と ば



^{きら}
青の煌めきあおもり国スポ・障スポ
むつ市実行委員会会長

むつ市長 山 本 知 也

はじめに、令和8年熊本地震によりお亡くなりになられた方々に、深く哀悼の意を表しますとともに、被災された全ての皆様に謹んでお見舞い申し上げます。一日も早い復興と、皆様の平穏な生活が戻りますよう心からお祈りいたします。

青の煌めきあおもり国スポ「第80回国民スポーツ大会」セーリング競技会が、本州最北の市、ここむつ市において盛大に開催できますことを大変嬉しく思いますとともに、全国各地からお越しの選手・監督並びに関係者の皆さまを、むつ市民を代表して心より歓迎申し上げます。

青森県での開催は、昭和52年の「あすなろ国体」以来、49年ぶりの開催となり、むつ市では、正式競技4競技、デモンストレーションスポーツ 1 競技を行います。大会期間中、本市を訪れるすべての皆様に、心のこもったおもてなしでお迎えできるよう、市民一丸となって準備を進めてまいりました。

今大会の競技会場は、本市の象徴である釜臥山を雄大に望む陸奥湾です。豊かな自然と開放的な空間が広がるこの絶好のロケーションの中で、風を読み、波を越えていく選手の皆様の力強くも華麗な航海が、観る者の心に深い感動を刻むことを確信しております。

選手の皆様におかれましては、郷土の誇りを胸に、日頃の鍛錬の成果を存分に発揮され、記憶に残る素晴らしい大会となりますよう祈念いたします。

むつ市は、三方を海に囲まれ、四季折々に表情を変える豊かな自然が息づくまちです。市の中心にそびえ立つ釜臥山から見下ろす夜景は、その輝きがまるで「光のアゲハチョウ」のように見えることから世界夜景遺産にも認定されており、息をのむほどの美しさを誇ります。また、霊場「恐山」の神秘的な景観や、心身を癒やす豊富な温泉に恵まれているほか、海峡サーモンやホタテをはじめとする新鮮な海の幸は、本市が自信を持っておすすめする至極の逸品でございます。

ご参加の皆様には、ぜひこの機会に、むつ市が誇る美しい景色、豊かな食、そして市民の温かなおもてなしに心ゆくまで触れていただき、たくさんの楽しい思い出をお持ち帰りいただければ幸いです。

結びに、本大会の開催にあたり、多大なる御尽力を賜りました関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、選手の皆様のご健闘を祈念申し上げ、歓迎のことばといたします。

歓 迎 の こ と ば



青森県セーリング連盟

会 長 菊池 浩太郎

はじめに、本年 7 月 28 日に発生した令和 8 年熊本地震により被災された皆様の一日も早い復興を祈念するとともに、亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

第80回国民スポーツ大会「青の煌めきあおもり国スポ・障スポ」のセーリング競技に各都道府県から多くの選手、関係者の皆様をお迎えし、ここむつ市で開催できることを心より歓迎いたします。国民スポーツ大会は昭和52年に「あすなろ国体」が本県で開催されて以来、49年ぶりの開催となります。当時はヨット競技として青森市浅虫を舞台に熱戦が繰り広げられました。当地での海洋スポーツの起こりは昭和38年にここ大湊湾にY-15が進水したことに始まり、以来、ヨットは市民の身近なものとなっております。競技会場となる大平マリーナは国土交通省の定める「みなとオアシス」に登録され、レース海面の大湊湾は天然の良湾であり、出場選手の皆様は日頃の研鑽を積んだ技術、チームワークを遺憾なく発揮されることでしょう。

むつ市において国際級のレガッタを開催することは初めてで、大会運営にあたるスタッフ、ボランティアスタッフ、一般市民、県境を越え、チーム東北で協力いただく関係者一同、英知を集結して成功へと導きます。

パリオリンピックでの470級チームの活躍はまだ記憶に新しく、この北の海に咲き乱れるトップアスリートによるセールの花は多くの人々に感動と希望を与え、明日を生きる若人の標となることでしょう。本大会、セーリング競技を通じ、関わっていただいた全ての皆様に歓喜と交流が生まれる大会となることを祈念いたしまして、歓迎のことばといたします。



天皇杯

皇后杯

国民スポーツ大会天皇杯・皇后杯授与規程

第1条 国民スポーツ大会開催基準要項第11項に基づき、天皇杯は、男女総合成績第1位の都道府県、皇后杯は、女子総合成績第1位の都道府県に授与する。

2 第1位が2都道府県以上の場合は、当該都道府県で共有する。

第2条 天皇杯及び皇后杯は、総合閉会式に授与し、次回の総合開会式において返還する。

第3条 天皇杯又は皇后杯を授与された都道府県は、次の各項の義務を有する。

- (1) 信託会社又は確実な金庫に保管する。
- (2) 破損、紛失等の場合は、当該都道府県の責任とする。
- (3) 公益財団法人日本スポーツ協会が優勝都道府県名刻印のため又はその他の必要により一時返還を求めた場合は、これに応じなければならない。

第4条 本規程の改廃は、国民スポーツ大会委員会の決議を経て行う。

附 則 本規程は、昭和41年4月1日制定

昭和45年1月22日一部改定

昭和48年7月10日一部改定

昭和54年5月9日一部改定

平成17年6月16日一部改定

平成22年3月17日一部改定

本規程は、公益財団法人日本体育協会の設立の登記の日（平成23年4月1日）から施行する。

平成30年4月1日一部改定

令和6年1月1日一部改定



大会会長トロフィー

国民スポーツ大会会長トロフィー授与規程

第1条 国民スポーツ大会開催基準要項第11項に基づき、国民スポーツ大会会長トロフィー(以下「大会会長トロフィー」という。)は、正式競技別男女総合成績第1位の都道府県に授与する。

2 第1位が2都道府県以上の場合は、当該都道府県で共有する。

第2条 大会会長トロフィーは、競技会表彰式に授与し、次回競技会において返還する。

第3条 大会会長トロフィーを授与された都道府県は、次の各項の義務を有する。

- (1) 責任をもって保管する。
- (2) 破損、紛失等の場合は当該都道府県の責任とする。
- (3) 優勝の刻印を次回大会までに行なうものとする。ただし、第1条第2項の場合は、当該都道府県で協議して決めるものとする。
- (4) 公益財団法人日本スポーツ協会が必要により一時返還を求めた場合は、これに応じなければならない。

第4条 本規程の改廃は、国民スポーツ大会委員会の決議を経て行う。

附 則 本規程は、昭和41年4月1日制定

昭和45年1月22日一部改定

昭和48年7月10日一部改定

昭和54年5月9日一部改定

平成17年6月16日一部改定

本規程は、公益財団法人日本体育協会の設立の登記の日(平成23年4月1日)から施行する。

平成30年4月1日一部改定

令和6年1月1日一部改定

大会役員

2026年7月31日現在
(順不同・敬称略)

名誉会長	松本洋平			
会長	遠藤利明			
副会長	益子直美	田中不二夫	三宮恵利子	森岡裕策
	河合純一	宮下宗一郎		
顧問	森喜朗	安西孝之	岡崎助一	越川均
	坂元要	勝田隆	飯塚悟	池田めぐみ
	石井砂織	植田実	浦美奈子	笠師久美子
	鹿島丈博	木平芳定	工藤保子	久保正美
	小寺洋	櫻井由香	中嶋実	橋本聖子
	村松さやか	室伏由佳	湯川和之	吉岡成子
	久保直生	藤田裕司	藤原誠	室城信之
	金子日出澄	貝瀬智洋	森晃	土橋登志久
	石丸元国	多氣洋平	井崎洋志	鬼頭有紀子
	長谷川洋子	吉田長寿	齋木尚子	多賀恒雄
	安藤淳	上治丈太郎	湧永寛仁	三宅秀一郎
	佐藤健司	馬場美香	堺充廣	南和文
	宮永美寿津	千田健一	中里壮也	岡本友章
	大野淳	永谷喜一郎	田村恒彦	蒔田実
	山崎勝洋	浅見敬子	山口徹正	田中伸周
	村田利衛	建部彰弘	市野保己	丸石博
	中村ゆり子	齋藤良太郎	谷田部和彦	木村博美
	井上弘	今川啓一	近藤重和	池谷正成
	大澤明美	古城資久	小野賢二	園山和夫
	中山俊行	田中徹	知念かおる	出口弘之
	田邊哲人	城門政文	前川恵	園田義宜
	布村幸彦	川原元則	生島典明	大沢陽子
	谷藤節雄	中村伸彦	千葉玲佳	奥山雅信
	酒井祐一	藤田知巳	北條俊明	田子昌之
	新井彰	山崎成夫	塩見清仁	田名部高雄
	井出仁	今西博一	中村宏平	新保暢
	森山喜博	横山幹夫	花崎武彦	高橋繁浩
	山本健次	増田和伯	藤堂寛	山本誠三
	松本恭幸	東直也	奥田晃	横尾英治
	小西慎太郎	近藤一幸	堂本ひさ美	河村祐一

渡邊浩三	田中稔	高岡晃仁	青木章泰
城戸英敏	小柳勝彦	辛木秀子	宮成康藏
若林繁幸	岩元幸成	平良朝治	藤原正樹
新宮領毅	川上隆弘	佐藤廣子	奈良隆美
小菅司	宇津木妙子	菊幸一	小林久美
寺澤正孝	山口純子	中村裕之	小林茂樹
清水真人	福田かおる	増子宏	矢野和彦
柿田恭良	茂里毅	浅野敦行	津島淳
神田潤一	木村次郎	江渡聡徳	田名部匡代
福士珠美	山中泉	工藤慎康	風張知子
横町俊明	西秀記	濱舘豊光	尾崎寿一
鈴木進靖	三本木温二	有森裕一	鈴木大和
宮本恒一	深澤祐志	坂田慎二	三須山英明
川合俊弘	藤田直治	島田恭文	富安道光
馬場正也	砂岡章男	金丸藤正	中村真一
河合満男	村井正次	後藤砂弘	土田善弘
河田幸中	大野正淳	真世耕保	笹川秀樹
納富宏也	土居光司	北村美栄	丹羽裕生
津賀拓彦	岩城有富	吉村祐司	北村清元
達増和彦	鶴田富可子	遠藤伸浩	大野英世
大井川俊人	小谷実之義	岡田嵩人	花角野剛
熊谷八朗	山野義隆	石谷多加	高村秀章
新阿部守一	田口祥二郎	中谷隆俊	高橋知史
伊藤歳彦	高橋健夫	西脇崎泉	林昭男
斎藤達也	福谷孝昌	宮迫谷章	村岡嗣政
丸山正純	越宗裕次郎	迫塚岩男	今城純敬
後藤田太郎	綾田耕史	大塚田康	木村敬
服部誠益	宮原俊郎	塩田康	玉城デニ
麻生直	日隈俊郎		

参 与	粂 井 圭 子	大 杉 住 子	中 村 宇 一	廣 田 美 香
	阿 部 祐 己	安 藤 晴 美	伊 吹 信 一	井 本 貴 之
	蛭 沢 正 勝	大 崎 光 明	大 澤 祥 宏	大 澤 敏 彦
	大 平 陽 子	小 笠 原 大 佑	川 村 悟	菊 池 勲
	北 向 由 樹	木 明 和 人	櫛 引 ユ キ 子	工 藤 兼 光
	工 藤 悠 平	後 藤 清 安	小 比 類 卷 正 規	今 博
	斉 藤 孝 昭	齊 藤 爾	鹿 内 博	清 水 悦 郎
	高 橋 修 一	高 畑 紀 子	田 中 順 造	田 名 部 定 男
	田 端 深 雪	鶴 賀 谷 貴	寺 田 達 也	夏 坂 修
	夏 堀 嘉 一 郎	夏 堀 浩 一 裕	成 田 陽 光	花 田 栄 介
	福 士 直 治	丸 井 清 文	三 橋 一 三	森 内 之 保 留
	山 田 寛 司	山 谷 忠 雄	吉 田 ゆ か り	吉 俣 恵 美
	和 田 寛 博	奥 田 史 晴	大 田 圭 之	平 間 慈 美 穂
	安 田 博 史	松 本 史 雄	中 野 博 文 子	久 慈 美 健 司
	三 浦 猛 久 義	千 葉 信 幸	後 村 文 桂	細 谷 謙 一
	舩 木 久 泰 正	豊 島 信 豊	秋 野 孝 文	上 沢 潮
	工 藤 剛 太	栗 林 貴 司	新 屋 国 男	築 田 力
	佐 藤 恒 子	安 田 英 保 人	東 山 正 明	大 山 内 修
	山 本 静 彦	津 田 場 裕 司	米 内 伸 一	小 山 口 龍 城
	堤 杉 勝 晶	工 藤 村 琢 哉	目 居 敬 子	山 川 浪 泰 浩
	高 宮 孝 忠 全	田 村 純 造	中 川 伸 吾	里 村 智 彦
	佐 藤 忠 信	倉 橋 健 一	一 戸 善 正 史	櫛 引 利 智 久
	七 尾 嘉 千 春	佐 藤 木 伸 也	岡 島 裕 之 助	工 藤 幸 一
	三 上 千 子			
	外 崎 れ い			
	山 本 浩			
委 員 長	山 本 浩			
副 委 員 長	岩 田 史 昭	石 田 裕 美	出 崎 和 夫	笠 野 英 弘
総 務 委 員	松 永 敬 子	三 宅 宏 実	稲 垣 公 雄	笠 野 基 子
	関 口 直 樹	菅 原 哲 朗	田 崎 博 道	宇 野 武
	三 ヶ 田 礼 一	山 澤 文 裕	福 田 一 稔	秋 田 勝 行
	二 宮 智 浩	小 竹 喜 也	田 内 慎 也	宮 本 忠
	中 尾 慶 一 郎	下 條 伸 彦	江 橋 千 晴	
	小 澤 大 樹	小 笠 原 忠 儀	高 井 和 紀	

委 員	平	野	了	高	橋	聖	一	永	井	雅	史	神	山	康	洋
	福	士	幸	栗	原		崇	竹	ノ	脇	秋	鈴	木	克	宜
	葛	西	玲	濱	野		勉	寺	澤		淳	黒	川	重	男
	舟	喜	信	福	島	亮	一	中	梶	秀	則	堀	越		浩
	加	藤	憲	宮	川	良	輔	鈴	木	章	広	川	口		巖
	山	口	俊	岡	泉		茂	朝	倉	康	善	木	塚	鉄	也
	平	井	宏	濱	崎		満	岸	川	剛	之	西	原	斗	司
	山	口	鉄	菅	原	正	幸	伊	東	毅	嗣	長	南	哲	生
	衛	藤	敬	上	久	保	僚	中	段	亜	由	鈴	木	信	吾
	内	田	淳	関	根	明	子	中	山	二	三	崎	村	尚	人
	吉	田	由	杉	本	好	二	國	重	さ	ゆ	高	梨	治	紀
	川	口	雅	田	邊	賢	一	山	井	口	剛	富	澤	佑	也
	政	岡	航	坊	百		花	井	澤	貫	太	田	中	雅	紀
	寺	垣	佑	柿	崎	繁	信	橋	口	真	夕	田	谷	遙	太
	町	屋	毅	山	本	高	史	松	橋	伸	哉	長	川	光	昭
	白	幡	博	田	畑	幸	浩	加	藤	雄	樹	小	林	健	也
	幸	田	和	大	貫	大	輔	小	池	則	之	今	井	隆	元
	三	浦		舟	木	雅	美	阿	部	哲	也	片	岡	英	史
	福	居	久	三	武	紀	子	長	坂	嘉	久	井	澤	克	行
	林	剛	史	稻	葉	晴	伸	森	島	哲	也	和	田	吉	史
中	野	吾	佐	々	智	也	木	原	哲	博	越	智	敏	文	
小	林	悟	中	嶋	純	也	前	田	康	之	松	本	守	正	
松	本	綾	中	田	健	治	石	津	雅	朗	加	藤	康	泰	
高	田	孝	日	野	利	剛	前	田	義	宏	笠	井	賢	行	
尾	鷺	一	川	端	尚	行	濱	本	昌	史	吉	野	瑞	郎	
都	甲	尚	山	元	憲	史	黒	田	裕	也	高	野	裕	晃	
遠	藤	信	角	屋	真	正	千	葉	雅	克	菅	間	宏	之	
岡	崎	正	角	田	憲	司	加	藤	紳	和	柄	澤	公	紀	
杉	田		塩	田	知	己	藤	丸	伸	哲	河	後	元	彦	
碓	井	稔	武	田	長	門	井	上	井	守	今	岡	直	彦	
沼	田	守	田	部	憲	昭	松	崎	雅	巳	吉	島	祥	嗣	
高	岡	晃	葛	目	公	一	寺	木	淳	郎	田	間	敏	生	
荒	木	健	平	江			黒				城				
丹	羽	浩													

競 技 会 役 員

2026年8月10日現在

(順不同・敬称略)

名 誉 会 長 山 本 知 也

会 長 馬 場 益 弘

副 会 長	船 澤 泰 隆	土 肥 美 智 子	平 井 昭 光	秋 田 正 紀
	菊 池 浩 太 郎	柴 田 文 彦	中 野 敬 三	富 岡 幸 夫

顧 問	植 松 眞	中 川 千 鶴 子	桑 原 啓 三	中 澤 信 夫
	富 田 三 和 子	中 村 隆 夫	福 田 さ と し	長 塚 奉 司
	石 川 光 次 郎	佐 藤 利 秋	齋 藤 和 久	高 橋 哲 司
	安 藤 眞 理 子	船 田 元	須 藤 昭 男	進 藤 義 孝
	大 野 敬 三	石 原 伸 晃	末 木 創 造	堀 内 光 一 郎
	小 保 祥 一	横 山 真	八 嶋 浩 久	大 西 治 夫
	鈴 木 規 之	加 藤 敏 純	小 栗 一 朗	岸 田 慶 仁
	森 正 弘	神 野 佳 樹	岡 田 栄 三	中 西 克 誠
	森 田 豊 三	堀 井 康 弘	中 井 國 雄	安 田 由 毅
	大 西 和 彦	竹 内 宣 昭	安 永 裕 司	河 野 亨
	中 博 史	石 井 良 直	黒 川 重 男	谷 田 豊 明
	秋 山 雄 治	井 上 宏	福 田 豊	西 山 宗 孝
	岩 屋 毅	橋 口 昭 彦	そのだ 修 光	有 銘 兼 一
	阿 部 謙 一			

参 与	大 谷 た か を	小 山 泰 彦	坂 谷 定 生	川 添 雄 彦
	齊 藤 哲 行	渡 辺 克 行	佐 藤 武	工 藤 祥 子
	高 橋 征 志	濱 田 栄 子	杉 浦 弘 樹	櫻 田 秀 夫
	住 吉 年 広	白 井 二 郎	富 岡 直 哉	村 中 浩 明
	野 中 貴 健	佐 藤 広 政	東 健 而	中 村 正 志
	井 田 茂 樹	浅 利 竹 二 郎	岡 崎 健 吾	佐 々 木 隆 徳
	佐 賀 英 生	大 瀧 次 男	佐 々 木 肇	田 中 志 昌
	納 谷 順 子	黒 木 和 之	長 岡 俊 成	吉 田 真
	齋 藤 友 彦	中 村 智 郎	白 川 光 治	井 戸 端 隆 雄
	太 田 寛	牧 野 正 蔵	内 田 大 輔	石 黒 一 之
	駒 井 昭 雄	白 川 直 人	本 間 正 行	鷹 架 則 子

福岡 榮子	角谷 公博	杉山 毅	澤田 秀樹
齋藤 憲一	滝本 守雄	松橋 照和	遠藤 雪夫
鎌田 一仁	佐藤 宏	松谷 勇	石橋 秀治
斉藤 洋一			

委員長 安藤 淳

副委員長 高谷 智 林 力

委員	萩原 ゆき	古屋 勇人	地川 浩二	尾形 依子
	丹羽 巧	吉田 愛	鷹野 淳子	高田 明
	五十川 浩司	石原 智央	井川 史朗	新田 肇
	上野 保	紙谷 雅子	鈴木 保夫	會津 友稀
	北川 翔也	角田 健	傳法 高平	和田 聖唯
	竹林 亜優	兼平 祐斗	小田切 拓斗	小田桐 俊亮
	猪口 和則	打谷 桂子		

競 技 役 員

2026年8月10日現在

(順不同・敬称略)

競 技 委 員 会 古 屋 勇 人 山 本 俊 貴

レース委員会 京 黒 太 郎 松 本 遙 香 高 谷 智 向 田 麻 希
汐 口 貴 広 宮 崎 公 邦 青 山 貴 志 根 津 久 一 郎
山 下 亮 尾 形 依 子 庄 子 陽 笠 原 賢 一
新 井 幸 男 高 佐 光 一 織 田 将 史 麦 沢 江 理
又 村 優 桑 野 安 史 木 村 由 奈 加 賀 谷 舞 音
中 山 彩 香

プロテスト委員会 増 田 開 前 園 昇 加 藤 圭 二 田 中 愛 梨
渡 辺 勝 山 本 正 樹 宇 都 宮 則 夫 河 田 隆 宏
谷 田 豊 明 富 松 潔 高 野 由 美 子 山 口 泰 正
増 田 開 檜 崎 彩 賀 田 口 真 一 内 海 翔 太
石 崎 泰 成 岡 崎 真 一 郎 岡 嶋 佳 治 吉 田 向 志
石 川 雅 之 齋 藤 愛 吉 田 愛 美 加 藤 恵 美
松 宮 哲 夫 宮 川 紫 麻

総 務 ・ 報 道 部 小 林 睦 子 中 里 英 一 長 田 美 香 子 西 宮 敬 宏
黒 川 重 男 長 塚 奉 司 庄 司 一 夫 佐 藤 優 子
土 屋 富 康 増 田 純 二 今 井 久 司 上 郡 一 恵
河 野 美 千 生 折 居 幸 子 山 本 登 志 子 竹 田 乃 亜
赤 坂 萌 ヶ 香 川 戸 ゆ か 野 元 聡 美 古 賀 恵 智 子
濱 田 賢 岡 部 由 美 子 長 谷 川 誠 大 垣 俊 朗
山 谷 碧 空 永 井 真 美 森 田 光 一 栗 原 茂 勝
三 羽 ま り 子 川 副 陽 子 吉 田 愛

計 測 ・ 競 艇 部 中 村 和 哉 東 島 和 幸 兼 平 祐 斗 小 久 保 伸 一
岩 田 俊 彦 櫻 井 真 也 黒 川 健 一 郎 葛 西 研 一

大熊典子	永田絹子	柳原聡明	坂本晋
野沢博	中川淳	小笠原規安	西岡秀樹
我満龍真	松山美咲	木立真帆	吉村修平
中島大輔	白石潤一郎	小林隆	巽美則
小林正季	市倉隆裕	勝木海斗	

記 録 部	三上圭介	林健太	荒川昌巳	小澤誠一
	荒木敏	新山裕大	漆館麻紀穂	古館知樹
	岩瀬広志			

運 行 ・ 通 信 部	木立喜代隆	和田聖唯	甲斐孝光	池田充秀
	瀬口隆三	遠藤久	新松慶寿	柳谷昌人
	林昭仁	宮川徹	又村功	

発 着 水 路 部	会津友稀	傳法高平	福田衛	小島遼平
	竹林亜優	木立洋平	川村友了	小林悠人
	又村信夫	神圭祐	二本柳千佳	加藤則夫
	佐藤功美	中 寛 讓	加賀智博	中田美玲
	松尾日和	倉持隆一	平松幸将	上妻明弘
	佐々木龍	後藤建治	橋本洋平	佐々木貴浩
	大鳥冬樹	堀合光希	佐藤裕典	福田慎之介
	濱野文	遠嶋準	後藤有貴	北川翔也
	山田隼平	上沢雄太	又村彰	高坂泰行
	角田健	栃木幹太	小山内将真	小田切景太
	布袋倫裕	小形海周	横浜飛鳥	今大明
	窪田百華	柴田拓真	小田切拓登	松井六法
	小山内雄也	荻原隼之介	高村修人	熊谷南雄
	佐藤駿	阿部力	後藤優華	木村和人
	田中博志	高橋優斗	谷口つるぎ	池田薫
	近藤昇	武者裕之	福田さとし	伊藤僚
	上郡嘉之	松井淳朗	山本健一	上野聡
	小倉茂久	沢田真帆		

海上安全部

伊藤 恭雄
松井 伸
棟方 友悳
肥田木 貴大

新松 政雄
馬場 克直
大山 慶己
菅原 博行

瀬川 慶一
浅利 輝彦
神 有斗
山 本 遼

中村 謙一
山田 直人
勝見 麻己斗
及川 晃次郎

競 技 補 助 員

2026年8月10日現在

(順不同)

青森県立青森工業高等学校 青森県立大湊高等学校 青森県立むつ工業高等学校

競 技 会 係 員

青の煌めきあおもり国スポ・障スポむつ市実施本部職員一同

競 技 会 補 助 員

青の煌めきあおもり国スポ・障スポむつ市ボランティア一同

そ の 他 協 力 機 関 ・ 団 体

海 上 自 衛 隊 大 湊 地 区 隊

第80回国民スポーツ大会 本大会実施要項総則

開催の趣旨

国民スポーツ大会は、広く国民の間にスポーツを普及し、スポーツ精神を高揚して国民の健康増進と体力の向上を図り、併せて地方スポーツの推進と地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにしようとする国内最大のスポーツの祭典である。

青森県で開催する第80回国民スポーツ大会「青の煌めきあおもり国スポ」は、「翔ける未来へ縄文の風に乗って」をスローガンに掲げ、スポーツによる感動や交流の輪が広がるとともに、本県のあらゆる魅力を発信するなど、県民総参加による青森県らしさあふれる大会を目指して開催する。

実施方針

1 実施競技

(1) 正式競技（37 競技）

陸上競技、水泳、サッカー、テニス、ローイング、ホッケー、バレーボール、体操、バスケットボール、レスリング、セーリング、ウエイトリフティング、ハンドボール、自転車、ソフトテニス、卓球、軟式野球、相撲、馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、ライフル射撃、剣道、ラグビーフットボール、スポーツクライミング、カヌー、アーチェリー、空手道、銃剣道、クレ射撃、なぎなた、ボウリング、ゴルフ、トライアスロン

(2) 公開競技（7 競技）

綱引、ゲートボール、武術太極拳、パワーリフティング、グラウンド・ゴルフ、バウンドテニス、エアロビック

(3) デモンストレーションスポーツ（39 競技）

いきいき太極拳、インディアカ、ウォーキング、ウォークビンゴ、エンジョイ！グラウンド・ゴルフ、オリエンテーリング、カーリング、空道、女子ソフトボール、スポーツウエルネス吹矢、スポーツチャンバラ、ソフトバレーボール、ターゲット・バードゴルフ、ダンススポーツ、ドッジボール、年齢別ソフトテニス、年齢別テニス、年齢別バドミントン、ノルディックウォーキング、パークゴルフ、パラグライディング、ビリヤード、ビーチサッカー、ファイン・ボール、フライングディスク、ふれあいゲートボール、ふれあいソフトボール、ふれあいボウリング、フロアボール、ペタンク、マスターズスイミング、マスターズ陸上競技、マラソン、マラソン&ウォーキング、モルック、ユニカール、ユニバーサルホッケー、ラージボール卓球、Let's Enjoy バウンドテニス

(4) 特別競技（1 競技）

高等学校野球

2 会期及び会場地

(1) 正式競技・特別競技（11市、11町、2村：計24市町村）

会 期	会 場 地
2026年10月10日（土） ～10月20日（火） 〔11日間〕	青森市、弘前市、八戸市、黒石市、五所川原市、十和田市、三沢市、むつ市、つがる市、平川市、西目屋村、藤崎町、七戸町、六戸町、東北町、六ヶ所村、おいらせ町、五戸町、南部町、階上町、山梨県北杜市
2026年9月3日（木） ～9月13日（日） 〔11日間〕	青森市、弘前市、十和田市、三沢市、むつ市、平内町、西目屋村、野辺地町、六ヶ所村、宮城県利府町 ※ 水泳、ローイング、ホッケー、バレーボール（ビーチバレーボール）、体操、セーリング、ハンドボール、相撲、ライフル射撃、カヌー（スラローム・ワイルドウォーター）、クレ射撃、ゴルフ、トライアスロン競技会は上記会場地で実施
2026年10月2日（金） ～10月7日（水） 〔6日間〕	青森市、弘前市 ※ アーチェリー、高等学校野球競技会は上記会場地で実施

(2) 公開競技（3市2町：計5市町）

会 期	会 場 地
2026年8月8日（土） ～10月4日（日）	十和田市、三沢市、平川市、平内町、藤崎町

(3) デモンストレーションスポーツ（7市、16町、6村：計29市町村）

会 期	会 場 地
2026年5月10日（日） ～10月4日（日）	青森市、弘前市、八戸市、十和田市、三沢市、むつ市、平川市、今別町、蓬田村、外ヶ浜町、鯨ヶ沢町、深浦町、藤崎町、大鰐町、田舎館村、板柳町、鶴田町、中泊町、横浜町、東北町、おいらせ町、大間町、東通村、風間浦村、佐井村、三戸町、田子町、階上町、新郷村

(4) 文化プログラム

文化プログラムの実施については、「文化プログラム実施基準」に基づき、2026年1月1日から2026年12月31日までの期間で、原則として、県内市町村で開催する。

3 競技方法

各競技別実施要項に示す方法とし、正式競技は都道府県対抗で実施する。

4 ドーピング検査の実施

大会におけるアンチ・ドーピング活動（ドーピング検査及びアンチ・ドーピング教育活動）は、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構が定める「日本アンチ・ドーピング規程」及び別に定める「国民スポーツ大会アンチ・ドーピング活動に関するガイドライン」に基づき実施する。

なお、治療の目的で禁止物質・禁止方法を用いる必要がある場合は、事前に「治療使用特例」（TUE）の手続きを行うこと。

各都道府県の代表選手は、大会期間中は常に「国民スポーツ大会ドーピング検査同意書」を所持しなければならない。選手が18歳未満の場合、本人の署名及び親権者の署名がある同意書を所持すること。

5 参加資格、所属都道府県及び選手の年齢基準

選手及び監督の参加資格、所属都道府県及び選手の年齢基準は、次のとおりとする。

なお、参加資格については、「第80回国民スポーツ大会参加資格、所属都道府県及び年齢基準等の解釈・説明」を併せて確認すること。

【 公益財団法人日本スポーツ協会ホームページ <https://www.japan-sports.or.jp/> 】

(1) 参加資格

ア 日本国籍を有する者であることとするが、選手及び監督のうち、次の者については、日本国籍を有しない者であっても、大会に参加することができる。

(ア) 「出入国管理及び難民認定法」に定める在留資格のうち「永住者」（「日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法」に定める「特別永住者」を含む。）

(イ) 少年種別年齢域に該当し、次の要件をいずれも満たす者

- a 「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍する学生又は生徒で、「8 参加申込方法」で定めた本戦参加申込締切時に1年以上在籍していること。
- b 「出入国管理及び難民認定法」に定める在留資格のうち、「留学」、「家族滞在」又は「定住者」に該当していること。

(ウ) 成年種別年齢域に該当し、次の要件をいずれも満たす者

- a 少年種別年齢域にあった時点において前号(イ)に該当していた者であること。
- b 「出入国管理及び難民認定法」に定める在留資格のうち、大会参加時から終了時まで「留学」に該当しないこと。

[注] 上記(ウ)bについて、大学及び専修学校等に在籍する成年種別の年齢域に該当する者は、「出入国管理及び難民認定法」に定める「留学」以外の在留資格を有する場合も「留学」と同等に扱う。

イ 選手及び監督は、所属都道府県の当該競技団体会長（代表者）とスポーツ協会会長（代表者）が代表として認め、選抜した者であること。

ウ 第78回又は第79回大会（都道府県大会及びブロック大会を含む）において選手又は監督として参加した者は、次の場合を除き、第78回又は第79回大会と異なる都道府県から参加することはできない。

(ア) 成年種別

- a 「学校教育法」第1条に規定する学校を卒業した者
- b 結婚又は離婚に係る者

[注] a及びbは当該要件発生後、初めて参加するものに限る。

c ふるさと選手制度を活用する者（別記1「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」による。）

[注] 別記3「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」の適用を受け、ふるさと選手として参加する者を含む。

d 東日本大震災に係る参加資格特例措置を活用する者（別記5「東日本大震災に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。）

e 令和6年能登半島地震に係る参加資格特例措置を活用する者（別記6「令和6年能登

半島地震に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。)

(イ) 少年種別

a 「学校教育法」第1条に規定する学校を卒業した者

b 結婚又は離婚に係る者

c 一家転住に係る者(別記2『一家転住等』に伴う特例措置)による。)

[注] aからcは当該要件発生後、初めて参加するものに限る。

d JOC エリートアカデミーに在籍する者(別記3「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」による。)

e 東日本大震災に係る参加資格特例措置を活用する者(別記5「東日本大震災に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。)

f 令和6年能登半島地震に係る参加資格特別措置を活用する者(別記6「令和6年能登半島地震に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。)

エ 選手と監督の兼任は、同一種別内に限る。

オ 選手及び監督は、回数を同じくする大会において、冬季大会及び本大会にそれぞれ1競技に限り参加できる。

カ 選手及び監督は、回数を同じくする大会において、異なる都道府県から参加することはできない。

キ 選手、監督並びに本部役員帯同のスポーツドクター及びアスレティックトレーナーは、大会参加前の1年以内に公益財団法人日本スポーツ協会(以下「日本スポーツ協会」という。)が指定するアンチ・ドーピング教育を受講し、「国スポ本戦出場前のアンチ・ドーピング教育履歴」に記載した者であること。

ク 上記のほか、選手については次のとおりとする。

(ア) 都道府県大会及びブロック大会に参加し、これを通過した者であること。

(イ) 健康診断を受け、競技会への参加に支障がない者であること。

(ウ) ドーピング検査対象に選定された場合は、検査を受けなければならない。

ケ 上記のほか、監督については日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度に基づく競技別指導者資格を有する者とし、監督が不在の場合選手は参加することができない。各競技における対象資格については当該競技実施要項によるものとする。

(2) 所属都道府県

所属都道府県は、当該競技団体が限定する場合を除き、次のいずれかが属する都道府県から選択することができる。

ア 成年種別

(ア) 居住地を示す現住所

(イ) 勤務地

(ウ) ふるさと(別記1「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」による。)

[注] 別記3「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」の適用を受けふるさと選手として参加する者を含む。

イ 少年種別

(ア) 居住地を示す現住所

(イ) 「学校教育法」第1条に規定する学校の所在地(以下「学校所在地」という。)

(ウ) 勤務地

(エ) 別記3「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」に定める小学校の所在地

※ 「居住地を示す現住所」、「勤務地」、「学校所在地」のいずれかから参加する場合は、2026年4月30日以前から本大会終了時（2026年10月20日）まで、引き続き当該地に、それぞれ居住、勤務、又は通学していなければならない。ただし、次の者はこの限りではない。

[成年種別]

- a 別記4「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者
- b 別記5「東日本大震災に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者
- c 別記6「令和6年能登半島地震に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

[少年種別]

- a 別記2「『一家転住等』に伴う特例措置」の適用を受ける者
- b 別記4「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者
- c 別記5「東日本大震災に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者
- d 別記6「令和6年能登半島地震に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

(3) 選手の年齢基準

ア 選手の年齢基準については、下記を原則とする。

- (ア) 成年種別に参加する者は、2008年4月1日以前に生まれた者とする。
- (イ) 少年種別に参加する者は、2008年4月2日から2011年4月1日までに生まれた者とする。
- (ウ) 年齢を区分している種別へ参加する者の年齢計算は、2026年4月1日を基準とする。

イ 日本スポーツ協会が特に認める場合は、上記アにかかわらず、競技ごとに年齢区分を設定することができる。ただし、年齢の下限は中学3年生（2011年4月2日から2012年4月1日までに生まれた者）とする。

(4) 前記の各事項に疑義のあるときは、日本スポーツ協会及び当該競技団体が調査・審議の上、日本スポーツ協会がその可否を決定する

6 各正式競技の総合成績決定方法

各正式競技の総合成績決定方法は次のとおりとする。

(1) 次のア、イの得点を合計したものを男女総合成績（天皇杯得点）及び女子総合成績（皇后杯得点）とする。

ア 競技得点

競技得点は、各種別、種目などの第1位から第8位までの都道府県に与え、次のとおりとする。ただし、同順位の場合は、次の順位のものを加え、当該都道府県で等分し、割り切れない場合は、小数第3位以下を切り捨てる。

		1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
種別	4人以下	24点	21点	18点	15点	12点	9点	6点	3点
	5人以上7人以下	40点	35点	30点	25点	20点	15点	10点	5点
	8人以上	64点	56点	48点	40点	32点	24点	16点	8点
種目	—————	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点

[注] 「種別」：種別などに与える競技得点 「種目」：種目などに与える競技得点

イ 参加得点

参加得点は10点とし、大会（ブロック大会を含む。）に参加した都道府県に与える。

ただし、ブロック大会で本大会の出場権を獲得しながら、本大会に参加しなかった場合は与えない。

- (2) 各競技の総合成績は、当該競技団体が決定する。

ただし、天候その他の事情により一部競技が中止になった場合は、当該競技団体と大会総務委員会が協議する。

- (3) 参加資格違反等に関わる得点等の取り扱いについては、「国民スポーツ大会における違反に対する処分に関する規程」によるものとする。

7 表彰

- (1) 冬季大会及び本大会で実施した全正式競技の男女総合成績第1位の都道府県に天皇杯を、同じく女子総合成績第1位の都道府県に皇后杯をそれぞれ授与する。

- (2) 冬季大会及び本大会で実施した全正式競技の男女総合成績及び女子総合成績の第1位から第8位までの都道府県に、それぞれ表彰状を授与する。

- (3) 各正式競技の男女総合成績第1位の都道府県に、国民スポーツ大会会長トロフィーを授与する。

- (4) 各正式競技の男女総合成績及び女子総合成績の第1位から第8位までの都道府県に、それぞれ表彰状を授与する。

- (5) 各競技の各種別及び各種目などの第1位から第8位までに賞状を授与する。団体競技の場合は、その都道府県名とチーム全員（監督を含む）の氏名を記載したものを都道府県用に1枚、さらにその都道府県名と個人名を記載したもの、又は都道府県名とチーム全員（監督を含む）の氏名を記載したものをチーム全員に授与する。

- (6) 各正式競技及び特別競技の第1位から第3位までの選手にメダルを授与する。

8 参加申込方法

- (1) 参加申込

都道府県スポーツ協会会長（代表者）及び競技団体会長（代表者）は、連署の上、都道府県大会又はブロック大会において選抜された者及び公益財団法人日本高等学校野球連盟が選出したチームを、大会会長宛てに申込むものとする。

- (2) 参加申込締切

参加申込は、定められた締切日時までに国民スポーツ大会参加申込システムにより行う。

なお、各競技別実施要項の「参加申込方法」を併せて確認すること。

- (3) 参加申込締切日時

締切日時	競 技
2026 年 8 月 13 日（木） 午後 5 時 【15 競技】	水泳、ローイング、ホッケー、バレーボール（ビーチバレーボール）、体操、セーリング、ハンドボール、自転車、相撲、ライフル射撃、カヌー、クレール射撃、ボウリング、ゴルフ、トライアスロン

2026 年 9 月 3 日（木） 午後 5 時 【24 競技】	陸上競技、サッカー、テニス、バレーボール（6 人制）、バスケットボール、レスリング、ウェイトリフティング、ソフトテニス、卓球、軟式野球、馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、剣道、ラグビーフットボール、スポーツクライミング、アーチェリー、空手道、銃剣道、なぎなた、高等学校野球
---	---

(4) 参加申込様式

参加申込様式は、日本スポーツ協会が実施競技団体と協議の上、作成する。

(5) 公開競技の参加申込

公開競技については、別途当該中央競技団体が定める所定の手続きにより行う。

(6) 選手の交代

参加申込締切後の選手の交代は、特別な事情がない限り認めない。特別な事情で選手を交代する場合は、所定の様式、方法により次のア～ウ宛てに届け出なければならない。

ア 全国を統轄する各中央競技団体事務局

イ 青の煌めきあおもり国スポ・障スポ実行委員会事務局

ウ 青の煌めきあおもり国スポ・障スポ各競技会場地市町村実行委員会事務局

なお、日本スポーツ協会に対しては、大会終了後、所定の手続きにより参加申込情報を修正すること。

9 棄権手続

参加申込締切後から競技初戦までの間において、特別な事情で選手が競技会を棄権する場合には、所定の棄権手続きをとらなければならない。

なお、棄権手続きに係る届出については選手交代届と同じ様式を用いること。

10 大会参加負担金

(1) 大会に参加選手団（視察員を除く）を派遣する都道府県スポーツ協会は、大会参加負担金を納入する。一人あたりの大会参加負担金の額は下記のとおりとする。

区 分	負 担 金
少年の種別に参加する選手	3, 0 0 0 円
上記以外の者（本部役員、監督、成年の種別に参加する選手等）	6, 0 0 0 円

[注] 地震、風水害、感染症及びその他主催者の責によらない事由により大会を中止した場合、大会参加負担金の返金を行わない。

(2) 大会参加負担金は、都道府県スポーツ協会に取りまとめ、次のとおり納入する。

ア 納入期限 2026 年 9 月 4 日（金）

イ 納入先 みずほ銀行 渋谷支店 普通預金口座 513729
公益財団法人日本スポーツ協会

11 宿泊申込

大会参加者は、青の煌めきあおもり国スポ・障スポ実行委員会が指定した所定の様式により、定められた締切日までに申込む。

12 都道府県選手団本部役員編成

- (1) 都道府県選手団本部役員は、次のとおりとする。
 - ア 参加選手 500 名以上の場合、団長、総監督及び総務ほか、計 20 名以内とする。
 - イ 参加選手 300 名以上 500 名未満の場合、団長、総監督及び総務ほか、計 15 名以内とする。
 - ウ 参加選手 300 名未満の場合、団長、総監督及び総務ほか、計 10 名以内とする。
- (2) 上記役員のほか、5 名以内の顧問を設けることができる。
- (3) 上記(1)及び(2)による本部役員総数の範囲内で、スポーツドクターを帯同するものとする。

なお、帯同するスポーツドクターは日本スポーツ協会公認スポーツドクター資格を有する者とする。
- (4) 上記(1)及び(2)による本部役員総数の範囲内で、原則としてアスレティックトレーナーを帯同するものとする。

なお、帯同するアスレティックトレーナーは日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格を有する者とする。
- (5) 都道府県選手団本部役員の 1 日あたりの編成人数については、上記(1)及び(2)による人数を上限とする。
- (6) 都道府県選手団本部役員の参加申込は、2026 年 9 月 3 日（木）午後 5 時までに国民スポーツ大会参加申込システムにより行う。

13 視察員

- (1) 視察員は、1 都道府県 3 名以内とする。ただし、2027 年以降の国民スポーツ大会の開催が決定又は内定している県については、宮崎県 100 名以内、長野県及び群馬県 60 名以内、島根県及び奈良県 40 名以内とする。
- (2) 都道府県の視察員の参加申込は、2026 年 9 月 3 日（木）午後 5 時までに国民スポーツ大会参加申込システムにより行う。

14 参加章及び AD カードの交付

参加章及び AD カードは、次の者に交付する。

- (1) 参加章
 - ア 都道府県選手団の本部役員、監督及び選手
 - イ 大会役員、競技会役員及び競技団体が指定した競技役員
 - ウ 公開競技及びデモンストレーションスポーツ参加者
- (2) AD カード（Accreditation Card）
 - ア 都道府県選手団
 - イ 大会役員、競技会役員及び競技団体が指定した競技役員
 - ウ 大会主催者及び競技会主催者が認めた者
 - エ 公開競技に参加する選手、監督及び役員

15 参加上の注意

- (1) 大会期間中は、交付された AD カードを携帯しなければならない。
- (2) 各都道府県の代表選手は、競技に際し、「国民スポーツ大会ユニフォーム規程」に基づき、ユニフォームを着用しなければならない。

16 個人情報及び肖像権に関わる取り扱い

日本スポーツ協会、青の煌めきあおもり国スポ・障スポ実行委員会、青の煌めきあおもり国スポ・障スポ各競技会場地市町村実行委員会及び国民スポーツ大会実施競技中央競技団体（以下「国スポ関係機関・団体」という。）は、参加申込等を通じて取得する個人情報及び肖像権の取り扱いに関して以下のとおり対応するものとする。

(1) 個人情報の取り扱い

ア 利用目的

大会参加申込として国民スポーツ大会参加申込システムへ登録された個人情報は、国スポ関係機関・団体において、参加資格の確認や競技組合せなどをはじめとする大会運営業務のために利用し、目的以外に利用しない。

イ 公表の範囲と方法

個人情報のうち、所属都道府県、氏名、性別、年齢、学校名、チーム名等、所属と個人を識別するために必要な情報については、以下の方法等により公表することがある。

- (ア) 総合プログラム及び競技別プログラムへの掲載
- (イ) 競技会場内におけるアナウンス等による紹介
- (ウ) 競技会場内外の掲示板等への掲載
- (エ) 大会関連ホームページへの掲載
- (オ) 報道機関への提供

ウ 競技結果（記録）等

競技結果（記録）については、上記イで定めた個人情報とともに、以下の方法等により公表することがある。

- (ア) 青の煌めきあおもり国スポ・障スポ実行委員会が設置する記録本部を通じた公開
- (イ) 国スポ関係機関・団体及び報道機関等による新聞・雑誌及び関連ホームページ等への掲載
- (ウ) 国スポ関係機関・団体が作成する大会報告書等への掲載
- (エ) 次回以降の大会プログラムへの掲載【新記録、優勝及び上位入賞結果（記録）等】

(2) 肖像権に関する取り扱い

ア 写真

国スポ関係機関・団体又はこれらに認められた報道機関等によって撮影された写真が、新聞・雑誌・報告書及び関連ホームページ等で公開されることがある。

イ 写真（写真撮影企業等）

国スポ関係機関・団体に認められた写真撮影企業等によって撮影された写真等が販売されることがある。

なお、各競技・会場における販売の有無等の詳細は、当該中央競技団体を中心に対応する。

ウ 映像

国スポ関係機関・団体又はこれらに認められた報道機関等によって撮影された映像が、中継・録画放映及びインターネットによって配信されることがある。また、DVD 等に編集され、販売・配付されることがある。

(3) 対応

ア 承諾の確認

大会参加申込として国民スポーツ大会参加申込システムへ登録された時点で、上記取り扱いに関する承諾を得たものとして対応する。

なお、各競技会における取り扱いに伴い、別途、当該中央競技団体等によって個別に承諾

を確認することがある。

イ 役員等

大会役員、競技役員、運営役員、その他各種委員や補助員、国スポ関係機関・団体と大会に関する契約をしている者及び大会運営関係者については、上記取り扱いに関する承諾を得たものとして対応する。

17 都道府県大会及びブロック大会

正式競技については、本大会の予選として次のとおり都道府県大会（ブロック大会）を開催しなければならない。

- (1) 都道府県の主催団体は、必要に応じて日本スポーツ協会及び中央競技団体等関係団体と協議の上、本要項に基づき実施要項を作成する。

なお、日本スポーツ協会及び中央競技団体は、その内容に不備がある場合、適宜指導を行うものとする。

- (2) 都道府県大会の実施にあたり、当該都道府県主催団体は、適正な手続きに則り決定した代表選手の選抜方法・選考基準について、予め関係者に周知徹底を図るものとする。

- (3) 参加者は、実施要項に基づき当該主催団体に申込み。

なお、参加は、回数を同じくする大会において、冬季大会及び本大会にそれぞれ1競技に限り参加できる。

- (4) ブロック大会の申込みは、原則として国民スポーツ大会参加申込システムにより行い、様式は日本スポーツ協会及び当該主催団体が協議の上、作成する。

なお、参加申込システムを使用しない場合の様式については、当該主催団体において別途作成する。

- (5) 都道府県大会の参加申込様式は、当該主催団体において作成する。

- (6) 参加料を徴収する場合の金額は、当該主催団体が中央競技団体と協議の上、定める。

- (7) 競技運営に差し支えない限り、青森県選手は当該競技ブロック大会を経ることなく本大会に参加することができる。

18 国民スポーツ大会参加者傷害補償制度

日本スポーツ協会及び都道府県スポーツ協会は、国民スポーツ大会参加者に対する社会的責任体制を整えるとともに、大会参加者の相互扶助の精神に基づいた補償制度として大会参加者による国民スポーツ大会参加者傷害補償制度を運営する。

- (1) 本制度の対象となる参加者は、ブロック大会及び本大会に参加する本制度給付規定に定められた選手、監督、選手団本部役員（顧問を含む）、視察員並びにその他選手団役員とする。

- (2) 大会参加の都道府県スポーツ協会は、国民スポーツ大会参加者傷害補償制度の対象となる参加者数に応じた制度負担金（一人あたり1,000円）を、日本スポーツ協会に納入する。

- (3) 納入締切日及び納入先については、別途日本スポーツ協会から都道府県スポーツ協会へ通知する。

19 青の煌めきあおもり国スポの実施目標

- (1) スポーツによる感動の創出と地域へのスポーツの定着

スポーツを「する」「みる」「ささえる」など多様な場面で、感動が創出されることによ

り、県民の誰もがスポーツに関わる楽しさを感じることができる環境が整備されるとともに、県内各地で地域住民がスポーツに取り組む習慣が身につき、スポーツが地域に定着する大会とする。

(2) 自発的、積極的な県民参加による地域の活性化

県民一人ひとりが、開催準備に自発的、積極的に参加するとともに、スポーツを通じた健康づくりなどに一丸となって取り組むことにより、全ての県民が心身ともに健康な状態で大会を迎え、その後も各地域が元気で活力に満ちた姿となる大会とする。

(3) 来県者への熱い心でのおもてなしとあらゆる魅力の発信

大会に参加する選手・監督・役員・応援者など数多くの来県者を熱いおもてなしの心で迎えるとともに、大会期間を通して本県のあらゆる魅力を体感していただくことにより、再び本県を訪問したいという気持ちを喚起する大会とする。

(4) 北国ならではの大会運営

北国ならではの気象条件を考慮し、総合開・閉会式を屋内開催とするとともに、競技特性も考慮の上、会期前競技を多く設定することなどにより選手ファーストを意識した大会とする。

20 その他

(1) 参加申込及び宿泊申込が、定められた締切日までに行われない場合、又は、参加負担金が定められた納入期限までに納入されない場合は、本大会への参加を認めない。

(2) 大会運営にあたり、選手・観客・大会関係者への安全を最優先に配慮し、気象状況・感染状況・交通状況・テロ行為等の各種災害に伴い、安全確保が見込めないと主催者が判断した場合は、主催者の指示に従うものとする。また、安全確保のために、参加申込システムに登録された以外の個人情報を取得する場合がある。取得した情報については、目的以外に利用しない。

(3) その他の事項については、国民スポーツ大会開催基準要項及び同細則による。

別記 1 「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」

- 1 成年種別年齢域の選手は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項〔国民スポーツ大会開催基準要項第8項第1号及び第10項第4号（参加資格及び年齢基準等）〕に基づき、下記のいずれかを拠点とした都道府県から参加することができる。
 - (1) 居住地を示す現住所
 - (2) 勤務地
 - (3) ふるさと
- 2 「ふるさと」とは、卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校のいずれかの所在地が属する都道府県とする。

ただし、JOC エリートアカデミーに係る選手については、別に定める「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」第3項により取り扱うものとする。
- 3 我が国の競技力向上を支援する観点より、日本国籍を有する者及び「永住者」については、日本における滞在期間に関わらず、本制度を活用できるものとする。ただし、「日本国籍を有する者及び『永住者』」に該当しない者であっても、当該大会年の4月30日（冬季大会は前年の4月30日）以前から本大会終了時（冬季大会は各競技会終了時）まで継続的に日本に滞在している場合は、本制度を活用できるものとする。なお、やむを得ない事情により、一時的に日本を離れる場合は、総日数の半数を超えて日本で滞在していること。
- 4 「ふるさと選手制度」を活用し参加を希望する選手は、予め所定の方法により「ふるさと」を登録しなければならない。なお、一度登録した「ふるさと」は変更できないものとする。
- 5 「ふるさと」から参加する選手は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項－(1)－1)－③（国内移動選手の制限）に抵触しないものとする。
- 6 ふるさと選手制度の活用については、原則として、1回につき2年以上連続とし、利用できる回数は2回までとする。
- 7 参加都道府県は「ふるさと選手」を所定の様式、方法により、当該大会実施要項で定めた参加申込締切期日までに、日本スポーツ協会宛てに提出する。

別記2 「『一家転住等』に伴う特例措置」

転校への特例

- 1 次の内容をすべて満たすことにより、国内移動選手の制限（国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項－(1)－1)－③）に抵触しないものとする。
 - (1) この特例の対象は、「少年種別」への参加者に限る。
 - (2) 本特例を受けることができるのは、一家転住等やむを得ない理由に限ることとする。
なお「一家転住等」とは概ね次のことを言う。
 - ア 親の転勤による一家の転居
 - イ 親の結婚、離婚による一家の転居
 - ウ 上記以外に、やむを得ない理由による一家の転居
 - (3) 転居した時点に応じて、以下の手続きを終了していること。
 - ア 本特例を受けようとする参加者は、下記2(1)の場合は転居元、下記2(2)の場合は転居先が属する都道府県スポーツ協会及び都道府県競技団体に対し、その旨報告すること。
 - イ 報告を受けた都道府県スポーツ協会及び都道府県競技団体は、下記2(1)の場合は転居先、下記2(2)の場合は転居元が属する都道府県スポーツ協会及び都道府県競技団体に対し、その旨報告し了承を得ること。
- 2 本特例を受ける当該大会において、参加することができる都道府県は以下のとおりとする。
 - (1) 転居した時点において、以下に該当する場合は転居元が属する都道府県から参加することができる。
 - ア 転居先が属する都道府県の代表が既に決定している場合
 - イ 当該参加者が、転居元が属する都道府県の代表として既に決定している場合
 - ウ 当該参加者が、転居元が属する都道府県の代表選考過程にある場合
 - (2) 転居した時点において、以下に該当する場合は転居先が属する都道府県から参加することができる。
 - ア 転居元が属する都道府県において、当該大会における都道府県代表の選考が開始されていない場合

別記3 「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」

公益財団法人日本オリンピック委員会が実施する「JOC エリートアカデミー」に係る選手のうち、下記1に該当する者については、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項〔国民スポーツ大会開催基準要項第8項第1号及び第10項第4号（参加資格及び年齢基準等）〕及び別記1「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」に関し、次の2～4の特例を適用する。

1 対象者

- (1) 少年種別年齢域の選手で JOC エリートアカデミーに在籍する者
- (2) 成年種別年齢域の選手で JOC エリートアカデミーを修了した者、又は同アカデミーに在籍する者

2 少年種別年齢域の選手の所属都道府県

本特例第1項－(1)に定める少年種別年齢域の選手は、その所属都道府県について、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項－(1)－2)－②に定める「居住地を示す現住所」、「学校教育法第1条に規定する学校の所在地」、「勤務地」のほか、卒業小学校の所在地が属する都道府県を選択することができる。

なお、同アカデミーへの入校時において小学生であった場合には、入校する直前まで通学していた小学校の所在地が属する都道府県を選択することができる。

3 成年種別年齢域の選手の「ふるさと」

本特例第1項－(2)に定める成年種別年齢域の選手は、「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」第2項に定める卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校のいずれかの所在地が属する都道府県のほか、同アカデミーでの入校時において小学生であった場合には、入校する直前まで通学していた小学校の所在地が属する都道府県を「ふるさと」とすることができる。

4 国内移動選手の制限に係る例外適用

本特例第1項－(1)に定める少年種別年齢域の選手が前回の大会（都道府県大会を含む）と異なる都道府県から参加する場合、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項－(1)－1)－③（国内移動選手の制限）に抵触しないものとする。

[注] 本特例第1項－(2)に定める成年種別年齢域の選手については、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項－(1)－1)－③（国内移動選手の制限）の規定に従い取り扱うものとする。

5 その他

中央競技団体が国際競技力向上施策として独自に実施するアカデミー事業については、当該中央競技団体からの申請を踏まえ、当該事業の内容が JOC エリートアカデミーに準拠し実施されていることが、公益財団法人日本オリンピック委員会により確認された場合に限り、国民スポーツ大会委員会の決議を経て当該事業を本特例の対象に加えることができる。

別記4 「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置」

我が国の競技力向上を支援する観点より、一定の競技力を有する選手に対して、「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置（以下「本特例」という。）」を下記のとおり定める。

1 特例の対象となる選手

本特例の対象となる選手は、下記の条件のいずれかを満たす者とする。

- (1) 第33回オリンピック競技大会（2024年・パリ）に参加した者。
- (2) 2026年4月30日時点で、下記のいずれかに該当し、各中央競技団体が本特例の対象として認めた者

ア JOC オリンピック強化指定選手

イ 各競技（種目）における国内ランキング上位10位以内の者

ウ 中央競技団体が定めた強化指定選手

※ 強化指定ランクについては、各競技における全日本選手権大会入賞レベル以上のカテゴリーを対象とする。

2 特例の内容

(1) 予選会の免除

本特例の対象となる選手については、都道府県予選会及びブロック大会を経ずに国民スポーツ大会本大会に参加することができるものとする。ただし、ブロック大会実施競技種目・種別においては、当該都道府県代表選手又はチームがブロック大会に参加し、本大会参加枠を獲得している場合とする。

(2) 資格要件（日数要件の緩和）

本特例の対象となる選手が所属都道府県として「居住地を示す現住所」又は「勤務地」を選択する場合は、日数に関する要件を定めないこととし、以下のとおりとする。

ア 居住地を示す現住所

次の要件をいずれも満たすものとする。

- (ア) 2026年4月30日以前から大会終了時（2026年10月20日）まで引き続き、住民票記載の住所に存する都道府県において生活している実態があり、当該都道府県以外（海外を含む）において生活している実態がないこと。

なお、生活の実態については、下記要件により判断する。

- a 自ら所有する住居、又は自らの名義で住居を賃借していること
- b 当該住居に生計を一にする家族と共に住んでいること
- c 当該住居の水道光熱費など費用を自ら負担していること
- d 当該住居に主要な家財道具が存すること

- (イ) 合宿、試合等により当該都道府県外で活動を行う場合、当該都道府県を移動の起点としていること。

イ 勤務地

次の要件をいずれも満たすものとする。

- (ア) 2026年4月30日以前から大会終了時（2026年10月20日）まで引き続き、雇用主と雇用契約を締結した上で、当該都道府県内に存する雇用主の会社や事業所等に現実に通勤し、勤務していること。
- (イ) 当該都道府県内で、競技普及活動等の事業に参加すること。

3 国内移動選手の制限

本特例の対象となる選手の国内移動選手の制限については、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項－(1)－1)－③のとおりとする。

別記5 「東日本大震災に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」

1 特例の対象となる被災地域都道府県

震災による被害状況及び影響等を総合的に勘案し、青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県の6県を本特例の適用対象となる被災地域都道府県（以下「特例対象県」という。）とする。

なお、特例対象県以外の都道府県において対応が必要となった場合は、個別に取り扱うこととする。

2 特例の内容

(1) 特例対象県を所属都道府県とする場合の要件緩和

以下の選手及び監督については、「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」の各要件を満たしていなくとも、当該特例対象県から参加することができる。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県における「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」の各要件を満たすことができなかった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

ア 2011年3月11日（震災発生時）時点において、当該特例対象県内に居住又は勤務していた者。若しくは当該特例対象県内の「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍していた者であること。

イ 災害が発生しなかったと仮定した場合、2026年4月30日以前から大会終了時（2026年10月20日）まで継続して当該特例対象県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする要件を満たしていたと合理的に推測される者であること。

(2) 避難等による移動先の都道府県を所属都道府県とする場合の要件緩和

ア 被災地域からの避難等により、当該特例対象県と異なる都道府県に移動した以下の選手及び監督については、移動先の都道府県から参加することができる。

なお、この場合、第78回又は第79回大会に当該特例対象県から参加していても、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項－(1)－1)－③（国内移動選手の制限）には抵触しないものとする。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県から移動せざるを得なかった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

(ア) 2011年3月11日時点において、当該特例対象県内に居住又は勤務していた者。若しくは当該特例対象県内の「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍していた者であること。

(イ) 移動先の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする要件を満たしていること。

なお、移動が生じた時期が2026年4月30日以降の場合は、移動先の都道府県の予選会開始までに要件を満たしていることとする。

[注] 「居住地を示す現住所」及び「学校所在地」として参加を希望する者については、当該自治体への住所に関する届出又は学籍に係る要件を満たしていなくとも、それに準ずる公的な証明書類を提出でき、かつ移動先の都道府県に居住あるいは通学している実態を有していると日本スポーツ協会が認めた場合、移動先の都道府県から出場す

ることができる。

イ 本項アを適用して避難等による移動先の都道府県から第 79 回大会又は第 80 回大会に参加した者が、第 81 回大会において、以下のような震災にかかる理由により再度都道府県を移動して参加する場合は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第 3 項－(1)－1)－③（国内移動選手の制限）には抵触しないものとする。

＜例＞ ○ 避難先を離れ、当該特例対象県に戻る場合

○ 避難先を離れ、他の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする場合

○ 他の都道府県に避難先を移す場合

(3) 避難等による移動先の属する都道府県において学校を卒業した場合の「ふるさと」選択要件の緩和

避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校又は高等学校を卒業した者が、成年種別年齢域に達した際、「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」を活用して参加する場合、以下のいずれかを「ふるさと」として登録することができる。

ア 卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校の所在地

イ 災害の発生した時点で在籍していた小学校、中学校又は高等学校の所在地

なお、本特例を適用して上記イの学校所在地を「ふるさと」として登録した場合についても、卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校の所在地を「ふるさと」とする場合と同様、一度登録した「ふるさと」は変更できない。

【特例の対象者】

2011年度から2012年度（小学校は2015年度）までに、避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校又は高等学校を卒業した者。

別記6 「令和6年能登半島地震に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」

1 特例の対象となる被災地域都道府県

震災による被害状況及び影響等を総合的に勘案し、新潟県、富山県、石川県、福井県の4県を本特例の適用対象となる被災地域都道府県（以下「特例対象県」という。）とする。

なお、特例対象県以外の都道府県において対応が必要となった場合は、個別に取り扱うこととする。

2 特例の内容

(1) 特例対象県を所属都道府県とする場合の要件緩和

以下の選手及び監督については、「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」の各要件を満たしていなくとも、当該特例対象県から参加することができる。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県における「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」の各要件を満たすことができなくなった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

ア 2024年1月1日（震災発生時）時点において、当該特例対象県内に居住又は勤務していた者。若しくは当該特例対象県内の「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍していた者であること。

イ 災害が発生しなかったと仮定した場合、2026年4月30日以前から当該大会終了時（2026年10月20日）まで継続して当該特例対象県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする要件を満たしていたと合理的に推測される者であること。

(2) 避難等による移動先の都道府県を所属都道府県とする場合の要件緩和

ア 被災地域からの避難等により、当該特例対象県と異なる都道府県に移動した以下の選手及び監督については、移動先の都道府県から参加することができる。

なお、この場合、第78回大会又は第79回大会に、当該特例対象県から参加していても、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項－(1)－1)－③（国内移動選手の制限）には抵触しないものとする。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県から移動せざるを得なかった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

(ア) 2024年1月1日時点において、当該特例対象県内に居住又は勤務していた者。若しくは当該特例対象県内の「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍していた者であること。

(イ) 移動先の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする要件を満たしていること。

なお、移動が生じた時期が2026年4月30日以降の場合は、移動先の都道府県の予選会開始までに要件を満たしていることとする。

[注] 「居住地を示す現住所」及び「学校所在地」として参加を希望する者については、当該自治体への住所に関する届出又は学籍に係る要件を満たしていなくとも、それに準ずる公的な証明書類を提出でき、かつ移動先の都道府県に居住あるいは通学してい

る実態を有していると日本スポーツ協会が認めた場合、移動先の都道府県から出場することができる。

イ 本項アを適用して避難等による移動先の都道府県から第 79 回大会又は第 80 回大会に参加した者が、第 81 回大会において、以下のような震災に係る理由により再度都道府県を移動して参加する場合は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第 3 項－(1)－1)－③（国内移動選手の制限）には抵触しないものとする。

＜例＞ ○ 避難先を離れ、当該特例対象県に戻る場合

○ 避難先を離れ、他の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする場合

○ 他の都道府県に避難先を移す場合

(3) 避難等による移動先の属する都道府県において学校を卒業した場合の「ふるさと」選択要件の緩和

避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校又は高等学校を卒業した者が、成年種別年齢域に達した際、「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」を活用して参加する場合、以下のいずれかを「ふるさと」として登録することができる。

ア 卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校の所在地

イ 災害の発生した時点で在籍していた小学校、中学校又は高等学校の所在地

なお、本特例を適用して上記イの学校所在地を「ふるさと」として登録した場合についても、卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校の所在地を「ふるさと」とする場合と同様、一度登録した「ふるさと」は変更できない。

【特例の対象者】

2024年度から2025年度（小学校は2028年度）までに、避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校又は高等学校を卒業した者。

〔11〕セーリング競技

1 期 日

2026年9月4日（金）から9月7日（月）まで（4日間）

月 日	時 間	内 容
9月2日（水）	8:30～17:00	大会装備検査（大平マリーナ・しもきた克雪ドーム）
9月3日（木）	8:30～10:00	大会装備検査予備日（大平マリーナ・しもきた克雪ドーム）
	16:00～17:30	大会会長トロフィー返還・監督会議（むつマエダアリーナ）
9月7日（月）	13:00～13:30	種目別表彰式（むつマエダアリーナ）
	13:45～14:15	
	14:30～15:10	総合表彰式（むつマエダアリーナ）

月 日	予告信号 時 刻	A海面		予告信号 時 刻	B海面	
9月3日 （木）	11:25	少年男子420級	トライアルレース	11:25	少年男子ILCA6級	トライアルレース
	11:32	少年女子420級	トライアルレース	11:32	少年女子ILCA6級	トライアルレース
	11:39	成年女子ILCA6級	トライアルレース	12:25	成年女子セーリングスピリッツ級	トライアルレース
	12:55	成年男子470級	トライアルレース	13:25	成年男子国⾒ [®] ウインドサーフィン級	トライアルレース
	13:02	成年男子ILCA7級	トライアルレース	13:32	成年女子国⾒ [®] ウインドサーフィン級	トライアルレース
9月4日 （金）	9:55	少年男子420級	第1レース	9:55	少年男子ILCA6級	第1レース
	10:02	少年女子420級	第1レース	10:02	少年女子ILCA6級	第1レース
	10:09	成年女子ILCA6級	第1レース			
	引続き	少年男子420級	第2レース	引続き	少年男子ILCA6級	第2レース
		少年女子420級	第2レース		少年女子ILCA6級	第2レース
		成年女子ILCA6級	第2レース			
	12:55	成年男子470級	第1レース	11:55	成年女子セーリングスピリッツ級	第1レース
9月5日 （土）	13:02	成年男子ILCA7級	第1レース	引続き	成年女子セーリングスピリッツ級	第2レース
	引続き	成年男子470級	第2レース	14:25	成年男子国⾒ [®] ウインドサーフィン級	第1レース
		成年男子ILCA7級	第2レース	14:32	成年女子国⾒ [®] ウインドサーフィン級	第1レース
				引続き	成年男子国⾒ [®] ウインドサーフィン級	第2レース
					成年女子国⾒ [®] ウインドサーフィン級	第2レース
9月6日 （日）	9:55	成年男子470級	第3レース	9:55	成年女子セーリングスピリッツ級	第3レース
	10:02	成年男子ILCA7級	第3レース	引続き	成年女子セーリングスピリッツ級	第4レース
	引続き	成年男子470級	第4レース	11:55	少年男子ILCA6級	第3レース
		成年男子ILCA7級	第4レース	12:02	少年女子ILCA6級	第3レース
				引続き	少年男子ILCA6級	第4レース
					少年女子ILCA6級	第4レース
	12:55	少年男子420級	第3レース	14:25	成年男子国⾒ [®] ウインドサーフィン級	第3レース
9月7日 （月）	13:02	少年女子420級	第3レース	14:32	成年女子国⾒ [®] ウインドサーフィン級	第3レース
	13:09	成年女子ILCA6級	第3レース			
	引続き	少年男子420級	第4レース	引続き	成年男子国⾒ [®] ウインドサーフィン級	第4レース
		少年女子420級	第4レース		成年女子国⾒ [®] ウインドサーフィン級	第4レース
		成年女子ILCA6級	第4レース			
9月6日 （日）	9:55	少年男子420級	第5レース	9:55	少年男子ILCA6級	第5レース
	10:02	少年女子420級	第5レース	10:02	少年女子ILCA6級	第5レース
	10:09	成年女子ILCA6級	第5レース			
	引続き	成年女子ILCA6級	第6レース	11:25	成年女子セーリングスピリッツ級	第5レース
				引続き	成年女子セーリングスピリッツ級	第6レース
9月7日 （月）	12:55	成年男子470級	第5レース	13:55	成年男子国⾒ [®] ウインドサーフィン級	第5レース
	13:02	成年男子ILCA7級	第5レース	14:02	成年女子国⾒ [®] ウインドサーフィン級	第5レース
	引続き	成年男子470級	第6レース	引続き	成年男子国⾒ [®] ウインドサーフィン級	第6レース
		成年男子ILCA7級	第6レース		成年女子国⾒ [®] ウインドサーフィン級	第6レース
9月7日 （月）	9:55	少年男子420級	第6レース	9:55	少年男子ILCA6級	第6レース
	10:02	少年女子420級	第6レース	10:02	少年女子ILCA6級	第6レース

- (1) 各海面の引続き行うレースは、その前のレースの各種目終了後引続き行う。
- (2) 天候等の事情により、競技日程及びレース海面はレース委員会において変更することがある。
- (3) 9月7日（月）には、10時30分より後に予告信号を発しない。

2 会 場 むつ市 大平マリーナ

3 種別（種目）及び参加人員

種 別	種 目	1艇当りの乗員数	艇数	監督	選手	参加都道府県	計（人）
成年男子	470級	2	1	1	2	47	703
	ILCA7級	1	1		1		
	国スポウインドサーフィン級	1	1		1		
成年女子	セーリングスピリッツ級	2	1		2		
	ILCA6級	1	1	1	1		
	国スポウインドサーフィン級	1	1		1		
少年男子	420級	2	1		2		
	ILCA6級	1	1		1		
少年女子	420級	2	1		2		
	ILCA6級	1	1		1		

- (1) 参加人員が703名を超えるときは、日本セーリング連盟が調整する。
- (2) 成年種別は選手が監督を兼任することができる。
- (3) 各種目で使用する艇及びボードは選手が所有するもの、都道府県が所有するもの、又はチャーターしたもので、参加都道府県が持参するものとする。なお、チャーター艇の場合は所有者からの証明を必要とする。

会場に持ち込める各級の艇体数は、参加申込みが完了した種目の艇数とする。

なお、各種別（種目）の大会装備検査（以下検査）で検査に合格した艇及びセールは変更、交換することはできない。ただし、損傷等によりテクニカル委員会が認めた場合を除く。

また、支援者艇の持込みは参加都道府県毎に1艇とし、参加申込時に登録（記載）しなければならない。

(4) 個人用浮揚用具（PFD）に関する規程

ア クラス規則に規定されたものを使用すること。

イ クラス規則に規定がないクラスにあっては、すべての乗員は以下の要件を満たしたものをを使用すること。

- a. IS012402-5 又は同等品（USCGTypeⅢ、AS4758LEVEL50、EN393 は同等品と認められる）
- b. 膨張式でないこと

ウ 体形・体重に合致したサイズ表示と浮力表示が明示されていること。

エ 浮力材の抜き取り等の改造を施したり、表地に破れ等の破損があるものは認められない（補修したものも含む）。

4 競技上の規程及び方法

[NP]の表記は、その規則の違反は艇による抗議の根拠とならないことを意味する。これはRRS60.1を変更している。

[DP]の表記は、その規則の違反に対するペナルティーをプロテスト委員会の裁量により失格より軽減することができることを意味する。

- (1) 2025-2028 セーリング競技規則（以下「RRS」という。）に定義された規則を適用する。

なお、本実施要項は、RRSにおけるレース公示に該当するものである。

RRS の定義：規則（g）に基づく大会を管理するその他の文書には、サポートチーム規程（STR）及び大会装備規程が含まれる。

[NP] [DP]本大会は、公益財団法人日本スポーツ協会の「国民スポーツ大会企業協賛に関するガイドライン」（令和6年1月1日改正）に基づき、一切の広告を制限する。

- (2) 帆走するコースは、トラペゾイド・コース又は風上/風下コースを予定しており、詳細は帆走指示書に記載する。

- (3) 天候その他の事情により各種別・種目6回のレースが実施できなかった場合でも、それぞれの種別・種目でレースが1回以上完了していれば、その種別・種目は成立とする。

- (4) 本大会における上告の権利は、RRS70.3(c)及び日本セーリング連盟規程5.4に基づき否認される。

- (5) 470級及び420級の各種目に使用する艇は、所定の計測証明書（使用するセール番号が艇体に割り当てられたセール番号と異なる場合は、それぞれの計測証明書）を持参するものとする。

470級及び420級のセールについては、基本計測を終了しクラス規則に適合していることを示すステッカー又はスタンプ及び公式計測員のサインと計測を行った日付が記載されていること。

- (6) レースに使用する艇は、クラス規則に合致していなければならない。また、470級及び420級は計測証明書及びメジャメントフォームにも合致していなければならない（RRS78 参照）。さらに、レース前にテクニカル委員会による検査を受け、承認を得たものに限られる。

すべての艇は検査終了後から最終レース終了まで常にクラス規則に従っていなければならない。各種目共、各レース終了後に任意に抜き取り、海上又は陸上で計測を行うことがある。

- (7) 検査を受けられるセールの数は、参加申込みが完了した種目につき1セットとする。ただし、国スポウインドサーフィン級は、2枚のセールの使用を許可する。

また、異なる種別であっても同一のセール番号は使用できない。

使用するセール番号が艇体に割り当てられたセール番号と違う場合は、使用するセールに対応する艇体が競技者所有または都道府県所有でその艇体を本大会で使用しない場合に限り認められる。その場合、確かに所有しているという事実は選手によって証明されなくてはならない。

- (8) [DP] I L C A 7級及びI L C A 6級は水上にいる間は、水に浮く直径6mm、長さ8m以上の曳航用のロープをバウ・アイにつけておかなければならない。

- (9) セーリングスピリッツ級、I L C A 7級、I L C A 6級の艇は、マストトップに着脱可能な浮力体を取りつけてもよい。形状は球形に限り、1か所のロープで取り付けなければならない。ただし、コンディションにより付けたり外したりしてもよい

- (10) 国スポウインドサーフィン級は、マストの本数は制限しない。

- (11) レース前の検査時には、艇は乾燥した状態でなければならない。

- (12) 検査後の艇は、テクニカル委員会の許可なく装備の修理及び交換をすることができない。また、テクニカル委員会の承諾なしにハーバーより持ち出してはならない。検査済みの艇に、破損その他事故が生じたときは、テクニカル委員会の承認により、改めて検査を受けたものだけに限り、使用を許されることがある。
- (13) レース艇の損傷等については、テクニカル委員会の承認後、各都道府県の責任において対応しなければならない。
- (14) [NP] [DP]各種目のセールには、県名と県番号を付けていなければならない。県名（片面・スターボード側）は、470級、セーリングスピリッツ級、420級は1字 450 mm×450 mmで太さ 40 mm、国スポウインドサーフィン級、ILCA7級、ILCA6級は1字 380 mm×380 mmで太さ 32 mm、県番号（両面・スターボード側上）は、1字 270 mm×150 mmで太さ 40 mmとし、色は黒色で一定の太さで書かれたものであること。なお、各寸法はプラスマイナス5%の許容差を認める。

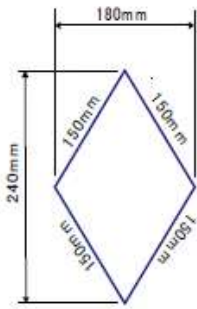
ただし、国スポウインドサーフィン級及びセーリングスピリッツ級（マイラーセール使用）のセールは、実行委員会が用意する白地のセールクロスの上に、県番号を貼付しなければならない。

なお、白地のセールクロスは受付時に配布する。配布された白地のセールクロスは加工してはならない。

- (15) [NP] [DP]セール上の識別

識別マーク（ひし形）は実行委員会が用意し、受付時に配布する。識別マークを両面の同じ位置に表示しなければならない。

なお、クラス規則に従った識別マークが表示されている場合は、そのまま使用してもよい。

種 別	種 目	色	形 状
成年女子	国スポウインドサーフィン級 ILCA6級	赤	下記サイズ以上 
少年男子	ILCA6級	青	
少年女子	420級	赤	対角線の長さ最小 250mm

- (16) [NP] [DP]選手は、乗艇する際に着用する上着（個人用浮揚用具：ライフジャケット、ハーネス、その他の衣類等）には、その背面に地色と明確に識別できうる単色の文字で所属都道府県名を付けなければならない。文字は漢字とし、1文字の大きさは縦 100mm 以上、横 80mm 以上とする。

- (17) [NP] [DP]県名、県番号及び識別マークの表示位置

県名、県番号及び識別マークの表示位置、検査の手順及び提出書類、また大会期間中の装備の交換と修理に関しては、大会ホームページに掲載される大会装備規程に示す。

- (18) 各種目のセールに付ける県番号は、下記のとおりとする。

1	北海道	13	東 京	25	滋 賀	37	徳 島
2	青 森	14	神奈川	26	京 都	38	愛 媛
3	岩 手	15	山 梨	27	大 阪	39	高 知
4	宮 城	16	新 潟	28	兵 庫	40	福 岡
5	秋 田	17	長 野	29	奈 良	41	佐 賀
6	山 形	18	富 山	30	和歌山	42	長 崎
7	福 島	19	石 川	31	鳥 取	43	熊 本
8	茨 城	20	福 井	32	島 根	44	大 分
9	栃 木	21	静 岡	33	岡 山	45	宮 崎
10	群 馬	22	愛 知	34	広 島	46	鹿児島
11	埼 玉	23	三 重	35	山 口	47	沖 縄
12	千 葉	24	岐 阜	36	香 川		

- (19) 選手への通告は、第 80 回国民スポーツ大会セーリング競技会ホームページ（以下「大会ホームページ」という。）に設置された公式掲示板に掲示する。公式掲示板はオンラインのみとし、ホームページの不具合等は、艇からの救済の要求の根拠とはならない。これは、RRS61.1(a)を変更している。

大会ホームページ URL : <https://www.city.mutsu.lg.jp/sailing/>

- (20) [NP][DP]選手は、大会 LINE オープンチャット（以下「大会オープンチャット」という。）で情報を得ることが出来る。競技者は大会オープンチャットへ登録しなければならない。ただし、大会オープンチャットでの選手・監督・支援者からの投稿は認めない。大会オープンチャットへの登録及びオンライン手続については、帆走指示書に示す。

5 参加資格、所属都道府県及び選手の年齢基準

- (1) 総則 5 に定めるものとする。

なお、少年種別に参加できる選手には、2011 年 4 月 2 日から 2012 年 4 月 1 日までに生まれた中学 3 年生を含むものとする。

- (2) 同一人の参加は、1 都道府県の 1 種目に限る。
 (3) 監督、選手は日本セーリング連盟の有効な 2026 年メンバー登録者であること。
 (4) 当該種別選手は、次の有資格者であること。

ア 成年男子・成年女子 日本セーリング連盟バッジテスト中級 4 級以上、ただし、国スポウインドサーフィン級の選手は日本セーリング連盟ウインドサーフィン・バッジテスト 8 級
 イ 少年男子・少年女子 日本セーリング連盟バッジテスト初級 5 級以上

- (5) 監督は、公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格制度に基づく公認セーリングコーチ 3 または公認セーリングコーチ 4 の資格を有する者とする。

6 総合成績決定方法

男女総合成績（天皇杯得点）及び女子総合成績（皇后杯得点）は、競技得点と参加得点の合計とし、その得点の多い都道府県順に第 1 位から第 8 位までを決定する。

ただし、同点の場合は、その順位を共有し、次の順位を欠位とする。

(1) 競技得点

天皇杯対象種別	皇后杯対象種別	競 技 得 点
成年男子 成年女子 少年男子 少年女子	成年女子 少年女子	470級、セーリングスピリッツ級及び420級の各種目に1位24点、2位21点、3位18点、4位15点、5位12点、6位9点、7位6点、8位3点の競技得点を与える。 ILCA7級、国スポウインドサーフィン級及びILCA6級の各種目に1位8点、2位7点、3位6点、4位5点、5位4点、6位3点、7位2点、8位1点の競技得点を与える。 ただし、同順位の場合は、その順位を共有し、次の順位を欠位とする。なお、得点は次の順位のものを加え、当該都道府県で等分する。

(2) 参加得点

大会に参加した都道府県に10点を与える。

(3) 各種目のレース得点方法と順位

完了したレースが3レース未満の場合は、艇の得点は全レースの合計得点で順位を決定する。
完了したレースが3レース以上の場合は、艇の得点は最も悪いレースの得点を除外したレースの合計得点で順位を決定する。

(4) 参加艇数

各種別・種目の参加艇数は、2026年9月2日（水）午後3時の時点における艇数を参加艇数とする。

7 表 彰

- (1) 男女総合成績及び女子総合成績第1位から第8位までの都道府県に、表彰状を授与する。
- (2) 男女総合成績第1位の都道府県に、大会会長トロフィーを授与する。
- (3) 各種別・種目の第1位から第8位までに、賞状を授与する。

8 参加申込方法

- (1) 2026年8月13日（木）午後5時までに国民スポーツ大会参加申込システムにより、必要項目を入力の上、所属都道府県スポーツ協会を通じて、申込手を完了すること。
- (2) 下記の提出書類は、所定のファイルに貼付けPDF形式の電子データに変換したうえで、2026年8月6日（木）まで（必着）に電子メールで提出すること。

提 出 先	提 出 書 類
公益財団法人日本セーリング連盟 国スポ委員会 E-mail: kokutai@jsaf.or.jp	参加資格証明書（所定のファイルに貼付けること。） 1. 監督・選手は2026年日本セーリング連盟メンバーズカード（電子版） 2. 監督は公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者登録証（裏面）、または電子版登録証 3. 選手は日本セーリング連盟バッジテスト認定証

- (3) 参加申込締切後の選手・監督の交代及び棄権は、疾病、傷害、転勤等のやむを得ない場合のみ認める。

選手・監督の交代及び棄権については、所定の様式により下記の提出先にメールで届けなければならない。

ア 提出期限 2026 年 9 月 2 日（水） 午後 3 時まで

イ 提出先

- (ア) 公益財団法人日本セーリング連盟

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町 4 番 2 号 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9 階

TEL 03-6447-4881 FAX 03-6447-4882

E-mail kokutai@jsaf.or.jp

- (イ) 青の煌めきあおもり国スポ・障スポ実行委員会事務局

（青森県国スポ・障スポ局競技式典課内）

〒030-8570 青森県青森市長島一丁目 1 番 1 号

TEL 017-734-9771 FAX 017-734-8012

E-mail aomori2026kyougiuneai@pref.aomori.lg.jp

- (ウ) 青の煌めきあおもり国スポ・障スポむつ市実行委員会事務局

（青森県むつ市市民生活部国スポ・障スポ推進課内）

〒035-8686 青森県むつ市中央一丁目 8 番 1 号

TEL 0175-22-1111-~~(内線 2484)~~—FAX 0175-22-5825

E-mail kokuspo.sailing@city.mutsu.lg.jp

なお、公益財団法人日本スポーツ協会に対しては、大会終了後、別途所定の手続により参加申込情報を修正すること。

- (4) 国スポウインドサーフィン級を除き、参加資格証明書にセール番号を登録しなければならない。

9 参加上の注意

- (1) 参加艇及び支援者艇の会場への搬入は、2026 年 8 月 31 日（月）午前 9 時から受け入れる。
また、搬出は、9 月 6 日（日）から 9 月 7 日（月）にむつ市実行委員会の搬出計画により行う。
- (2) 各都道府県の検査順は、9 月 1 日（火）午後 4 時 30 分に検査会場において、都道府県代表者による抽選で決定する。なお、抽選時に未到着の都道府県については、受付順とする。
- (3) 9 月 3 日（木）は、午前 10 時まで海上練習を認める。
- (4) 支援者艇は、選手への全ての支援を行うことができる。ただし、支援者艇は大会ホームページに掲載されるサポートチーム規程（STR）に従わなければならない。

10 その他

帆走指示書は 2026 年 8 月 14 日（金）までに大会ホームページに公開する。

青森の煌めきあおもり国民スポーツ大会セーリング競技大会

JAPAN GAMES Sailing



帆走指示書 (SAILING INSTRUCTIONS)

Organizing Authority (OA): (公財)日本セーリング連盟、青の煌めきあおもり国スポ・障スポむつ市実行委員会

[NP]は、この規則の違反を申し立てる艇による抗議は無効であることを意味する。これは RRS 60.1 を変更している。

[SP]は、レース委員会が審問無しに標準ペナルティーを適用することができる規則を意味する。レース委員会は抗議することもでき、その場合は審問を経てプロテスト委員会の裁量でペナルティーが決定される。これは RRS A5 を変更している。

1. 規則

- 1.1. 本大会はセーリング競技規則（以下『RRS』という）に定義された規則を適用する。なお、青の煌めきあおもり国スポ・障スポ実施要項をレース公示（以下「NoR」という。）とする。
- 1.2. RRS 70.3(c)及び日本セーリング連盟規程 5.4 に規定されたとおり、プロテスト委員会の判決を最終とする。
- 1.3. 国スポウインドサーフィン級について、RRS B5 中の RRS 60 の変更及び RRS B8 は適用しない。
- 1.4. 参加資格に係る違反及びアンチ・ドーピング規則に対する違反が発生した場合の手続き及び処分内容等の取り扱いについては、国民スポーツ大会諸規程「[国民スポーツ大会における違反に対する処分に関する規程](#)」による。

2. 帆走指示書の変更

- 2.1. 帆走指示書（以下「SI」という。）の変更(レース・エリアの変更を含む)は、それが発効する当日の当該種別・種目の最初の予告信号の 60 分以前までに、公式掲示板に掲示される。
- 2.2. レース日程の変更は、それが発効する前日の 19:00 までに公式掲示板に掲示される。

3. [DP] [NP] 識別・カメラや電子機器

- 3.1. 艇は OA により選択され支給された電子機器を艇の指定された位置に搭載するよう要求されることがある。艇はこの要求に従わなければならない。
- 3.2. [SP] 競技者は、レース委員会により準備されたトラッキングシステムの端末機器を指定された位置に搭載しなければならない。
- 3.3. [SP] 端末機器は、レース委員会の指示通り返却しなければならない。なお、トラッキングシステム端末機器受け渡し方法については、別途案内するものとする。

4. コミュニケーション

- 4.1. 競技者への通告は、[公式掲示板](https://www.racingrulesofsailing.org)（大会 RacingRulesOfSailing.org 以下「大会 RRS.org」という。）に掲示される。[公式掲示板](https://www.racingrulesofsailing.org)はオンラインのみとし、大会 web サイトで利用できる。サイト等の不具合等は、艇からの救済の要求の根拠とはならない。これは RRS 61 を変更している。
大会公式掲示板 URL: <https://www.racingrulesofsailing.org/documents/15622/event>
大会 web サイト URL: <https://www.city.mutsu.lg.jp/sailing/index.html>
- 4.2. [DP]緊急の場合を除き、レース中の艇は、音声やデータを送信してはならず、かつ、すべての艇が利用できない音声やデータ通信を受信してはならない。ただし、レース委員会が用意するトラッキングシステムは含まない。
- 4.3. 水上ではレース委員会は OA が用意した無線機で支援者に連絡を行う。詳細はサポートチーム規程（STR）に示す。
- 4.4. [DP][NP]競技者は、大会 LINE オープンチャットで情報を得ることが出来る。ただし、大会 LINE オープンチャットでの選手・監督・支援者からの投稿は認めない。詳細は SI Addendum A を参照のこと。

5. [DP] 行動規範

- 5.1. 競技者は、OA、委員会からの合理的な要求に応じなければならない。
- 5.2. 競技者および支援者は、OA によって提供された、装備の取扱いを、その使用に関する指示に従い、その機能を妨げることなく、実行しなければならない。

6. 陸上で発せられる信号

- 6.1. 陸上で発する信号は、大平マリーナ特設セーリング会場に設置された掲揚ポールに掲揚する。
- 6.2. [DP][NP] 音響 1 声とともに掲揚される D 旗は、「予告信号は、D 旗掲揚後次に示す分以降に発する。」ことを意味する。艇は、この信号が発せられるまで、水上に浮かべてはならない。「D 旗」が「クラス旗」の上に掲揚された場合、その種目のみに適用する。

レース・エリア	予告信号は、次に示す分以降
A	40
B	30

- 6.3. 陸上に回答旗が掲揚された場合は、レース信号回答旗中の「1 分」を「次に示す分以降」と置き換える。

レース・エリア	予告信号は、次に示す分以降
A	40
B	30

7. スケジュール

7.1. レース日程

月 日	時間	内容
9月2日（水）	9:00～17:00	大会装備検査
9月3日（木）	8:30～10:00 11:25～ 16:00～ 16:30～17:30	大会装備検査予備日 トライアルレース 大会会長トロフィー返還 監督会議
9月4日（金）	9:55～	最初の種別・種目の予告信号時刻
9月5日（土）	9:55～	最初の種別・種目の予告信号時刻
9月6日（日）	9:55～	最初の種別・種目の予告信号時刻
9月7日（月）	9:55～ 13:00～13:30 14:00～14:30 15:00～15:40	最初の種別・種目の予告信号時刻 種目別表彰式 種目別表彰式 総合表彰式（大津市柳が崎特設セーリング会場式典テント）

また、SI Addendum B にレース日程及びレース数詳細を示す。

- 7.2. 各レース・エリアの引続き行いうレースは、その前のレースの各種別・種目終了後、引続き行いう。
- 7.3. 天候等の事情により、レース日程及びレース・エリアは、レース委員会において変更することがあり、その変更は SI 2 に従って行われる。
- 7.4. 1 つのレースまたは一連のレースがまもなく始まることを艇に注意喚起するために、予告信号を発する最低 5 分以前に音響 1 声とともにオレンジ色のスタート・ライン旗を掲揚する。
- 7.5. 当該種別・種目の 1 日に実施する最大レース数は 4 レースとする。
- 7.6. 9 月 7 日(月)には、11 時 00 分より後に予告信号を発しない。

8. クラス旗

- 8.1. 各種別・種目のクラス旗は、以下のとおりとする。

クラス旗	旗色
成年男子	
470 級	白地に青記章
ILCA7 級	白地に赤記章
国スポウインドサーフィン級	白地に青記章
成年女子	
セーリングスピリッツ級	白地に黒記章
ILCA 6 級	ピンク地に赤記章
国スポウインドサーフィン級	ピンク地に青記章
少年男子	
420 級	白地に青記章
ILCA6 級	黄色地に赤記章
少年女子	
420 級	黄緑地に青記章
ILCA6 級	黄緑地に赤記章

9. レース・エリア

- 9.1. SI Addendum C にレース・エリアの位置を示す。
- 9.2. レース・エリアが SI Addendum C のとおりとならなくても、艇からの救済要求の根拠とはならない。この項は、RRS 61 を変更している。

10. コース

- 10.1. SI Addendum E の見取り図は、レグ間の概ねの角度、通過するマークの順序、それぞれのマークをどちら側に見て通過するかを含むコースを示す。
- 10.2. 予告信号以前にシグナルポートに、帆走すべきコース及び最初のレグのおおよそのコンパス方位を掲示する。
- 10.3. コースの短縮は行わない。これは RRS 32 を変更している。

11. マーク

- 11.1. マークは、次のとおりとする。

レース・エリア	マーク 1, 2	3s,3p, 4s,4p	新しいマーク	スタート・マーク	フィニッシュ・マーク
A	黄色の円錐台形	オレンジ色の ロボットマーク	赤色の円錐台形 黒色帯	レース委員会船	レース委員会船 黄色ブイ
B	赤色の円錐台形	オレンジ色の ロボットマーク	黄色の円錐台形に 黒色帯	レース委員会船	レース委員会船 黄色ブイ

12. スタート

- 12.1. スタート・ラインは、スタート・マーク上の「オレンジ旗」を掲げたポールのコース側との間とする。
- 12.2. [DP][NP] 他のレースのスタート手順の間、予告信号が発せられていない艇は、スタート・エリアを回避しなければならない。スタート・エリアはスタート・ラインから 50m 以内のエリアとし、その図を SI Addendum D に示す。
- 12.3. スタート信号の 4 分以降にスタートする艇は DNS と記録される。この項は RRS A5、A10 を変更している。
- 12.4. RRS 30.4 の「セール番号」を「県番号」に置き換える。

13. コースの次のレグの変更

- 13.1. コースの次のレグを変更する場合、レース委員会は、次の対応を行う。
- (a) SI 11 に規定する新しいマークを設置する
 - (b) フィニッシュ・ラインを動かす
 - (c) 風下ゲートを動かす
- 13.2. 実行できれば直ぐに元のマークを除去する。その後の変更で新しいマークを置き換える場合、そのマークは元のマークで置き換える。

14. フィニッシュ

フィニッシュ・ラインは、レース委員会船の青色旗を掲揚しているポールのコース側との間とする。

15. ペナルティー方式

- 15.1. 付則 P を適用する。
- 15.2. 付則 T を適用する。『レース後ペナルティー』を履行した艇は、得点略語「PRP」を用いて記録される。これは、RRS A10 を変更している。

16. タイム・リミットとターゲット・タイム

16.1. マーク1のタイム・リミット、レース・タイム・リミット（RRS 35 参照）およびフィニッシュ・ウインドウを下表に示す。

種目	レース・タイム・リミット	マーク1のタイム・リミット	フィニッシュ・ウインドウ	ターゲット・タイム
470 級	60 分	25 分	15 分	40 分
セーリングスピリッツ級	60 分	25 分	15 分	30 分
420 級	60 分	25 分	15 分	40 分
ILCA7 級	60 分	25 分	15 分	40 分
ILCA6 級	60 分	25 分	15 分	40 分
国スポウインドサーフィン級	30 分	15 分	12 分	20 分

16.2. マーク1のタイム・リミット内に1艇もマーク1を通過しなかった場合には、レースは中止する。

16.3. フィニッシュ・ウインドウとは、最初の艇がコースを帆走した後、艇がフィニッシュする時間のことである。スタートしたが、フィニッシュ・ウインドウ内にコースの帆走ができず、かつ、その後リタイアせず、ペナルティーを課されず、また救済を与えられなかった艇は、審問なしに「フィニッシュしなかった」（DNF）と記録される。これは、RRS 35、A 5.1、A 5.2、A 10 を変更している。

16.4. ターゲット・タイムどおりとならなくても、救済要求の根拠とはならない。これは RRS 61 を変更している。

17. 審問の要求

17.1. 抗議及び救済または審問再開の要求は、大会 RRS.org のオンラインフォーム "[Hearing Request \(審問要求書フォーム\)](#)" により、適切な制限時間内にプロテスト委員会事務局に提出しなければならない。ただし、オンラインフォームにより提出することが困難な場合には、プロテスト委員会事務局で入手できる用紙に記入し、同事務局に持参して提出することができる。

17.2. それぞれの種別・種目に対して、抗議締切時刻はその日の当該種別・種目の最終レース終了後、またはレース委員会が、「本日はこれ以上レースを行わない」という信号を発した後、どちらか遅い方から下記に示す時間とする。ただし、プロテスト委員会の裁量により、この時刻を延長することがある。公式掲示板の「[抗議締切時刻通告](#)」より確認することができる。

レース・エリア	時間
A	80 分
B	60 分

17.3. 審問の当事者であるか、または証人として名前があげられている競技者に審問のことを知らせるため、抗議締切時刻後 30 分以内に通告を[公式掲示板](#)に掲示する。審問は運営棟 1 階のプロテスト審問室にて公式掲示板に掲示した時刻に始められる。

17.4. 委員会による抗議の意思を、RRS 60.2(d)に基づき艇に伝えるために[公式掲示板](#)に掲示する。

17.5. RRS 42 違反に対するペナルティーを課せられた艇のリストを掲示する。

17.6. RRS 63.5(d) に関する事項の「責任ある機関」は本大会のテクニカル委員会である。

17.7. 審問再開は、判決を通告された日の翌日の 9 時 00 分までの間に限り求めることができる。ただし、9 月 7 日(月)に判決を通告された場合には、判決を通告されてから 15 分以内とする。これは、RRS 63.7 を変更している。

17.8. 9 月 7 日(月)では、プロテスト委員会の判決に基づく救済要求は判決の掲示から 15 分以内でなければならない。これは RRS 61.2 を変更している。

17.9. RRS40.1、RRS50.1(b)、クラス規則および大会装備規程の違反に対するペナルティーは、プロテスト委員会の裁量により失格より軽減することができる。

- 17.10. [SP]印の規則の違反と関連するペナルティーのガイドラインは、公式掲示板に掲示され、得点記録の略語は STP とする。これは規則 A10 を変更している。
- 17.11. SI18.2.の規定に基づく得点照会に対する回答を受けた後に提出された救済要求は、次の場合、締切時刻を満たしているものとする。
- 17.11.1. 得点照会が、得点またはシリーズ成績の情報が入手可能となった後、常識的にできるだけ早く提出され、かつ
- 17.11.2. 救済要求が、得点照会に対する回答が通知されたあと常識的にできるだけ早くに提出された場合。回答はオンライン・システムによって通知される。この項は RRS 61.2 を変更している。

18. 得点

- 18.1. 本大会は各種別・種目とも6レースが予定され、それぞれ1レースの完了をもって成立する。
- 18.2. 艇は、公式掲示板に掲示された得点またはシリーズ成績に誤りがあると判断した場合、大会 RRS.org のオンラインフォーム“[Scoring Inquiry \(得点照会のフォーム\)](#)”をレース委員会事務局に提出することで、得点及び成績の訂正を要請する事ができる。ただし、オンラインフォームにより提出することが困難な場合には、レース委員会事務局に持参して提出することができる。
- 18.3. カットレース
- 18.3.1. 3 レース未満しか完了しなかった場合、艇のシリーズの得点は、レース得点の合計とする。
- 18.3.2. 3 レース以上完了した場合、艇のシリーズの得点は、最も悪い得点を除外したレース得点の合計とする。
- 18.4. RRS A5 の「シリーズに参加した艇の数」とは、NoR 6(4)に示す艇数とする。なお、国民スポーツ大会諸規程「国民スポーツ大会における違反に対する処分に関する規程」による違反艇は、シリーズに参加した艇の数から除外する。
- 18.5. 各種目とも、上記得点方法に従い順位を決定し、下記の種目別の競技得点を与える。ただし、同順位の場合は、その順位を共有し、次の順位を欠位とする。なお、競技得点は次の順位のを加え、当該都道府県で等分する。

470 級、セーリングスピリッツ級、420 級

順位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位
競技得点	24 点	21 点	18 点	15 点	12 点	9 点	6 点	3 点

ILCA7 級、ILCA6 級、国スポウインドサーフィン級

順位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位
競技得点	8 点	7 点	6 点	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点

- 18.6. 総合成績決定方法は、下記のとおりとする。
- 18.6.1. 大会に参加した都道府県に参加得点 10 点を与える。
- 18.6.2. 男女総合成績（天皇杯得点）及び女子総合成績（皇后杯得点）は、SI 18.5.の種目別の競技得点と参加得点（10 点）を合計し、その合計得点が多い都道府県を上位とし第 1 位から第 8 位を決定する。ただし、同点の場合は順位を共有し、その次の順位を欠位とする。
- 18.7. 参加資格違反及び日本アンチ・ドーピング規程違反が確定した艇は、順位を取り消され、違反艇より下位の艇の順位を繰り上げる。またシリーズに参加した艇の数からも削除され、各レースの艇の順位及び得点も変更する。

19. [NP]安全規定

19.1. チェックアウトチェックイン

- 19.1.1. [SP]レースに参加しようとする艇は、出艇申告書に艇長が署名しなければならない。また、レースに参加（出艇）しない艇は、その日の予告信号予定時刻の 30 分前までにリタイア DNC 申告書に艇長若しくは監督(代理)が署名しなければならない。

- 19.1.2. [SP]帰着した艇は、帰着後速やかに、また、その日の当該種別・種目の最終レース終了後、またはレース委員会が、「本日はこれ以上レースを行わない」という信号を発した後、どちらか遅い方から下記に示す時間以内に帰着申告書に艇長が署名しなければならない。ただし、レース委員会の裁量により、この時刻を延長することがある。

レース・エリア	時間
A	80 分
B	60 分

- 19.1.3. 水上でリタイアした艇は、実行可能であればレース・エリアを離れる前に SI 22.の運営船にその旨を伝えること。また、帰着後速やかに SI 19.1.1.のリタイア DNC 申告書に艇長若しくは監督(代理)が署名しなければならない。また、帰着した競技者は、抗議締切り時間内にレガッタオフィスにて「帰着申告書」に署名しなければならない。
- 19.1.4. [SP]一度ハーバーに帰着した艇（SI 19.1.3.）及び、SI 19.1.1.のリタイア DNC 報告の手続きを行った艇が再度レースに参加しようとする（出艇する）場合、競技者はリタイア DNC 申告書に出艇の申告署名をしなければならない。
- 19.2. [DP] レース中でない艇は、レース中の艇から離れていなければならない。
- 19.3. 救助を必要とする艇の乗員は、頭上で手を大きく振って救助要請を行うこと。
- 19.4. 委員会は、危険な状態にあると判断した艇に対し、リタイアの勧告及び強制救助を行うことができる。これは艇による救済要求の根拠にはならない。これは RRS 61 を変更している。
- 19.5. レース委員会が V 旗を掲揚した場合、支援者艇に対する救助要請を示しており、支援者艇はレース委員会の指示に従わなければならない。この項は RRS 37 及びレース信号を変更している。（サポートチーム規程（STR） 5.1 参照）

20. [DP] 装備の交換

- 20.1. 損傷または紛失した装備の交換は、テクニカル委員会の承認なしでは許可されない。交換の要請は、最初の妥当な機会に大会 RRS.org のオンラインフォーム“[Equipment Substitution Form（装備交換フォーム）](#)”にてテクニカル委員会に行われなければならない。ただし、オンラインフォームにより提出することが困難な場合には、テクニカル委員会事務局で入手できる用紙に記入し、同事務局に持参して提出することができる。また、交換申請の詳細は大会装備規程に示す。

21. [DP] 装備と計測のチェック

- 21.1. 艇はレース前の装備検査合格後、最終レース終了までの間常にクラス規則及び大会装備規程に従っていないといけない。ただし、日常のメンテナンス、テクニカル委員会による許可を受けた修理交換作業中はこの限りではない。
- 21.2. 水上で艇はフィニッシュ後、テクニカル委員会より、検査のために直ちに指定されたエリアに向かうことを指示されることがある。陸上では、艇または装備がクラス規則、大会装備規程、NoR および SI に従っていることを確認するため、いつでも検査されることがある。

22. 運営船

運営船の標識は次の通りである。

運営船	識別旗
競技委員会船	白地に赤字「VIP」
レース委員会船	白地に赤字「RC」
プロテスト委員会船	赤地に白字「PROTEST」
PRO船	ピンク地に赤字「PRO」

テクニカル委員会船	白地に赤字「MEASUREMENT」
救助船	緑字に白字「RESCUE」
報道船	白地に緑字「MEDIA」
警戒船	白地に赤字「警戒船」

23. 支援者艇

支援者艇は、サポートチーム規程（STR）に従わなければならない。

24. ゴミの処分

ゴミは支援者艇または運営船に渡してもよい。

25. 賞

25.1. 男女総合成績（天皇杯）及び女子総合成績（皇后杯）の第1位から第8位までの都道府県に賞状を授与する。

25.2. 男女総合成績第1位（天皇杯）の都道府県に大会会長トロフィーを授与する。

25.3. 各種目の第1位から第8位までに賞状を授与する。

26. リスク・ステートメント

RRS 3 には『レースに参加するか、またはレースを続けるかについての艇の決定の責任は、その艇にのみある。』とある。大会に参加することによって、それぞれの競技者は、セーリングには内在するリスクがあり、潜在的な危険を伴う行動であることに合意し、認めることになる。これらのリスクには、強風、荒れた海、天候の突然の変化、機器の故障、艇の操船の誤り、他艇の未熟な操船術、バランスの悪い不安定な足場、疲労による傷害のリスクの増大などがある。セーリング・スポーツに固有なのは、溺死、心的外傷、低体温症、その他の原因による一生消えない重篤な傷害、死亡のリスクである。

27. 肖像権

競技者は、本大会に参加することにより、大会期間中の競技者または装備に関する動画、スチール写真及び撮影された映像またはその製版について、対価を求めることなく、OAに独自の判断で使用する権利を与えるものとする。

28. 故意または過失によって生じた損害の補償

OAは、競技者または支援者に対して、その故意または過失によって生じたすべての損害の補償を命じることができる。その損害の補償に関しては、競技委員会の査定に従うものとする。

SI Addendum A リンク先

◇大会ホームページのリンク URL

<https://www.city.mutsu.lg.jp/sailing/index.html>



◇大会 LINE オープンチャットのリンク URL

[青の煌めきあおもり国スポセーリング競技](https://x.gd/CzWI6) URL : <https://x.gd/CzWI6>



- ・大会 LINE オープンチャットへの登録は1艇 最低1名とする。
- ・選手の登録名は「県番号種別種目」とするが、下記表の通りそれぞれ省略した表記とする。

種別	種目	登録用：省略した表記	例：青森県の場合
成年男子	470 級	県番号 成男 470 スキッパー	02_成男_470 s
		県番号 成男 470 クルー	02_成男_470 c
	ILCA7 級	県番号 成男 L	02_成男_L
	国スポウインドサーフィン級	県番号 成男 WS	02_成男_WS
成年女子	セーリングスピリッツ級	県番号 成女 SS スキッパー	02_成女_SS s
		県番号 成女 SS クルー	02_成女_SS c
	ILCA6 級	県番号 成女 LR	02_成女_LR
	国スポウインドサーフィン級	県番号 成女 WS	02_成女_WS
少年男子	420 級	県番号 少男 420 スキッパー	02_少男_420 s
		県番号 少男 420 クルー	02_少男_420 c
	ILCA6 級	県番号 少男 LR	02_少男_LR
少年女子	420 級	県番号 少女 420 スキッパー	02_少女_420 s
		県番号 少女 420 クルー	02_少女_420 c
	ILCA6 級	県番号 少女 LR	02_少女_LR

- ・監督・コーチの登録名は「県番号名字」とする。(例：青森県の鈴木監督→ 02 鈴木)
- ・県番号、種別、種目は_を入力する事。また、英数字は半角とする。
- ・LINE での質問、問い合わせは受け付けない。
- ・登録に必要なパスワードは申し込み手続き締め切り後、各県連宛メールにて送付する。なお、選手・監督・コーチ以外へのパスワードの開示は厳禁とする。

◇大会公式掲示板 URL

<https://www.racingrulesofsailing.org/documents/15622/event>

大会 RRS.org QR コード

[公式掲示板](#)



[得点照会フォーム](#)



[審問要求書フォーム](#)



[装備交換フォーム](#)



[審問予定](#)



[審問の判決](#)



SI Addendum B レース日程及びレース数

種別	種目	9月3日(木) レース・エリア 予告信号時刻	レース NO	9月4日(金) レース・エリア 予告信号時刻	レース NO	9月5日(土) レース・エリア 予告信号時刻	レース NO	9月6日(日) レース・エリア 予告信号時刻	レース NO	9月7日(月) レース・エリア 予告信号時刻	レース NO
成年男子	470 級	A 12:55	TR	A 12:55	R1 R2	A 9:55	R3 R4	A 12:55	R5 R6		
	ILCA7 級	A 13:02	TR	A 13:02	R1 R2	A 10:02	R3 R4	A 13:02	R5 R6		
	国スポウインドサーフィン級	B 13:25	TR	B 14:25	R1 R2	B 14:25	R3 R4	B 13:55	R5 R6		
成年女子	セーリングスピリッツ級	B 12:25	TR	B 11:55	R1 R2	B 9:55	R3 R4	B 11:25	R5 R6		
	ILCA6 級	A 11:39	TR	A 10:09	R1 R2	A 13:09	R3 R4	A 10:09	R5 R6		
	国スポウインドサーフィン級	B 13:32	TR	B 14:32	R1 R2	B 14:32	R3 R4	B 14:02	R5 R6		
少年男子	420 級	A 11:25	TR	A 9:55	R1 R2	A 12:55	R3 R4	A 9:55	R5	A 9:55	R6
	ILCA6 級	B 11:25	TR	B 9:55	R1 R2	B 11:55	R3 R4	B 9:55	R5	B 9:55	R6
少年女子	420 級	A 11:32	TR	A 10:02	R1 R2	A 13:02	R3 R4	A 10:02	R5	A 10:02	R6
	ILCA6 級	B 11:32	TR	B 10:02	R1 R2	B 12:02	R3 R4	B 10:02	R5	B 10:02	R6

※TR トライアルレース

SI Addendum C レース・エリア



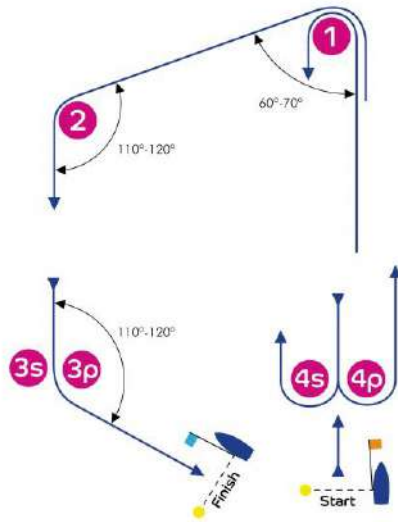
AエリアとBエリアの位置は、重ならない範囲で、天候等の事情を勘案してエリアを設定する。

SI Addendum D スタート・エリア



SI Addendum E コース図

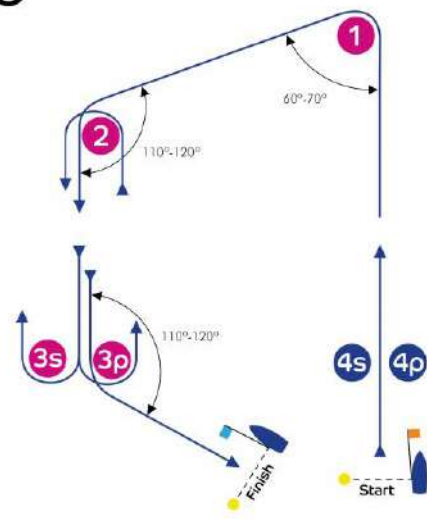
I



Course: Inner Trapezoid

Signal	Mark Rounding Order
I2	Start - 1 - 4s/4p - 1 - 2 - 3p - Finish
I3	Start - 1 - 4s/4p - 1 - 4s/4p - 1 - 2 - 3p - Finish
I4	Start - 1 - 4s/4p - 1 - 4s/4p - 1 - 4s/4p - 1 - 2 - 3p - Finish

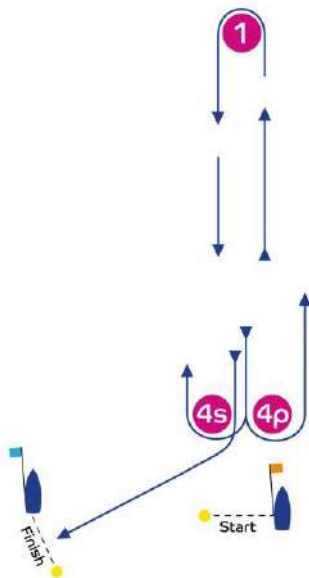
O



Course: Outer Trapezoid

Signal	Mark Rounding Order
O2	Start - 1 - 2 - 3s/3p - 2 - 3p - Finish
O3	Start - 1 - 2 - 3s/3p - 2 - 3s/3p - 2 - 3p - Finish
O4	Start - 1 - 2 - 3s/3p - 2 - 3s/3p - 2 - 3s/3p - 2 - 3p - Finish

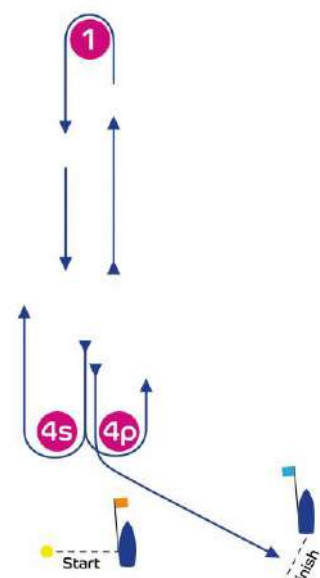
LG



Course: Windward/Leeward

Signal	Mark Rounding Order
LG2	Start - 1 - 4s/4p - 1 - 4s - Finish
LG3	Start - 1 - 4s/4p - 1 - 4s/4p - 1 - 4s - Finish
LG4	Start - 1 - 4s/4p - 1 - 4s/4p - 1 - 4s/4p - 1 - 4s - Finish

LR



Course: Windward/Leeward

Signal	Mark Rounding Order
LR2	Start - 1 - 4s/4p - 1 - 4p - Finish
LR3	Start - 1 - 4s/4p - 1 - 4s/4p - 1 - 4p - Finish
LR4	Start - 1 - 4s/4p - 1 - 4s/4p - 1 - 4s/4p - 1 - 4p - Finish

青森の煌めきあおもり国民スポーツ大会セーリング競技大会

JAPAN GAMES Sailing



サポートチーム規程（STR）

1 総則

- 1.1 このサポートチーム規程（以下「STR」という。）は、支援者が大会の会場内（陸上及び水上）にいる間常時適用される。
- 1.2 STR は、レース公示(以下「NoR」という。）に規定された大会の期日（計測を含む）の間適用される。
- 1.3 STR においては、次の定義が適用される。
 - 1.3.1 “支援者（サポートパーソン）”とは、RRS 定義にて定められた人物をいう。
 - 1.3.2 “サポートチーム”とは、各競技者に関連している支援者の集団をいう。
 - 1.3.3 “支援者艇（サポートボート）”とは、サポートチームの管理又は監督下にある船舶をいう。
- 1.4 主催団体は、いつでも支援者艇が STR に従っているかを確認するために検査を行うことがある。支援者艇の責任者は検査に協力しなければならない。
- 1.5 主催団体は、いつでも STR を変更することがある。変更は公式掲示板に掲示される。
- 1.6 主催団体は、その裁量で、適切でないと考える支援者艇の登録を取り消すことがある。

- 1.7 全ての支援者、ドライバー及び支援者艇は、9月2日9時半から開始され、9月3日の9時半までにレース委員会事務局で登録し、識別旗の貸与を受けなければならない。また、貸与された識別旗は、9月7日の13時までにレース委員会事務局に返却しなければならない。
 - 1.7.1 各支援者艇はインシデント毎に少なくとも 1 億円（又は同等の）を補償する有効な第三者賠償責任保険に加入していなければならない。
 - 1.7.2 支援者艇のドライバーは登録されたサポートチームのメンバーでなければならない。
 - 1.7.3 主催団体が用意した無線機を、支援者艇の責任者は出艇申告から帰着申告まで、通信可能な状態で無線機を保持しなければならない。（Addendum A）
- 1.8 支援者艇は、水上では常時、主催団体から貸与された識別旗を水面より 1.5m 以上の高さで支援者艇に掲揚しなければならない。

2 搬入および停泊

- 2.1 支援者艇は、艇を水面に浮かべる際は指定された斜路／区域を使用すること。艇を浮かべたら、トレーラーは直ちにトレーラー置き場又は主催団体に指示された場所に移動すること。
- 2.2 登録された支援者艇のみが大会会場に入ることを許される。
- 2.3 使用している場合を除き、支援者艇は会場で割り当てられたエリアに適切に係留するものとする。

3 安全

- 3.1 支援者艇は、法定備品に加えて以下を艇に積み込んでいなければならない。
 - 3.1.1 主催団体から貸与された識別旗
 - 3.1.2 主催団体が用意した無線機
 - 3.1.3 レース海面の深さに対応する適切なアンカー及び索具〈ロープ等〉
 - 3.1.4 曳船用ロープ（長さ 15 メートル以上で直径 10 ミリメートル以上、2 本）
 - 3.1.5 競技者確保済を識別するための主催団体が用意するカラーリボン
- 3.2 エンジンを使用しギアが入っている時は、常時キルコードをしっかりとドライバーに取り付けていなければならない。
- 3.3 乗員はレスキュー活動ができる体制でなければならない、また艇の定められた最大搭載人員制限の 1/2 を超えてはならない。
- 3.4 支援者艇の登録されたドライバーを含む支援者は、レースオフィシャルズの権限にて与えられた指示に従わなければならない。これには要請された場合の救助作業を含む。
- 3.5 支援者艇のその当日のドライバーは、出艇・帰着申告所で出艇・帰着申告をしなければならない。また、当日の乗員全ての名前を出艇申告書に記載しなければならない。
- 3.6 主催団体から貸与される無線機は、出艇申告時に受け取り、帰着申告時に返却しなければならない。
- 3.7 支援者艇は、競技者同様に SI 6.2 に従わなければならない。

4 支援者艇の待機エリア及び制限エリア

- 4.1 支援者艇の待機エリアを Addendum B に示し、制限エリアを Addendum C に示す。
- 4.2 支援者艇は最初にスタートする種別・種目の準備信号から一連のレースの最後にスタートする種別・種目のスタート信号までの間、待機エリアのコース・サイドではない側にいなければならない。
- 4.3 支援者艇は最初にスタートする種別・種目の準備信号からすべての艇がフィニッシュまたはリタイアするか、または

レース委員会が延期、ゼネラル・リコールもしくは中止の信号を発するまで制限エリアに侵入してはならない。但し、危険な状態にある艇または乗員の救助を行う場合やレース委員会またはプロテスト委員会の要請があった場合を除く。

- 4.4 引き続きレースが行われる場合には、支援者艇は引き続き STR 4.2 に従わなければならない。
- 4.5 シグナルボート及び運営船に V 旗が掲揚された場合、支援者艇は救助のために制限エリアに入ることができる。

5 特別安全規程

- 5.1 レース委員会は、競技者の安全確保のため支援者艇に救助協力を要請する場合、V 旗を掲揚する。その場合、支援者艇はレース委員会からの無線による指示に従い、競技者の救助に協力しなければならない。これは RRS 37 を変更している。
- 5.2 STR 1.7.3 にて主催団体から貸与された無線機は、常時スイッチを入れた状態で保持し、指定のチャンネルで安全交信のみに用いること。
- 5.3 乗員を救助し艇を艇体放棄する場合、支援者艇はその艇のバウへ STR 3.1.5 に規定されたカラーリボンを取り付けること。
- 5.4 V 旗掲揚の有無に関わらず、支援者艇は危険な状態にある艇または乗員を救助しなければならない。

6 支援者艇の電子機器

- 6.1 支援者艇は、STR1.7.3 に記載された無線機のみ搭載することができる。
- 6.2 支援者艇及びサポートチームメンバーは、下記の電子機器以外は持ち込み使用してはならない。
携帯電話、ビデオカメラ、写真機、風速計、風速計器、電子位置システム（GPS）
- 6.3 主催団体より電子位置システムが提供された場合、主催団体の指示に従い水上にいる間常時搭載すること。

7 支援者艇の責務

- 7.1 支援者艇及び支援者艇のメンバーは、NOR 及び SI に規定された事項のほか、STR 1.7 の登録と同時に STR が適用されることに同意したものとする。

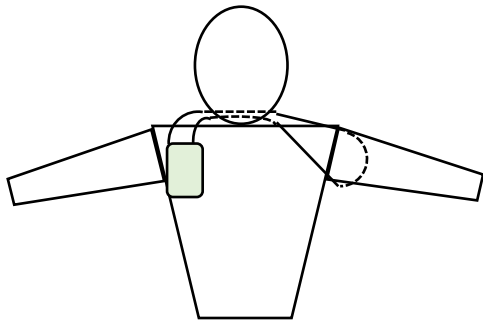
STR Addendum A

無線機の装着方法(参考)

下図のように装着していただくと、ドライビング中でも聞き取り易くなります。

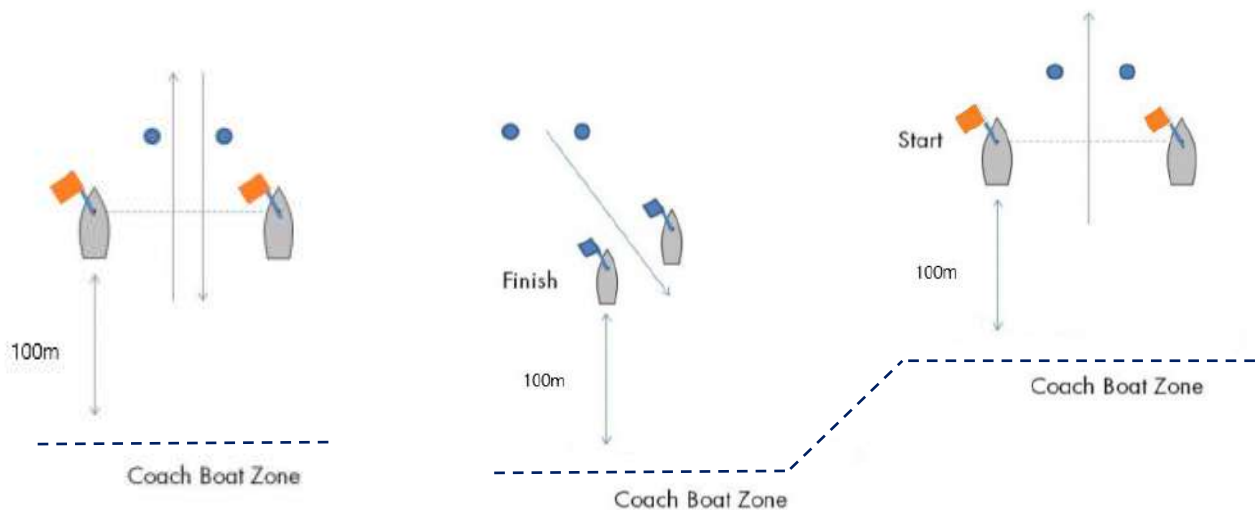
※右の耳元に無線機を保持する場合

- ① ベルトを左の腕にベルトを通す
- ② 無線機を頭の後ろを回し右の胸の前に降ろす
- ③ 右手で操作しやすい位置（鎖骨の辺り）にベルトの長さを調節



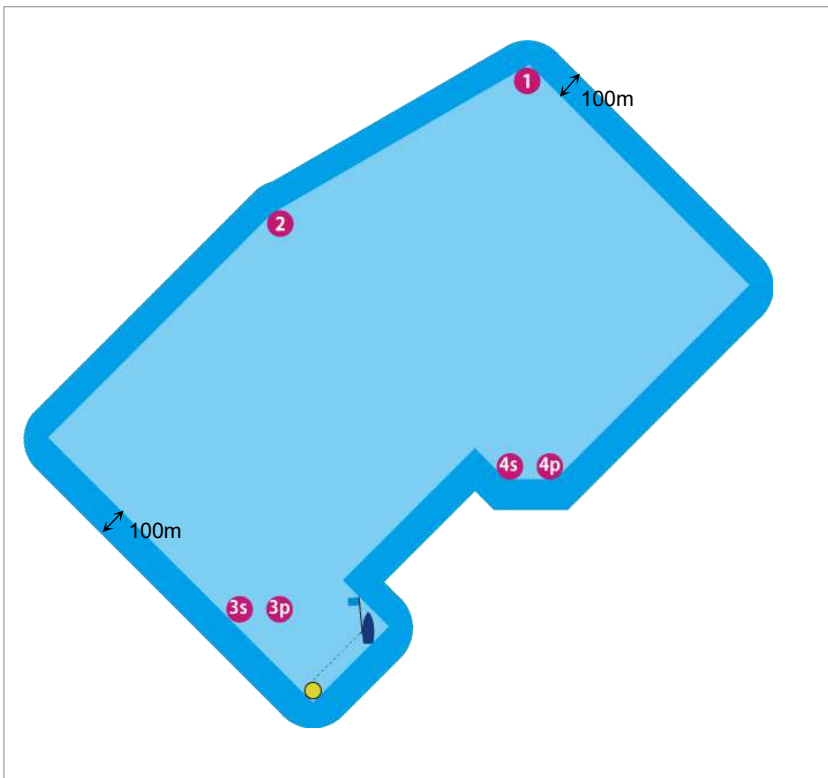
☆無線機が耳元にあるため、リポートを運転していても傍受が可能

STR Addendum B Waiting areas

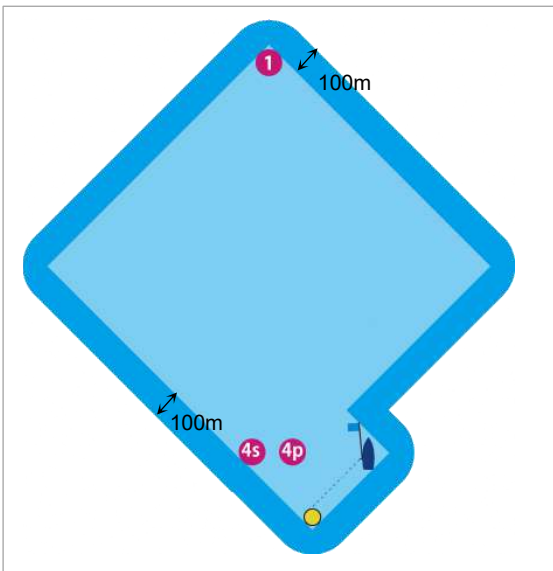


STR Addendum C Restricted areas

Course O/I



Course LR



青の煌めき^{きら}あおもり国スポ・障スポ

あおもり国民スポーツ大会セーリング競技

大会装備規程

1 一般要件

- 1.1 本大会に参加するすべての艇はクラス規則及び本指示書、実施要項（レース公示に相当）、帆走指示書に含まれる規則に従い検査される。ただし、各規則間で検査上矛盾が生じる場合はクラス規則及び本指示書が優先する。

1.2 装備の検査（大会計測）の流れ

流れ	留意事項
①受付（総務報道部）	識別マーク（ひし形）・白地シール
②計測シートを用意する	太線枠内を記入しておくこと。（大会 HP テクニカル委員会頁より各自ダウンロードし A4 サイズにて印刷すること）
③計測順番について	各クラスとも実施要項に基づき抽選された順番となる 9月2日（水）の10：30～10：45 と 12：00～13：00 15：00～15：15 は休憩時間とし計測は行わない。（時間は前後する可能性がある）
	計測日程は実施要項を参照
④必要書類用意	1.4 を参照
⑤各計測所にて受付	1.3 を参照
⑥検査	2 及び 5 を参照

1.3 計測受付・計測場所について（変更になる場合もある）

各計測場所前に各計測受付所があります。

470級	克雪ドーム内計測所
420級	克雪ドーム内計測所
国スポウインドサーフィン級	ウインドサーフィン計測所テント
セーリングスピリッツ級	克雪ドーム内計測所
ILCA 6 級 及び ILCA 7 級	克雪ドーム内計測所

1.4 必要書類について

艇種	確認書類	
	計測シート	計測証明書類
470級	必要	MC/MF (計測証明書)
420級	必要	MC/MF (計測証明書)
セーリングスピリッツ級	必要	不要
国スポウインドサーフィン級	必要	不要
ILCA 6 級	必要	不要
ILCA 7 級	必要	不要

※ 艇体とセール番号が異なる場合は、それぞれの「計測証明書」を持参すること。

※ 計測シートは、太枠内を事前に記入しておくこと。

※ MC/MFは必ず原本を持参のこと。

2 装備の検査（大会計測）

2.1 検査対象装備品について

- ① 470級、420級、セーリングスピリッツ級、ILCA 6 級、ILCA 7 級

計測する艇体、セール、スパー、艀装品は、1 艇 1 セットとする。

- ② 国スポウインドサーフィン級

1 つのボードに 2 枚のセールの使用が許可される。

マストの本数、センターボード・フィンの枚数に制限は無い。使用予定の全ての計測を行う。

2.2 検査する艇体、セール、スパー、艀装品等について

(1) 470級の検査準備

- ① 艇は乾燥状態でなければならないが、雨天時は別途TCより指示を行う。
- ② マストを倒し、センターボードを艇体から取り外し、ラダーはラダースtockから取り外して持ち込むこと。
- ③ セールは本指示書 6 に規定されている位置に県名・県番号シールを貼付しておくこと。
- ④ 個人用浮揚用具（PFD；スキッパー、クルー両名）及び曳航ロープの確認を行う。PFDはレースで使用するものを持参のこと。

(2) 420級の検査準備

- ① 艇は乾燥状態でなければならないが、雨天時は別途TCより指示を行う。
- ② マストを倒し、センターボードを艇体から取り外し、ラダーはラダースtockから取り外して持ち込んで下さい。
- ③ セールは本指示書 6 に規定されている位置に県名・県番号シールを貼付しておくこと。少年女子420級は、クラスルールに基づき本指示書 6 に規定された赤色ひし形の識別マークも貼付しておくこと。
- ④ 個人用浮揚用具（PFD；スキッパー、クルー両名）及び曳航ロープの確認を行う。PFDはレースで使用するものを持参のこと

(3) セーリングスピリッツ級の検査準備

- ① マストを倒し、艇（完全艀装に必要なものすべて）を持参すること。
- ② 曳航用ロープの長さをすぐに計測できるように準備をしておくこと。
- ③ 年登録シールの貼り付けを確認しておくこと。
- ④ セールには、本指示書 6 に規定されている位置に県名・県番号シールを貼付しておくこと。
- ⑤ 個人用浮揚用具（PFD；スキッパー、クルー両名）の確認を行う。レースで使用するものを持参のこと。

(4) **国スボウインドサーフィン級の検査準備**

- ① ボードは乾燥状態でなければならないが、雨天時は別途TCより指示を行う。
- ② センターボード、フィン、外した状態とする。
- ③ フィンは使用するものをすべて提示すること。ボードの重量計測に用いるフィンは最も軽いものとする。
- ④ センターボードは使用するものをすべて提示すること。ボードの重量計測に用いるセンターボードは最も軽いものとする。
- ⑤ セールはエリア計測を行なえる状態のこと。(2枚/1艇まで使用許可)
- ⑥ セールは本指示書6に規定されている位置に県名・県番号シールを貼付しておくこと。
- ⑦ 成年女子ウインドサーフィン級は、赤色ひし形の識別マークも貼付しておくこと。
- ⑧ 個人用浮揚用具(PFD)の確認を行う。レースで使用するものを持参のこと。

(5) **ILCA 6級・ILCA 7級の検査準備**

- ① ボトムマストを立て、ブームをセットした状態でロープ類を艀装し、トップマスト、センターボード、ラダー一式、バテン一式は艇体と一緒に持参のこと。クラスステッカーが見えるようにしておくこと。
- ② コンパスを使用する選手はコンパスを持参すること。
- ③ セールには本指示書6に規定されている位置に県名・県番号シールを貼付しておくこと。
成年女子 ILCA 6 級は、実施要項に規定された赤色ひし形の識別マークをクラスルールに基づき貼付しておくこと。
少年男子 ILCA 6 級は、実施要項に規定された青色ひし形の識別マークをクラスルールに基づき女子識別マークと同じ位置に貼付しておくこと。
- ④ 個人用浮揚用具(PFD)及び曳航ロープ(8m)の確認を行う。レースで使用するものを持参のこと。

(6) 計測がスムーズに行えるよう、検査に不要なものは降ろしておく、セールはバッグから取り出しておく等準備しておくことは選手の義務である。

(7) 以前の大会で貼られた計測シールやスタンプは検査前に剥がすか、消しておくこと。但しセールに押されたスタンプは除く。

3 検査が済んだ艇

- (1) 検査に合格した場合、「計測シート」は返却しない。
- (2) 不合格の場合、「計測シート」を返却する。不合格箇所を修正後に計測シートを持参のうえ計測受付を行い指示に従うこと。
- (3) 検査が終了した装備にはテクニカル委員会によって検査済み証(ステッカーまたはスタンプ)が付される。
- (4) 検査が終了した艇体、ボード、艀装品及びセールはテクニカル委員長の書面による許可無く決められたエリアから持ち出してはならない。

4 艇の交換・修理について

4.1 変更

艇が大会計測（検査）を完了した後、通常行われるフィッティング、整備、調整を除き、変更を行ってはならない。

4.2 交換・修理

あおもり国スポ HP (URL : <https://www.city.mutsu.lg.jp/sailing/>) より競技関連情報→各種申請→装備品の交換より入力し、申請すること。(racingsrulesofsailing.org あおもり国スポのページに移動します。)

オンラインフォームにより行うことが 困難な場合には、「テクニカル委員会」（下北克雪ドーム内計測所付近）で「装備品の交換」用紙を受け取り、記入後に「テクニカル委員会」に提出すること。

- ① 「テクニカル委員会」が申請を確認後、依頼者に連絡をおこなう。
- ② 修理の手配は各自で行うことテクニカル委員会は修理のアドバイス等を行わない。
- ③ 修理完了後に、「テクニカル委員会」にて交換・修理完了確認、または再計測を行う。

海上にて装備交換の必要が生じた場合は次のレースの準備信号より前に計測艇に口頭で交換の要請をすることができる。近くに計測艇が見つけられない場合 RC 艇、PC 艇に伝えることができる。この場合陸上に戻り次第、当該レース抗議締め切り時刻 30 分前までに上述の装備品の交換申請を行うこと。

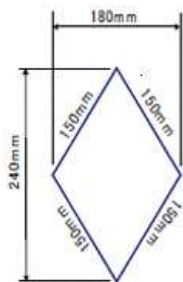
- 注 1 艇体、ボード、艀装品及びセールを交換・修理しようとする艇は、上述の通り、必ず「テクニカル委員会」に申請した後に、交換・修理を行うこと。
ただし、国スポウインドサーフィン級において、ボードの 10 mm x10 mm未満の小さな欠け・凹みの充填と滑らか化については選手の責任において修理することを妨げない。（フィンボックス、マストトラッカーに接するものを除く）
- 注 2 「テクニカル委員会」への「装備品の交換」の申請の受付は、その日の最終レース終了後、またはレース委員会が「本日はこれ以上レースを行わない」という信号を発した後のどちらか遅い方から 70 分まで、若しくは 18 時までの遅い方とする。それ以降の申請については翌日 8 時より受付する。

5 レース後の検査

各種目とも、各レース終了後に、海上または陸上にて確認検査を行うことがある。対象となった艇は速やかに計測員の指示に従い、確認検査を受けること。正当な理由なく確認検査を受けない艇は抗議の対象となる。

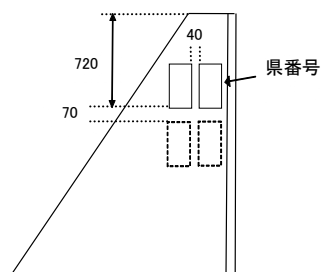
6 セール上の識別

- (1) 県名、県番号および識別マークの詳細は実施要項 4 競技上の規定及び方法 による。
- (2) 県名、県番号および識別マーク（ひし形）の表示位置
表示位置は、原則として次図による。ただし、クラスや国籍を示す記号及びセール番号と重ならないこと。
1 桁の県番号の場合は、2 桁県番号表示位置の中間に貼り付けること。
また、各寸法については多少の誤差は許される。（単位：mm）
- (3) 各種目のセールには、県名と県番号を付けていなければならない。県名（片面・スターボード側）は、470級、セーリングスピリッツ級、420級は1字 450 mm×450 mmで太さ 40 mm、国スポウインドサーフィン級、ILCA7級、ILCA6級は1字 380 mm×380 mmで太さ 32 mm、県番号（両面・スターボード側上）は、1字 270 mm×150 mmで太さ 40 mmとし、色は黒色でほぼ一定の太さのラインで書かれたものであること。
ただし、国スポウインドサーフィン級及びセーリングスピリッツ級（マイラーセール使用）のセールは、実行委員会が用意する白地のセールクロスの上に、県番号を貼付しなければならない。なお、白地のセールクロスは受付時に配布する。配布された白地のセールクロスは加工してはならない。県名、県番号および識別マークの詳細は実施要項 4 競技上の規定及び方法 による。
- (4) 識別マーク（ひし形）は実行委員会が用意し、受付時に配布する。識別マークを両面の同じ位置に表示しなければならない。なお、クラス規則に従った識別マークが表示されている場合は、そのまま使用してもよい。

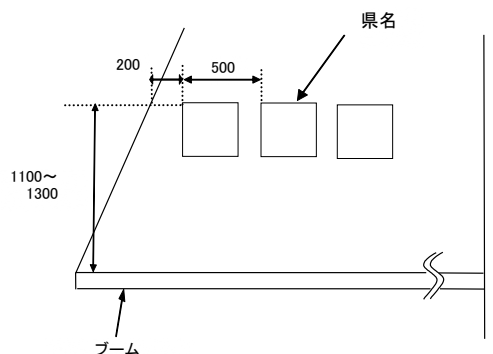
種 別	種 目	色	形 状
成年女子	国スポウインドサーフィン級 ILCA6級	赤	下記サイズ以上 
少年男子	ILCA6級	青	
少年女子	420級	赤	対角線の長さ最小 250mm

- (5) 競技者は、乗艇する際に着用する上着（個人用浮揚用具員用ハーネス、その他の衣類等）には、その背面に地色と明確に識別できる単色の文字で所属都道府県名を付けなければならない。文字は漢字とし、1文字の大きさは縦 100mm 以上、横 80mm 以上とする。

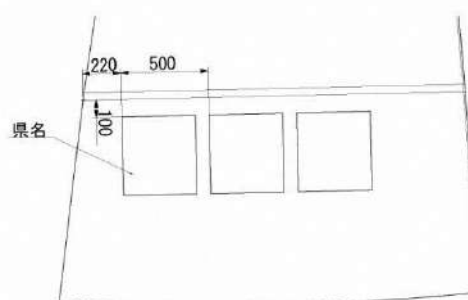
470 級 県番号表示位置



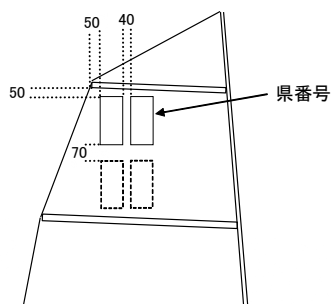
470 級 ・ セーリングスピリッツ級ダクロンセール 県名表示位置



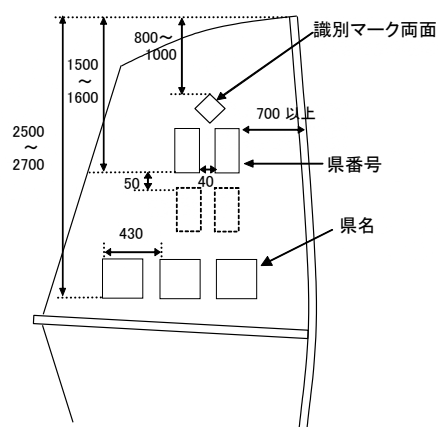
セーリングスピリッツ級マイラーセール 県番号・県名表示位置



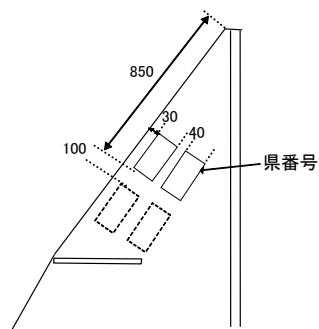
セーリングスピリッツ級ダクロンセール 県番号表示位置



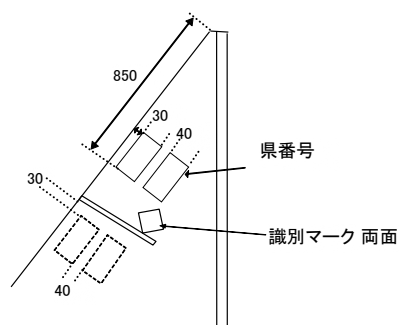
国スポウインドサーフィン級 県番号・県名表示位置



ILCA7級 県番号表示位置

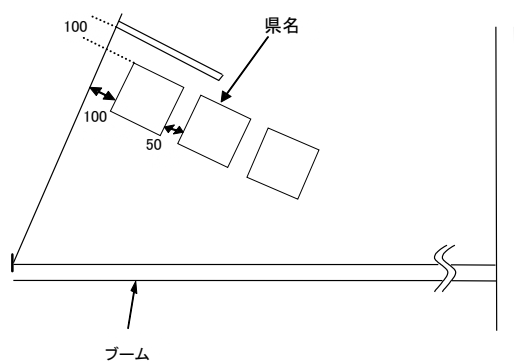


ILCA6級 県番号表示位置



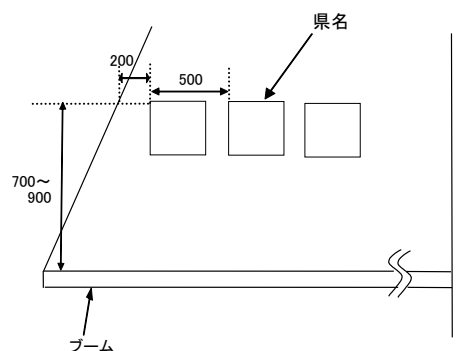
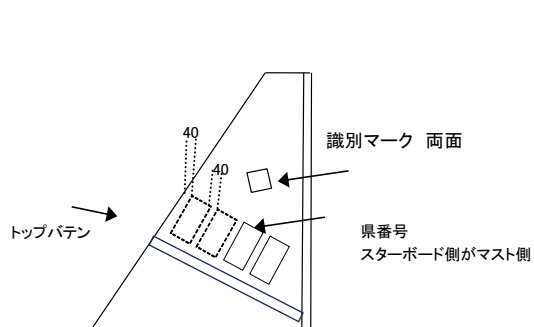
ILCA6 の識別マークは ILCA ハンドブック (2025 年版では 32 ページ) の図に従って貼らなければならない。男子 ILCA6 級の識別マークも女子識別マークと同じ位置に貼るものとする。

ILCA7級・ILCA6級 県名表示位置



※ ILCA7級・ILCA6級 県名表示位置に関して
ILCAについては「JPN」や「国旗」の表示は認められない。

420 級 県番号表示位置



あおもり国スポ2026 テクニカル委員会

式典次第

【大会会長トロフィー返還】

1. 日 時 2026年9月3日（金）16：00～16：25
2. 会 場 むつマエダアリーナ メインアリーナ 式典会場
3. 式 次 第

開 式 予 告	15：50
開 式 通 告	16：00
競技会開始宣言	16：01
国 旗 儀 礼	16：02
大 会 旗 儀 礼	16：04
大会会長トロフィー返還	16：06
競技会会長あいさつ	16：08
歓迎のことば	16：12
登壇者の紹介	16：20
選 手 宣 誓	16：23
閉 式 通 告	16：25

【種目別表彰式～前半の部～】

1. 日 時 2026年9月7日（月）13：00～13：30
2. 会 場 むつマエダアリーナ メインアリーナ 式典会場
3. 対象種目 2026年9月6日（日）までに終了した種目
4. 式 次 第

開 式 予 告	12：50
開 式 通 告	13：00
種目別成績発表	13：01
種 目 別 表 彰	13：07
閉 式 通 告	13：29

【種目別表彰式～後半の部～】

1. 日 時 2026年9月7日(月) 13:45～14:15
2. 会 場 むつマエダアリーナ メインアリーナ 式典会場
3. 対象種目 2026年9月7日(月)に終了した種目
4. 式次第

開 式 予 告	13:35
開 式 通 告	13:45
種目別成績発表	13:46
種 目 別 表 彰	13:50
閉 式 通 告	14:12

【総合表彰式】

1. 日 時 2026年9月7日(月) 14:30～15:10
2. 会 場 むつマエダアリーナ メインアリーナ 式典会場
3. 式次第

開 式 予 告	14:20
開 式 通 告	14:30
綜 合 成 績 発 表	14:31
表 彰 状 授 与	14:36
大会会長トロフィー授与	14:51
競技会会長あいさつ	14:55
感 謝 状 贈 呈	14:59
歓 送 の こ と ば	15:03
国 旗 儀 礼	15:07
大 会 旗 儀 礼	15:08
競技会終了宣言	15:09
閉 式 通 告	15:10

◇セーリング競技の見方◇

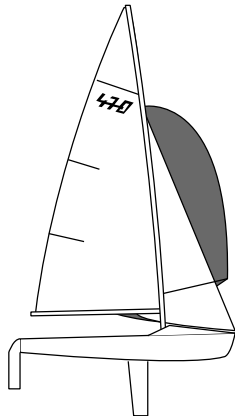
セーリング競技について

セーリング競技は、ジュニアから高齢者まで幅広い年齢層で楽しめる生涯スポーツであり、自然を相手に風と波だけを動力として船を走らせる、環境に優しいスポーツです。

セーリング競技大会は、オリンピック競技を始めアジア大会、世界選手権等多くの大会が国内外で開催され 国民スポーツ大会においては、昭和21年の第1回大会から採用されています。

国スポで採用されているヨットの種類 《2人乗り》

470級(成年男子)



【全長】：4.7m 【幅】：1.68m
【セール面積】：26.6㎡

470級は3枚の帆を使って走るプレーニングタイプ（滑走）のヨットで、オリンピック種目に採用されていることから、実業団、大学生、一般等で幅広く普及しています。

乗員の適正体重は2人の合計で130kg前後とされ、オリンピック種目の中でも最も軽量のクラスで、比較的に日本人向きであると言われています。

セーリングスピリッツ級(成年女子)



【全長】：4.3m 【幅】：1.74m
【セール面積】：27.6㎡

セーリングスピリッツ級は、世界の流れに合わせて日本セーリング連盟が開発したハイ・パフォーマンスな2人乗りヨットで、風下に向けてジェネカーセール(先頭にある帆)を展開すると、ハイスピードでパワフルなセーリングを楽しむことができます。

420級(少年男子・少年女子)



【全長】：4.2m 【幅】：1.63m
【セール面積】：22.05㎡

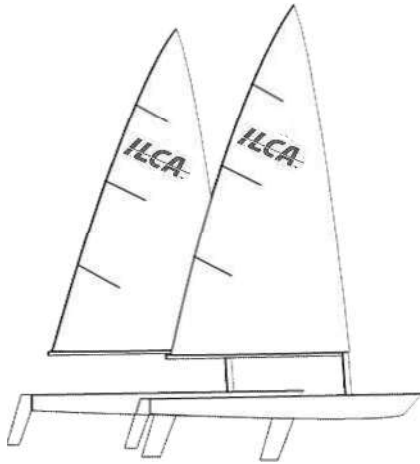
420級は、ISAF認定されたインターナショナルクラスで、世界的に普及しています。

大きな浮力タンクがあり、転倒状態でも艇は非常に安全です。世界中でユース世代のトレーニングボートとして活用され、平成27年高校総体和和歌山インターハイ、和歌山国体から導入された種目です。

《 1 人乗り 》

ILCA 7 級(成年男子)

ILCA 6 級(成年女子・少年男子・少年女子)



【全長】：4.23m 【幅】：1.37m

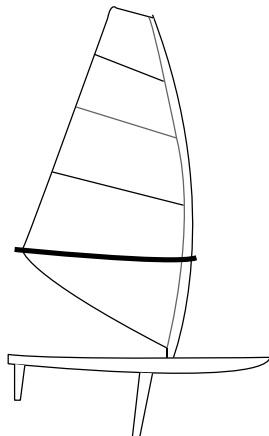
【ILCA 7 級セール面積】：7.06m²

【ILCA 6 級セール面積】：5.7m²

ILCA 7 級と ILCA 6 級は同じ艇体を使用し、2 本つなぎのマストの下部の長さを変えて使用します。

オリンピック種目に採用されていることから、ジュニアから一般まで幅広く普及していますが、強風時は、体力と気力の勝負になります。

国スポウインドサーフィン級(成年男子・成年女子)



【全長】：2.7～3.1m

【幅】：1.005m以下

【セール面積】：8.0m²以下

国スポウインドサーフィン級はワンデザインクラスではなく、規則に適合すれば、どこかのメーカーのボード・リグ・セールも使用できます。スピード感あふれるセーリング競技の中でも、最も体力が要求されます。

サーフボードとセールのみのシンプルな構造で、風速が6m/sを超えると、飛ぶように走ります。

都道府県別 参加申込 一覧表

地区	番号	都道府県	成 年				少 年			合 計			総計
			監督		選手		監督	選手		監督		選手	
			専任	兼任	男子	女子	専任	男子	女子	専任	兼任		
北海道	1	北 海 道	1		3	1	1	1	1	2	(0)	6	8
東北	2	青 森 県	1		4	3	1	3	2	2	(0)	12	14
	3	岩 手 県	1		4	2	1	2	3	2	(0)	11	13
	4	宮 城 県	1		4	3	1	3	3	2	(0)	13	15
	5	秋 田 県		(1)	3	3	1	2	2	1	(1)	10	11
	6	山 形 県	1		1		1	1	1	2	(0)	3	5
	7	福 島 県	1		1	1	1	1		2	(0)	3	5
関東	8	茨 城 県	1		1		1	3	3	2	(0)	7	9
	9	栃 木 県		(1)		1	1	1		1	(1)	2	3
	10	群 馬 県	1		2	1				1	(0)	3	4
	11	埼 玉 県	1		2	1				1	(0)	3	4
	12	千 葉 県	1		4	3	1	3	3	2	(0)	13	15
	13	東 京 都	1		4	4	1	3	3	2	(0)	14	16
	14	神 奈 川 県	1		4	3	1	3	1	2	(0)	11	13
	15	山 梨 県	1		4	1	1	3	2	2	(0)	10	12
北信越	16	新 潟 県	1		2	1	1		1	2	(0)	4	6
	17	長 野 県	1		2	3	1	3	1	2	(0)	9	11
	18	富 山 県	1		3	3	1	3	3	2	(0)	12	14
	19	石 川 県		(1)	3		1	3	2	1	(1)	8	9
	20	福 井 県	1		4	1	1	3	1	2	(0)	9	11
東海	21	静 岡 県	1		4	3	1	1		2	(0)	8	10
	22	愛 知 県	1		4	3	1	3	3	2	(0)	13	15
	23	三 重 県	1		4	2	1	3	3	2	(0)	12	14
	24	岐 阜 県		(1)	3	3	1	3	1	1	(1)	10	11
近畿	25	滋 賀 県	1		4	3	1	3	3	2	(0)	13	15
	26	京 都 府	1		4	2	1	1	3	2	(0)	10	12
	27	大 阪 府	1		3	1	1	1		2	(0)	5	7
	28	兵 庫 県	1		4	3	1	3	3	2	(0)	13	15
	29	奈 良 県	1		2	1	1	1		2	(0)	4	6
	30	和 歌 山 県	1		2	3	1	3	3	2	(0)	11	13
中国	31	鳥 取 県	1		3	3	1	3	2	2	(0)	11	13
	32	島 根 県	1		2		1	2	1	2	(0)	5	7
	33	岡 山 県	1		4	2	1	2	2	2	(0)	10	12
	34	広 島 県	1		3	3	1	3	3	2	(0)	12	14
	35	山 口 県	1		3	3	1	3	2	2	(0)	11	13
四国	36	香 川 県	1		2	2	1	3	3	2	(0)	10	12
	37	徳 島 県	1		3					1	(0)	3	4
	38	愛 媛 県	1			2	1	3	3	2	(0)	8	10
	39	高 知 県	1		3	3				1	(0)	6	7
九州	40	福 岡 県	1		4	4	1	3	3	2	(0)	14	16
	41	佐 賀 県	1		4	4	1	3	3	2	(0)	14	16
	42	長 崎 県		(1)	4	3	1		3	1	(1)	10	11
	43	熊 本 県	1		2	2	1	3	1	2	(0)	8	10
	44	大 分 県	1		4	4	1	3	3	2	(0)	14	16
	45	宮 崎 県	1		4	4	1	3		2	(0)	11	13
	46	鹿 児 島 県					1	3	1	1	(0)	4	5
	47	沖 縄 県	1		1	2	1		3	2	(0)	6	8
合 計			41	(5)	135	100	43	100	84	84	(5)	419	503
			235			184							

※ 選手兼任監督の人数は、監督の「兼任」欄に記入し、選手数としてカウントする。

監督名（成年・少年）一覧表

県番	都道府県	成 年		少 年	
		氏 名	所 属	氏 名	所 属
1	北海道	阿部 佳苗	北海道苫小牧東高等学校(教)	高橋 憲太	北海道小樽水産高等学校(教)
2	青森県	小田桐 俊亮	森田麴・味噌店	浅利 正	青森県セーリング連盟
3	岩手県	越田 幸樹	宮古市役所	小野寺 優	岩手県立宮古商工高等学校(教)
4	宮城県	天野 宏二	仙台第二高等学校(教)	伊藤 嘉宣	石巻高等学校(教)
5	秋田県	齋藤 大輔	白滝旅館	高橋 陵	株式会社 トータルリペアー
6	山形県	木村 和人	山形県立加茂水産高等学校(教)	富樫 力	株式会社全農ライフサポート山形
7	福島県	齋藤 道明	福島県立小名浜海星高等学校(教)	高橋 哲司	有限会社タカハシ設計
8	茨城県	木村 俊介	株式会社筑波銀行	西村 祐司	霞ヶ浦高等学校(教)
9	栃木県	小嶺 恵美	栃木県セーリング連盟	山口 恵資	栃木県セーリング連盟
10	群馬県	吉田 裕文	高崎市立八幡小学校(教)		
11	埼玉県	谷 正安	川口市役所		
12	千葉県	斉藤 威	千葉県セーリング連盟	天貝 謙介	千葉市立稲毛高等学校・千葉市立稲毛国際中等教育学校(教)
13	東京都	池田 知之	株式会社グッドウィン	大島 卓也	岩城製菓株式会社
14	神奈川県	佐々木 共之	横浜市消防局 金沢消防署	廣瀬 一貴	SCSK株式会社
15	山梨県	谷尾 美樹	山梨県立富士山世界遺産センター	牧井 修一	株式会社富士急ハイランド
16	新潟県	津野 洋	敦井産業(株)	成山 義人	新潟県庁
17	長野県	本山 誠	自営(トライ・ツー・ヘルス)	進藤 一樹	株式会社サイサン
18	富山県	村井 隆	南砺福野高等学校(教)	岡田 一広	(株)エイ・テック
19	石川県	岩城 宏志	石川県立羽咋工業高等学校(教)	南 健介	石川県立羽咋工業高等学校(教)
20	福井県	大垣 昭彦	福井県立若狭東高等学校(教)	金池 崇	福井県立三国高等学校(教)
21	静岡県	中嶋 浩二郎	NPO法人 静岡県セーリング連盟	中島 量敏	NPO法人 静岡県セーリング連盟
22	愛知県	竹内 康人	株式会社アイシン	山田 健一朗	碧海冷蔵製氷株式会社
23	三重県	杉谷 典明	本田技研工業株式会社鈴鹿製作所	伊藤 秀郎	三重県立津工業高等学校(教)
24	岐阜県	日比野 絵美	株式会社OKBビジネス	水谷 浩也	岐阜県立海津明誠高等学校(教)
25	滋賀県	中村 滋男	オムロン株式会社	安田 真之助	滋賀県立膳所高等学校(教)
26	京都府	大江 信	宮津市教育委員会	神原 里佳	日本郵便 株式会社
27	大阪府	藤原 洋彰	関西映興株式会社	島田 宏	二色ハーバー
28	兵庫県	西尾 隆	兵庫県立海洋体育館	中澤 暁子	兵庫県セーリング連盟
29	奈良県	森谷 大悟	株式会社ファルコバイオシステムズ	平野 貴也	天理大学(教)
30	和歌山県	中村 厚子	和歌山セーリングクラブ	高橋 航	和歌山県立星林高等学校(教)
31	鳥取県	中村 昭仁	境港市役所	阿部 幸久	公益財団法人鳥取県スポーツ協会
32	島根県	中西 賢一	隠岐の島町中央公民館	大門 伸之	島根県教育庁
33	岡山県	小西 立基	岡山県立邑久高等学校(教)	西岡 正人	岡山県立倉敷鷺羽高等学校(教)
34	広島県	小菅 正幸	(株)砂原組	坂本 亘	広島県立広島国泰寺高等学校(教)
35	山口県	中村 公俊	公益財団法人山口県ひとづくり財団	中村 光恵	公益財団法人山口県ひとづくり財団
36	香川県	九畠 潤一郎	アグロカネショウ株式会社	佐伯 健太	県立高松商業高等学校(教)
37	徳島県	澳津 康賀	徳島県セーリング連盟		
38	愛媛県	大槻 映幸	松山酸素株式会社	望月 航	愛媛県立新居浜東高等学校(教)
39	高知県	文野 順夫	高知県セーリング連盟		
40	福岡県	吉岡 岳史	Hundred	立石 欣也	福岡県立水産高等学校(教)
41	佐賀県	中山 英弘	唐津土建工業株式会社	宮野 幹弘	Team SAGA SPORT PYRAMID
42	長崎県	奥田 耕大	九州建設コンサルタント(株)	西村 隆	西部ガスリビング(株)
43	熊本県	村上 裕一	熊本市消防局南消防署	境 香苗	熊本市立力合中学校(教)
44	大分県	五十川 浩司	津久見市役所	河野 義樹	大分市役所
45	宮崎県	橋口 昭彦	県立都城工業高等学校(教)	平島 昇	県立日南振徳高等学校(教)
46	鹿児島県			勝田 哲英	鹿児島県立垂水高等学校(教)
47	沖縄県	有銘 兼一	沖縄県セーリング連盟	崎原 恒佑	沖縄県セーリング連盟

成年男子 470級 出場選手一覧表

県番	都道府県	氏 名	所 属	氏 名	所 属
1	北海道	村口 直輝	北海道大学	岩本 昂之	北海道大学
2	青森県	小濱 暖士	株式会社青森みちのく銀行	小田切 詞音	日本経済大学
3	岩手県	村上 凌哉	岩手県庁	瀬川 雄史	ヤンマー船用システム株式会社
4	宮城県	鱒淵 溪介	東北大学	岡 勢太郎	東北大学
5	秋田県	與齊 将太	合同会社 よさい	鈴木 智之	ダイニチ工業 株式会社
6	山形県				
7	福島県				
8	茨城県				
9	栃木県				
10	群馬県				
11	埼玉県				
12	千葉県	宮田 權澄	芝浦工業大学	玉井 瑛士	東レ建設株式会社
13	東京都	本多 佑基	平成医会	狩野 弁慶	平成医会
14	神奈川県	宇田川 涼太郎	神奈川県セーリング連盟	松山 大祐	早稲田大学大学院
15	山梨県	渡辺 隆蔵	ペンションノーティカオン	羽田 玲	キャノンアネルバ株式会社
16	新潟県				
17	長野県				
18	富山県	村瀬 慎太郎	東洋検査工業(株)	岡田 雅樹	和歌山大学
19	石川県	瀧川 明生	石川県立七尾東雲高等学校(教)	中村 烈	みづほ工業株式会社
20	福井県	牧村 祐樹	小浜信用金庫	東野 良治	有限会社アルファプラン
21	静岡県	植屋 日志	浜松市役所	渡辺 駿	(株)丸玉運送
22	愛知県	田中 年彦	株式会社豊田自動織機	平田 佳佑	株式会社豊田自動織機
23	三重県	岡田 海洋	三重県セーリング連盟	福島 真	三重県セーリング連盟
24	岐阜県	児玉 洋輝	株式会社豊田自動織機	守屋 晴喜	大垣消防組合消防本部
25	滋賀県	大石 駿水	特定非営利活動法人滋賀県セーリング連盟	西内 颯	株式会社滋賀銀行
26	京都府	上中 惇郎	京都大学 大学院	保家 大将	京都大学 大学院
27	大阪府				
28	兵庫県	神木 聖	ヤマハ発動機株式会社	西垣 翔平	明光電子株式会社
29	奈良県				
30	和歌山県				
31	鳥取県	池田 海人	公益財団法人鳥取県スポーツ協会	宮崎 朝光	鳥取県地域社会振興部スポーツ振興局スポーツ課
32	島根県				
33	岡山県	山本 宝	株式会社ダイキョウクリーン	守時 秀平	株式会社岡山村田製作所
34	広島県	田口 一成	広島アルミニウム工業(株)	宮崎 大輔	(株)東和テクノロジー
35	山口県	中田 佳佑	関西学院大学	内山 昂	立命館大学
36	香川県				
37	徳島県	長久 虎太郎	徳島大学	西谷 光謙	徳島大学
38	愛媛県				
39	高知県	青木 真	高知県立嶺北高等学校(教)	茨木 恵信	高知大学大学院
40	福岡県	濱田 登羽	(株)えん	安永 昂生	(株)福岡銀行
41	佐賀県	坂本 帆嵩	株式会社名村造船所	佐藤 友星	SAGA SAILING
42	長崎県	桑岡 育	サクラ精機(株)長崎研究開発センター	小倉 直人	長崎大学大学院
43	熊本県				
44	大分県	高山 大智	ヤマハマリーナ株式会社	疋田 大晟	ヤマハ発動機株式会社
45	宮崎県	宮本 健吾	植松商事	外薗 潤平	公益財団法人宮崎県スポーツ協会
46	鹿児島県				
47	沖縄県				

成年男子 ILCA7級 出場選手一覧表

県番	都道府県	氏 名	所 属
1	北海道	森本 一輝	北海道小樽水産高等学校(教)
2	青森県	角田 一瑳	株式会社豊田自動織機
3	岩手県	齊藤 零	千葉大学
4	宮城県	小野寺 正一郎	S.TRADES
5	秋田県	齋藤 大輔	白滝旅館
6	山形県	佐藤 勝則	山形県立加茂水産高等学校(教)
7	福島県	佐藤 正志	有限会社佐藤会計事務所
8	茨城県		
9	栃木県		
10	群馬県	大川 晃弘	湘南工科大学附属高等学校(教)
11	埼玉県	齋藤 吉彦	埼玉県セーリング連盟
12	千葉県	吉野 佑哉	神奈川大学
13	東京都	竹内 修祐	Panasonic Housing Solutions Co., Ltd.
14	神奈川県	岡田 佳悟	早稲田大学
15	山梨県	坂本 宇央	株式会社バイトレ
16	新潟県	諸橋 春雄	NECフィールディング(株)
17	長野県	井上 瑤	上伊那広域消防本部
18	富山県	沢田 二二男	タワーパートナーズセミコンダクター(株)
19	石川県	岩城 宏志	石川県立羽咋工業高等学校(教)
20	福井県	岩谷 昌慶	株式会社福井村田製作所
21	静岡県	杉山 航一朗	(株)ブルーオーシャンシステム
22	愛知県	永井 久規	豊田合成株式会社
23	三重県	黒田 浩渡	ナブテスコ株式会社
24	岐阜県	加藤 文弥	海津市役所
25	滋賀県	今井 駿佑	若鯨
26	京都府	嶋倉 照晃	早稲田大学
27	大阪府	金森 健次	大阪府ヨットセーリング連盟
28	兵庫県	太田 誠	古野電気株式会社
29	奈良県	福田 育弘	日本国土開発
30	和歌山県	中村 悠耶	和歌山セーリングクラブ
31	鳥取県	西尾 将輝	株式会社ノースセール・ジャパン
32	島根県	大国 明太郎	(株)名門大洋フェリー
33	岡山県	森岡 数明	(株)元浜組
34	広島県	前田 博志	マツダ(株)
35	山口県		
36	香川県	南原 健一	株式会社JERA
37	徳島県		
38	愛媛県		
39	高知県	木下 陽仁	高知県立林業大学校
40	福岡県	豊澄 成光	九州大学
41	佐賀県	南里 研二	株式会社ミゾタ
42	長崎県	奥田 耕大	九州建設コンサルタント(株)
43	熊本県	光永 雅翔	崇城大学
44	大分県	工藤 光大朗	株式会社 大分銀行
45	宮崎県	折田 広大	株式会社ニチワ
46	鹿児島県		
47	沖縄県		

成年男子 国スパウインドサーフィン級 出場選手一覧表

県番	都道府県	氏 名	所 属
1	北海道		
2	青森県	堀内 大輔	八戸市立市民病院
3	岩手県	伊藤 茂夫	ムラテック
4	宮城県	小林 朋寛	大阪大学
5	秋田県		
6	山形県		
7	福島県		
8	茨城県	永井 稜大	文化シャッター株式会社
9	栃木県		
10	群馬県	青木 佑輔	前橋市役所
11	埼玉県	田中 洋治郎	日本パルプ商事
12	千葉県	中村 幸太郎	富士通株式会社
13	東京都	高津 一晃	東京建物株式会社
14	神奈川県	長戸 元一	グローブシップ株式会社
15	山梨県	甲斐 祥文	多摩川エアロシステムズ株式会社
16	新潟県	大岩 諒馬	㈱リブロネクスト
17	長野県	辻元 南	セイコーエプソン株式会社
18	富山県		
19	石川県		
20	福井県	三木 康司	国立若狭湾青少年自然の家
21	静岡県	市川 和典	ヤマハ発動機(株)
22	愛知県	藤原 海	株式会社アイシン
23	三重県	大瀬 快ヘルマン	蒲郡市民病院
24	岐阜県		
25	滋賀県	板庇 雄馬	有限会社かんとリーはーばー
26	京都府	齋藤 雄悟	株式会社 京都銀行
27	大阪府		
28	兵庫県	田中 宏樹	株式会社三井住友銀行
29	奈良県	奥田 順一	フリーランス
30	和歌山県	尾川 潤	株式会社島精機製作所
31	鳥取県		
32	島根県	作野 達雄	中国環境テクノス(株)
33	岡山県	條本 和宏	瀬戸内市役所
34	広島県		
35	山口県	神田 俊斗	明治大学
36	香川県	上田 武司	株式会社タダノ
37	徳島県	近藤 圭三	(株)オールケアグループ
38	愛媛県		
39	高知県		
40	福岡県	村田 高亮	(株)東栄住宅
41	佐賀県	倉持 大也	Team SAGA SPORT PYRAMID
42	長崎県	水田 長兵	社会医療法人恵愛会大分中村病院
43	熊本県	河野 宏和	堤歯科医院
44	大分県	黒石 勇次	北杵築郵便局
45	宮崎県	三浦 圭	公益財団法人宮崎県スポーツ協会
46	鹿児島県		
47	沖縄県	岸岡 昂生	琉球大学

成年女子 セーリングスピリッツ級 出場選手一覧表

県番	都道府県	氏 名	所 属	氏 名	所 属
1	北海道				
2	青森県	大久 千由希	海上自衛隊	似内 祐佳	海上自衛隊
3	岩手県	織笠 莉瑚	株式会社東北銀行	山本 朔楽	宮古市役所
4	宮城県	八木 杏奈	東北大学	向出 智絵	東北大学
5	秋田県	松田 のどか	株式会社 アルファシステムズ	佐藤 瑞貴	秋田県セーリング連盟
6	山形県				
7	福島県				
8	茨城県				
9	栃木県				
10	群馬県				
11	埼玉県				
12	千葉県	市村 みずき	株式会社 Q'sfix	三浦 帆香	千葉県セーリング連盟
13	東京都	岩波 萌夏	明治大学	松浦 世奈	明治大学
14	神奈川県	矢口 梨絵	株式会社ノースセール・ジャパン	須永 笑顔	住友生命保険相互会社
15	山梨県				
16	新潟県				
17	長野県	白澤 よしの	佐久市役所	矢口 文香	長野信用金庫
18	富山県	栗原 こまき	日本郵便㈱	井黒 有咲	TISI(株)
19	石川県				
20	福井県				
21	静岡県	山崎 彩加	静岡ガス(株)	内田 愛理	沼津市役所
22	愛知県	岩月 愛望	トヨタ自動車株式会社	井口 七海	中部電力株式会社
23	三重県				
24	岐阜県	堀畑 南帆	瑞穂市立穂積小学校(教)	日比野 絵美	株式会社OKBビジネス
25	滋賀県	續木 茄可	滋賀中央信用金庫	横田 倭子	同志社大学
26	京都府	側田 晴楽	合同会社 BBマリン	関端 陽乃	同志社大学
27	大阪府	河合 由香	河合利紀税理士事務所	山下 かおり	近畿地方更生保護委員会
28	兵庫県	池崎 里菜	兵庫県セーリング連盟	藤尾 万唯華	兵庫県セーリング連盟
29	奈良県				
30	和歌山県	藤原 優咲	明治大学	磯野 すみれ	大阪商業大学
31	鳥取県	森山 伊織	同志社大学	林 深姫	関西学院大学
32	島根県				
33	岡山県	入江 美帆	和気町立和気こここ園	金高 伽耶	瀬戸内市教育委員会
34	広島県	小菅 楓	山田コンサルティンググループ(株)	浅田 愛子	(公財)広島県セーリング連盟
35	山口県	棟近 日菜	関西学院大学	池田 楓	京都産業大学
36	香川県				
37	徳島県				
38	愛媛県	真鍋 ひかる	日泉化学株式会社	田中 愛海	新居浜市役所
39	高知県	岡村 亜衣子	高知大学	川上 なお	高知大学
40	福岡県	花田 佳	日本経済大学	占部 心美	同志社大学
41	佐賀県	中山 由菜	Team SAGA SPORT PYRAMID	宮崎 歩美	株式会社九電送配用地プラス
42	長崎県	出田 紫和	明治大学	西平 優菜	国立大学法人鹿屋体育大学
43	熊本県				
44	大分県	清松 美来	関西学院大学	首藤 胡春	関西学院大学
45	宮崎県	鈴木 身祐希	株式会社エヌエヌシー	深江 夏鈴	鹿屋体育大学
46	鹿児島県				
47	沖縄県				

成年女子 ILCA6級 出場選手一覧表

県番	都道府県	氏 名	所 属
1	北海道	畑山 絵里	(株)パレス管工
2	青森県	青山 紫音	関東学院大学
3	岩手県		
4	宮城県	橋本 小百合	トヨタ自動車東日本株式会社
5	秋田県	神谷 怜	新潟大学
6	山形県		
7	福島県	高橋 香	福島県立小名浜海星高等学校(教)
8	茨城県		
9	栃木県		
10	群馬県	吉良 帆乃花	東京都立大学
11	埼玉県		
12	千葉県	千葉 友唯奈	東京外国語大学
13	東京都	富部 柚三子	東京都セーリング連盟
14	神奈川県		
15	山梨県	渡辺 房子	日富士株式会社
16	新潟県	宮島 千晶	信越化学工業(株)
17	長野県		
18	富山県	嶋倉 雅	京都産業大学
19	石川県		
20	福井県	藤井 あゆ美	SPORTS×RYOKU LAB
21	静岡県	三浦 凧砂	(株)静岡銀行
22	愛知県	柿元 麻衣	株式会社豊田自動織機
23	三重県	河原 由佳	共栄火災海上保険株式会社
24	岐阜県	北林 風花	岐阜県立海津明誠高等学校(教)
25	滋賀県		
26	京都府		
27	大阪府	丸田 杏	株式会社モンベル
28	兵庫県		
29	奈良県	徳武 陽渚	京都薬科大学
30	和歌山県	西島 里彩	和歌山県立医科大学附属病院
31	鳥取県	船澤 奈菜	同志社大学
32	島根県		
33	岡山県		
34	広島県	濱田 華帆	福山市役所
35	山口県		
36	香川県	石田 穂乃香	直島町役場
37	徳島県		
38	愛媛県		
39	高知県	小林 胡由希	(株)高知電子計算センター
40	福岡県	梶本 和歌子	WakakoRacing
41	佐賀県	黒田 美海	鹿屋体育大学
42	長崎県	森濱 美咲	星野管工設備(株)
43	熊本県	西澤 佳菜	熊本大学
44	大分県	平林 咲優	大分県警察
45	宮崎県	中村 アンナ	公益財団法人宮崎県スポーツ協会
46	鹿児島県		
47	沖縄県	三部 碧	沖縄県環境科学センター

成年女子 国スポウインドサーフィン級 出場選手一覧表

県番	都道府県	氏 名	所 属
1	北海道		
2	青森県		
3	岩手県		
4	宮城県		
5	秋田県		
6	山形県		
7	福島県		
8	茨城県		
9	栃木県	小嶺 恵美	栃木県セーリング連盟
10	群馬県		
11	埼玉県	鍊石 恵子	富士フィルム(株)
12	千葉県		
13	東京都	豊岡 美枝	京浜警備保障株式会社
14	神奈川県	堀川 智江	セントラルスポーツ株式会社
15	山梨県		
16	新潟県		
17	長野県	酒井 七海	セキスイハイム信越株式会社
18	富山県		
19	石川県		
20	福井県		
21	静岡県		
22	愛知県		
23	三重県	杉本 寧々	(株)NTTデータ経営研究所
24	岐阜県		
25	滋賀県	吉岐 朋子	同志社大学
26	京都府		
27	大阪府		
28	兵庫県	田中 聖奈	三井住友海上火災保険株式会社
29	奈良県		
30	和歌山県		
31	鳥取県		
32	島根県		
33	岡山県		
34	広島県		
35	山口県	林 つぐみ	明治大学
36	香川県	高木 未散	香川BSC
37	徳島県		
38	愛媛県		
39	高知県		
40	福岡県	福本 奈緒	京都大学
41	佐賀県	倉持 優帆	Team SAGA SPORT PYRAMID
42	長崎県		
43	熊本県	川端 貴美可	宇城市立河江小学校(教)
44	大分県	本村 藍叶	大分大学
45	宮崎県	新嶋 莉奈	公益財団法人宮崎県スポーツ協会
46	鹿児島県		
47	沖縄県	大桃 ひなた	琉球大学

少年男子 420級 出場選手一覧表

県番	都道府県	氏 名	所 属	氏 名	所 属
1	北海道				
2	青森県	大中 惣介	青森県立青森工業高等学校	宮越 大士	青森県立青森工業高等学校
3	岩手県	高屋敷 夢志	岩手県立宮古高等学校	赤沼 航明	岩手県立宮古高等学校
4	宮城県	阿部 慶志	宮城県塩釜高等学校	鎌内 栄輔	宮城県塩釜高等学校
5	秋田県	佐藤 佑匡	秋田県立本荘高等学校	吉川 拳矢	秋田県立本荘高等学校
6	山形県				
7	福島県				
8	茨城県	角森 未岬	霞ヶ浦高等学校	浅野 悠真	霞ヶ浦高等学校
9	栃木県				
10	群馬県				
11	埼玉県				
12	千葉県	辻本 琉翔	千葉県立磯辺高等学校	長井 泰平	千葉県立磯辺高等学校
13	東京都	上條 正弘	目黒日本大学高等学校	中前 荘汰	早稲田大学高等学院
14	神奈川県	前田 海悟	逗子開成高等学校	廣瀬 一慧	逗子開成高等学校
15	山梨県	松田 琉依	山梨県立富士北稜高等学校	高村 俊汰	山梨県立富士北稜高等学校
16	新潟県				
17	長野県	砂田 昊ノ輔	大町市立大町中学校	井上 航希	伊那市立伊那中学校
18	富山県	長澤 駈	新湊高等学校	藤原 そら	新湊高等学校
19	石川県	網 拓海	石川県立羽咋工業高等学校	川島 琉翔	石川県立羽咋工業高等学校
20	福井県	高橋 昇太郎	福井県立三国高等学校	小林 将大	福井県立三国高等学校
21	静岡県				
22	愛知県	高須 海輝	愛知県立半田高等学校	堀江 陽介	愛知県立半田高等学校
23	三重県	岡田 晴	三重県立津工業高等学校	山住 愛翔	三重県立津工業高等学校
24	岐阜県	工藤 寛也	岐阜県立海津明誠高等学校	水谷 航大	岐阜県立海津明誠高等学校
25	滋賀県	三枅 俊介	滋賀県立膳所高等学校	立岡 璃久	滋賀県立膳所高等学校
26	京都府				
27	大阪府				
28	兵庫県	中澤 太郎	清風高等学校	大塚 健斗	清風高等学校
29	奈良県				
30	和歌山県	中野 瑠一	和歌山県立和歌山工業高等学校	伊藤 匠史	和歌山県立和歌山工業高等学校
31	鳥取県	山本 汐穂	鳥取県立境高等学校	安田 悠汰	鳥取県立境高等学校
32	島根県	板倉 優雅	島根県立隠岐水産高等学校	高橋 逸真	島根県立隠岐水産高等学校
33	岡山県	松枝 市悟	岡山県立倉敷鷺羽高等学校	野間 礼雅	岡山県立倉敷鷺羽高等学校
34	広島県	内園 陽空	広島県立広島国泰寺高等学校	塩澤 賢登	広島県立広島国泰寺高等学校
35	山口県	田中 大基	YAMAGUCHIジュニアスリートアカデミー	梶村 幸永	YAMAGUCHIジュニアスリートアカデミー
36	香川県	川北 智大	県立高松商業高等学校	水澤 諒	県立高松商業高等学校
37	徳島県				
38	愛媛県	古川 拓海	愛媛県立新居浜東高等学校	杉本 壮優	愛媛県立新居浜東高等学校
39	高知県				
40	福岡県	倉元 優羽	福岡第一高等学校	永見 宗士	福岡第一高等学校
41	佐賀県	大坪 築	佐賀県立唐津西高等学校	米倉 烈	佐賀県立唐津西高等学校
42	長崎県				
43	熊本県	今野 陽太	熊本県立宇土高等学校	今野 幹太	熊本県立宇土高等学校
44	大分県	藤原 碧海	大分県立別府翔青高校	吉永 晴空	大分県立別府翔青高校
45	宮崎県	井上 勇翔	県立宮崎海洋高等学校	板井 英心	県立日南振徳高等学校
46	鹿児島県	西郷 永進	鹿児島県立錦江湾高等学校	肝付 悠	鹿児島県立錦江湾高等学校
47	沖縄県				

少年男子 ILCA6級 出場選手一覧表

県番	都道府県	氏 名	所 属
1	北海道	中西 逞	北海道小樽水産高等学校
2	青森県	千島 大河	青森県立青森工業高等学校
3	岩手県		
4	宮城県	平塚 翔壘	仙台第一高等学校
5	秋田県		
6	山形県	中嶋 寿帆	山形県立加茂水産高等学校
7	福島県	佐藤 瑛晟	福島県立小名浜海星高等学校
8	茨城県	源関 新	霞ヶ浦高等学校
9	栃木県	樋口 颯希	那須塩原市立西那須野中学校
10	群馬県		
11	埼玉県		
12	千葉県	千葉 陽真	千葉市立稲毛高等学校・千葉市立稲毛国際中等教育学校
13	東京都	岩波 将吾	ドルトン東京学園高等部
14	神奈川県	森 郁人	関東学院六浦高等学校
15	山梨県	高村 拓豊	山梨県立富士北稜高等学校
16	新潟県		
17	長野県	水藤 大志	白馬高等学校
18	富山県	氏家 琉星	高岡高等学校
19	石川県	岡島 楓季	石川県立羽咋工業高等学校
20	福井県	長谷川 煌	福井県立三国高等学校
21	静岡県	村木 風斗	静岡県立熱海高等学校
22	愛知県	内藤 駿太	愛知県立碧南高等学校
23	三重県	東川 冬磨	三重県立津工業高等学校
24	岐阜県	丹羽 風絢	岐阜県立海津明誠高等学校
25	滋賀県	溪 舜	滋賀県立膳所高等学校
26	京都府	山口 斉祥	京都府立海洋高等学校
27	大阪府	岡本 莉津斗	大阪立命館高等学校
28	兵庫県	檜垣 俊忠	カナディアンアカデミー
29	奈良県	亀松 空湊	奈良県立生駒高等学校
30	和歌山県	安井 迅悟	和歌山県立星林高等学校
31	鳥取県	井上 航汰	国立米子工業高等専門学校
32	島根県		
33	岡山県		
34	広島県	豊澄 隆成	広島なぎさ高等学校
35	山口県	荒木 渚吾	山口県立豊浦高等学校
36	香川県	津川 翔	県立高松商業高等学校
37	徳島県		
38	愛媛県	松岡 忠尚	愛媛県立松山東高等学校
39	高知県		
40	福岡県	久松 志摩	福岡第一高等学校
41	佐賀県	金子 琉和	佐賀県立唐津西高等学校
42	長崎県		
43	熊本県	秋山 恵澄	熊本県立宇土高等学校
44	大分県	田口 湊大	大分県立海洋科学高校
45	宮崎県	廣池 颯	県立宮崎大宮高等学校
46	鹿児島県	新名 大河	鹿児島県立錦江湾高等学校
47	沖縄県		

少年女子 420級 出場選手一覧表

県番	都道府県	氏 名	所 属	氏 名	所 属
1	北海道				
2	青森県	笹 真由美	青森県立青森工業高等学校	矢本 明香莉	青森県立青森工業高等学校
3	岩手県	小笠原 実咲	岩手県立宮古高等学校	倉持 芽依	岩手県立宮古高等学校
4	宮城県	伊勢 あかり	石巻高等学校	遠藤 日向子	石巻高等学校
5	秋田県	畠山 桃子	秋田県立本荘高等学校	伊藤 由良	秋田県立本荘高等学校
6	山形県				
7	福島県				
8	茨城県	井坂 文菜	霞ヶ浦高等学校	實松 莉歩	霞ヶ浦高等学校
9	栃木県				
10	群馬県				
11	埼玉県				
12	千葉県	高井 菜名	千葉市立稲毛高等学校・千葉市立稲毛国際中等教育学校	奥田 智恵	千葉市立稲毛高等学校・千葉市立稲毛国際中等教育学校
13	東京都	小林 和奏	自由ヶ丘学園高等学校	佐藤 麻衣	東京都立大島海洋国際高等学校
14	神奈川県				
15	山梨県	野口 由芽	山中湖村立山中湖中学校	山本 茜	山中湖村立山中湖中学校
16	新潟県				
17	長野県				
18	富山県	織田 唯莉	新湊高等学校	西尾 空子	新湊高等学校
19	石川県	今村 美優	石川県立羽咋工業高等学校	中嶋 さと	石川県立羽咋工業高等学校
20	福井県				
21	静岡県				
22	愛知県	服部 伶美	愛知県立半田高等学校	津田 愛実	愛知県立半田高等学校
23	三重県	福島 笑莉	三重県立津工業高等学校	福島 奈羅	三重県立津工業高等学校
24	岐阜県				
25	滋賀県	元藤 更紗	滋賀県立膳所高等学校	浦霜 詩音	滋賀県立膳所高等学校
26	京都府	東山 奈未	立命館高等学校	鈴木 彬乃	立命館高等学校
27	大阪府				
28	兵庫県	森下 芽依	兵庫県立芦屋高等学校	福岡 桃佳	兵庫県立芦屋高等学校
29	奈良県				
30	和歌山県	村田 楓	和歌山県立星林高等学校	木下 琴穂	和歌山県立向陽高等学校
31	鳥取県	村中 莉子	鳥取県立境高等学校	井口 梨沙	鳥取県立境高等学校
32	島根県				
33	岡山県	清水 穂乃花	岡山県立邑久高等学校	山内 愛梨亜	岡山県立倉敷鷺羽高等学校
34	広島県	登田 未央	呉工業高等専門学校	佐々木 春乃	広島県立広島国泰寺高等学校
35	山口県	森 奈月菜	山口県立光高等学校	中村 礼	山口県立光高等学校
36	香川県	河内 聖奈	県立高松商業高等学校	植田 桃羽	県立高松商業高等学校
37	徳島県				
38	愛媛県	池本 楓珈	愛媛県立新居浜東高等学校	潮見 咲衣	愛媛県立新居浜東高等学校
39	高知県				
40	福岡県	坂口 美結	太宰府市立太宰府東中学校	中山 瑠梨	福岡第一高等学校
41	佐賀県	久保田 結花	佐賀県立唐津西高等学校	宮口 釉美	佐賀県立唐津西高等学校
42	長崎県	亀田 愛美	長崎県立長崎工業高等学校	杉本 ひなた	長崎県立長崎工業高等学校
43	熊本県				
44	大分県	姫嶋 唯華	大分県立別府翔青高校	山形 咲公	大分県立別府翔青高校
45	宮崎県				
46	鹿児島県				
47	沖縄県	平良 海咲	沖縄県立知念高等学校	野原 愛美	沖縄県立知念高等学校

少年女子 ILCA6級 出場選手一覧表

県番	都道府県	氏 名	所 属
1	北海道	平尾 美紗樹	北海道苫小牧総合経済高等学校
2	青森県		
3	岩手県	齊藤 里依紗	盛岡市立高等学校
4	宮城県	鈴木 こころ	仙台第一高等学校
5	秋田県		
6	山形県	渡部 凧咲	山形県立加茂水産高等学校
7	福島県		
8	茨城県	浅野 保乃華	茨城県立土浦工業高等学校
9	栃木県		
10	群馬県		
11	埼玉県		
12	千葉県	越前 七海	千葉市立稲毛高等学校・千葉市立稲毛国際中等教育学校
13	東京都	守屋 咲慧	富士見丘高等学校
14	神奈川県	飯島 来海	N高等学校
15	山梨県		
16	新潟県	関口 結心	新潟県立新潟高等学校
17	長野県	竹沢 幸来	伊那弥生ヶ丘高等学校
18	富山県	織田 彩衣里	射水市立射北中学校
19	石川県		
20	福井県	黒川 笑里	福井県立三国高等学校
21	静岡県		
22	愛知県	今井 柚歌	愛知県立碧南高等学校
23	三重県	ササキ ヨシミ	三重県立津工業高等学校
24	岐阜県	若松 日奈加	岐阜県立海津明誠高等学校
25	滋賀県	荒井 風花	四天王寺高等学校
26	京都府	村田 結子	京都府立海洋高等学校
27	大阪府		
28	兵庫県	ダウスト 絵麻	兵庫県立西脇高等学校
29	奈良県		
30	和歌山県	井上 愛聖	和歌山県立和歌山工業高等学校
31	鳥取県		
32	島根県	手島 七海	島根県立隠岐高等学校
33	岡山県		
34	広島県	豊澄 麻希	広島なぎさ高等学校
35	山口県		
36	香川県	金倉 莉菜	県立高松商業高等学校
37	徳島県		
38	愛媛県	江口 瑠海	新居浜市立泉川中学校
39	高知県		
40	福岡県	八鍬 里帆	福岡県立玄界高等学校
41	佐賀県	田上 千尋	早稲田佐賀高等学校
42	長崎県		
43	熊本県	境 結風	熊本市立託麻中学校
44	大分県	森田 莉央	大分県立別府翔青高校
45	宮崎県		
46	鹿児島県	四角 彩花	鹿児島県立錦江湾高等学校
47	沖縄県	小林 夢奈	沖縄県立知念高等学校

過去の成績（種目別成績）

回数	開催地・開催年	全日本選手権		府県対抗対イ ⁷	日本選手権対イ ⁷ 級	1000m帆走リレー	学生選手権	水域対抗
1回	滋賀県 琵琶湖 柳ヶ崎沖 1946年	堀江喜三 塩田克巳 岩田幸彰・吉村憲治				京滋代表 阪神代表 関東代表	東京帝大 関西学院 大阪商大	
2回	石川県 七尾市 和倉湾 1947年	高岡治夫 養田隆一 吉村憲治				府県対抗 大 阪 京 都 和歌山	学生対抗 関 西 関 東 中 部	関 西 関 東 中 部
3回	福岡県 志賀島 1948年	府県対抗1200m 和歌山 滋 賀 宮 城	実業団1200m 九州ヨット 不二兄弟ヨット 横浜ヨット	兵 庫 神 奈 川 東 京	中 部 関 西 関 東	全日本選手権1200m 大 阪 伏 岡 高 村 上	関 東 関 西 関 九 州	関 西 関 東 北 部
4回	神奈川県 横浜市 本牧沖ヨットハーバー 1949年	京 都 山 口 滋 賀	大 阪 大 岩 宮 城	神奈川 京 都 東 京	1200m 関 東 関 西 関 九 州	公開帆走1800m 横浜SC 淡 青C 法 政C	学連水域対イ ⁷ 関 西 関 東 中 部	関 西 関 東 中 部
5回	愛知県 半田市 1950年	一般A-1200m 京 都 大 阪 滋 賀		一般対イ ⁷ 福 岡 大 阪 大 東	実業団対イ ⁷ 兵 庫 京 都 神 奈 川		高校A-1200m 神奈川 北海道 東 京	
6回	広島県 宮島町 1951年	一般男子A 京 都 大 阪 大 兵		一般男子対イ ⁷ 兵 庫 京 都 大 阪	愛 知 知 都 大 阪		高校A 東 京 愛 知 北海道	
7回	宮城県 塩竈市 松島湾 1952年	千 葉 大 阪 大 愛 知	実業団A 京 都 宮 城 大 阪	滋 賀 京 都 東 京	京 都 愛 媛 神 奈 川	一般女子A 広 島 愛 知 宮 城	広 島 北海道 滋 賀	高校対イ ⁷ 東 京 宮 城 大 阪
8回	香川県 高松市 大の場ヨットハーバー 1953年	一般男子1200m 大 阪 大 兵 庫 千 葉	実業団1200m 京 都 宮 城 和歌山	広 島 静 岡 宮 城	福 岡 宮 城 京 都	一般女子1200m 香 川 京 都 宮 城	高校1200m 兵 庫 大 阪 大 阪	広 島 宮 城 滋 賀
9回	北海道 小樽市 祝津ヨットハーバー 1954年	神奈川 滋 賀 大 阪	大 阪 神 奈 川 千 葉	滋 賀 京 都 宮 城	大 阪 大 宮 神 奈 川	神奈川 愛 知 福 岡	神奈川 北海道 兵 庫	京 都 兵 庫 香 川
10回	神奈川県 葉山ヨットハーバー 1955年	東 京 大 阪 滋 賀	東 京 京 都 滋 賀	大 阪 大 東 兵 庫	東 京 大 阪 山 口	神奈川 広 島 滋 賀	香 川 静 岡 神 奈 川	滋 賀 福 大 大 阪
11回	兵庫県 西宮湾 1956年	神奈川 大 阪 大 滋 賀		滋 賀 京 都 神 奈 川	東 京 香 川 兵 庫	滋 賀 神 奈 川 広 島	東 京 愛 知 滋 賀	東 京 愛 知 滋 賀
12回	静岡県 伊東市 伊東湾 1957年	東 京 福 岡 京 都		京 都 京 都 大 阪・埼玉	大 阪 滋 賀 鹿 児 島	神奈川 兵 庫 滋 賀	東 京 京 都 神 奈 川	神奈川 東 京 滋 賀・宮城
13回	滋賀県 大津ヨットハーバー 1958年	一般男子A-1200m 京 都 神 奈 川 埼 玉		兵 庫 千 葉 埼 玉	実業団対イ ⁷ 東 京 神 奈 川 京 都	一般女子A-1200m 神奈川 兵 庫 滋 賀	高校A 神奈川 香 川 滋 賀	兵 庫 香 川 福 岡
14回	神奈川県 横浜市ヨットハーバー 1959年	京 都 香 川 神 奈 川		大 阪 大 崎 神 奈 川	福 岡 神 奈 川 東 京	静 岡 兵 庫 東 京	東 京 神 奈 川 静 岡	滋 賀 神 奈 川 香 川
15回	鹿児島県 鴨池ヨットハーバー 1960年	香 川 滋 賀 神 奈 川		神奈川 福 岡 京 都	神奈川 香 川 静 岡	千 葉 埼 玉 愛 媛	福 岡 香 川 滋 賀	兵 庫 宮 城 滋 賀
16回	宮城県塩竈市 七ヶ浜町 吉田浜ヨットハーバー 1961年	一般男子700m 東 京 静 岡 福 岡		滋 賀 神 奈 川 兵 庫	実業団対イ ⁷ 千 葉 香 川 愛 媛	千 葉 千 宮 埼 玉	高校1200m 神奈川 福 岡 東 京	福 岡 兵 庫 宮 城
17回	岡山県 玉野市 渋川ヨットハーバー 1962年	一般男子A700m 兵 庫 東 山	一般男子B700m 静 岡 香 川 東 京		一般男子B対イ ⁷ 愛 知 長 崎 千 葉	一般女子対イ ⁷ 岡 山 大 阪 東 京	高校700m 岡 山 香 川 神 奈 川	神奈川 岡 山 千 葉
18回	山口県 光市 室積ヨットハーバー 1963年	香 川 兵 庫 愛 媛	兵 庫 福 岡 山 口		兵 庫 新 岡	長 崎 山 東 京	香 川 岡 山 千 葉	山 口 千 葉 愛 媛
19回	新潟県 両津市ヨットハーバー 1964年	福 岡 岡 山 東 京	京 都 大 崎 千 葉		愛 知 新 潟 兵 庫	静 岡 東 京 岡 山	山 口 千 葉 静 岡	千 葉 香 川 静 岡
20回	愛知県 蒲郡ヨットハーバー 1965年	岡 山 兵 庫 福 岡	愛 知 大 崎 千 葉		新 潟 岩 手 福 岡	長 崎 福 香 川	宮 城 山 口 神 奈 川	山 口 愛 知 神 奈 川

回数	開催地・開催年	一般男子Aﾌｨﾝ	一般男子Bﾌｨﾝ	一般男子ｽﾀｲﾌﾟ	一般男子Bｽﾀｲﾌﾟ	一般女子ｽﾀｲﾌﾟ	高校ﾌｨﾝ	高校ｽﾀｲﾌﾟ
21回	大分県 別府北浜ｽﾎﾟｰﾂﾊﾞｰﾝ - 1966年	大分 山口島	大分 愛知岡		愛知 岐阜山	愛知 岡山	大分 愛知山	大分 兵庫愛知
22回	茨城県 土浦ｽﾎﾟｰﾂﾊﾞｰﾝ - 1967年	茨城 大分山	東京 大分島		山梨 茨城三	茨城 愛知岡山	岡山 茨城山	茨城 大分香川
23回	福井県 三国ｽﾎﾟｰﾂﾊﾞｰﾝ - 1968年	東京 神奈川大分	大分 三重岡	山梨 香川和歌山		神奈川 大分山	山梨 静岡山	香川 神奈川山
24回	長崎県 長崎市 福田ｽﾎﾟｰﾂ競技場 1969年	大分 岐阜愛知	大分 山口知	滋賀 東京梨		岡山 山崎賀	山梨 長崎香川	福山 岡山滋賀
25回	岩手県 宮古市 宮古湾ｽﾎﾟｰﾂ競技場 1970年	神奈川 東京都大分	東京 岐阜山	山梨 都道府井		茨城 大分山	愛知 山梨香川	山梨 都道府井
26回	和歌山県 和歌山市 和歌浦湾 1971年	大分 山梨愛知	大分 愛知山	愛知 岡山梨		静岡 京都福	新井 茨城福	福山 茨城香川
27回	鹿児島県 鹿児島市 平川ｽﾎﾟｰﾂ競技場 1972年	大分 神奈川山	神奈川 鹿児島山	大分 愛知山		大分 滋賀山	鹿児島 大分神奈川	香川 山梨山
28回	千葉県 館山市 館山ｽﾎﾟｰﾂ競技場 1973年	愛知 神奈川山	神奈川 大分山	千葉 山梨山		京都 山梨山	大分 茨城山	千葉 茨城山
29回	茨城県 土浦ｽﾎﾟｰﾂﾊﾞｰﾝ - 1974年	福山 三重山	三重 福山	山梨 根梨山		兵庫 大阪山	山梨 山梨山	青森 山梨山
30回	三重県津市 伊勢湾海洋ｽﾎﾟｰﾂセンター 1975年	成男Aﾌｨﾝ 山梨山	成男Bﾌｨﾝ 三重山	成男ｽﾀｲﾌﾟ 三重山		成女ｽﾀｲﾌﾟ 兵庫山	少男ｽﾀｲﾌﾟ 三重山	少女ｽﾀｲﾌﾟ 三重山
31回	佐賀県 唐津市 唐津ｽﾎﾟｰﾂﾊﾞｰﾝ - 1976年	成男A-470 滋賀山	成男B-470 三重山	山梨 山梨山		佐賀 愛知山	青森 神奈川山	滋賀 青森山
32回	青森県 青森市 浅虫ｽﾎﾟｰﾂﾊﾞｰﾝ - 1977年	香川 神奈川山	東京 香川山	千葉 山梨山		佐賀 山梨山	香川 山梨山	佐賀 山梨山
33回	長野県諏訪市 諏訪湖ｽﾎﾟｰﾂﾊﾞｰﾝ - 1978年	神奈川 長野山	福山 香川山	宮崎 山梨山		佐賀 神奈川山	岐阜 山梨山	青森 山梨山
34回	宮崎県日南市 日南海岸ｽﾎﾟｰﾂ競技場 1979年	佐賀 山梨山	静岡 福山	岩手 山梨山		佐賀 山梨山	和歌山 山梨山	佐賀 山梨山
35回	千葉県 千葉市 稲毛ｽﾎﾟｰﾂ競技場 1980年	山梨 山梨山	静岡 香川山	神奈川 山梨山		佐賀 神奈川山	佐賀 山梨山	千葉 山梨山
36回	滋賀県 大津市 際川ｽﾎﾟｰﾂﾊﾞｰﾝ - 1981年	山梨 山梨山	神奈川 愛知山	長崎 山梨山		宮崎 山梨山	京都 山梨山	岐阜 山梨山
37回	島根県 隠岐市 西郷ｽﾎﾟｰﾂ競技場 1982年	山梨 山梨山	静岡 福山	茨城 山梨山		岐阜・佐賀 山梨山	山梨 山梨山	佐賀 山梨山
38回	東京都江東区 東京15号地 海浜公園用地 1983年	成男470 静岡山		神奈川 山梨山	少男FJ 山梨山	千葉 山梨山	千葉 山梨山	少女FJ 山梨山
39回	兵庫県芦屋市 兵庫県立 海洋体育館 1984年	佐賀 山梨山		京都 山梨山	滋賀 山梨山	佐賀 山梨山	青森 山梨山	岩手 山梨山
40回	鳥取県 境港市 境港公共ｽﾎﾟｰｽﾞ 1985年	滋賀 山梨山		茨城 山梨山	神奈川 山梨山	山梨 山梨山	千葉 山梨山	山梨 山梨山

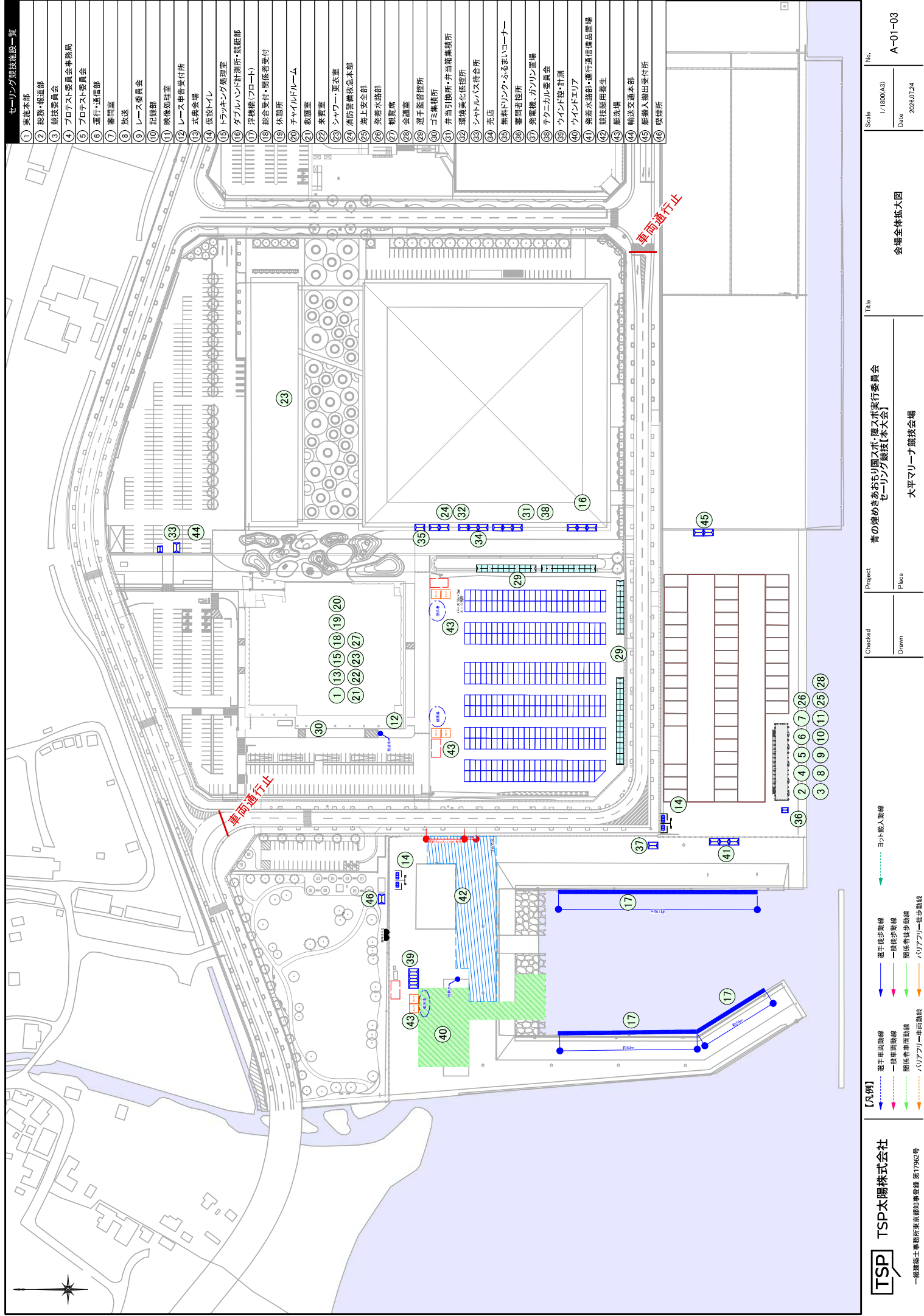
回数	開催地・開催年	成男470	成男ｽﾏｲﾌﾞ	少男ｽﾏｲﾌﾞ	少男FJ	成女ｽﾏｲﾌﾞ		成女ｽﾏｲﾌﾞ		少女FJ	
41回	山梨県 山中湖村ｺﾓﾅﾙﾊﾞｰ - 1986年	宮崎 和歌山 三重	神奈川 三重 兵庫	岐阜 静岡 山梨	千葉 神奈川 佐賀	岐阜 佐賀 鳥取				山梨 千沖 梨葉 縄	
42回	沖縄県 宜野湾市 宜野湾港ﾏﾘｰﾅ - 1987年	佐賀 沖京 都	京滋 都口 賀	神奈川 京都 佐賀	山口 茨城 島根	山口 沖京 都				千葉 愛滋 知賀	
43回	京都府 宮津市 宮津ｺﾓﾅﾙﾊﾞｰ - 1988年	滋賀 神奈川 愛媛	京都 千葉 香川・茨城	成男ｽﾏｲﾌﾞ - 京都 山口 神奈川	少男ｽﾏｲﾌﾞ 山口 長崎 兵庫	少男FJ 島根 京都 神奈川		山口 千京 都		山梨 岩手 山口	梨手 口
44回	北海道 江差町 江差港ﾏﾘｰﾅ - 1989年	滋賀 福岡 熊本	静岡 香川 神奈川	山口 福岡 東京	茨城 山口 北海道	千葉 和歌山 鳥取		岐阜 山口 福岡		佐賀 岩手・岐阜 一	
45回	福岡県福岡市 福岡市立ｺﾓﾅﾙﾊﾞｰ - ｼﾞｬﾝﾄﾞ ももち海浜公園 1990年	京都・佐賀 一 広島	福岡 東京 静岡	福岡 静岡 岡山・山口	福岡 岐阜 長崎	茨城 岩手 鳥取		成女ｽﾏｲﾌﾞ 福岡 佐賀 岐阜	成女SR 右川 福岡 佐賀	岐阜 静岡 山	福岡 形
46回	石川県 羽咋市 石川県滝港ﾏﾘｰﾅ - 1991年	三重 山口 滋賀	静岡 大阪 神奈川	静岡 岡山 岐阜・石川	茨城 神奈川 石川	福岡 三重 宮城		鳥取 愛媛 福岡	佐賀 石川 神奈川	石川 福岡 和歌山	
47回	山形県 温海町 山形県風ヶ岡ﾏﾘｰﾅ - 1992年	三重 神奈川 山口	長崎 広島 福岡	京都 神奈川 千葉	山形・千葉 一 香川	宮城 山梨 宮崎		茨城 山口 根	福岡 岐阜 山口	香川 山口・千葉 一	
48回	香川県 仁尾町 仁尾ﾏﾘｰﾅ - 1993年	東京 埼玉 福岡	熊本 福岡 神奈川	香川 山口 都	香川・福岡 一 岐阜	茨城 滋賀 山口・宮崎		愛媛 香川 岐阜	山口 佐賀 岐阜	茨城 岩手 青森	城手 森
49回	愛知県 蒲郡市 海陽ｺﾓﾅﾙﾊﾞｰ - 1994年	熊本 徳島 三重	熊本 鳥取 滋賀	国体ﾎｰﾄﾞ 神奈川 福岡 東京	少男SR 佐賀 福岡 茨城	愛媛 知賀 山梨・福岡		滋賀 神奈川 静岡	愛媛 知賀 山口	少女FJ 福岡 知賀 神奈川	少女SR 福岡 神奈川 香川
50回	福島県 いわき市 いわきﾏﾘｰﾅ - 1995年	長崎 大阪 徳島	広島 香川 千葉・神奈川	神奈川 福岡 新潟	神奈川 佐賀 山口	千葉 山梨 茨城		香川 山口 愛媛	神奈川 岐阜 奈良	千葉 佐賀 山口	福岡 神奈川 福岡
51回	広島県呉市 阿賀ﾏﾘｰﾅ ｽﾏｲﾌﾞ地区 ﾏﾘｰﾅ - 1996年	大阪 宮城 三重	山口 佐賀 神奈川	福岡 奈良 馬	佐賀 愛媛 兵庫	佐賀 岐阜 山梨		香川 山口 鳥取	広島 山口・香川 一	岩手 愛媛 岐阜	福岡 山口 神奈川
52回	大阪府堺市 淡輪ｺﾓﾅﾙﾊﾞｰ - 大阪府立青少年海洋ﾓﾆﾀｰ 1997年	山口 徳島 三重	静岡 鳥取 神奈川・北海道	山口 神奈川 千葉	大阪・佐賀 一 福岡	神奈川 大阪 山口		福岡 鳥取 神奈川	福岡 山口 高知	佐賀 千福 福岡	東京 岐阜 奈良
53回	神奈川県藤沢市 湘南港ｺﾓﾅﾙﾊﾞｰ - 葉山町 葉山港ｺﾓﾅﾙﾊﾞｰ - 1998年	徳島 滋賀 神奈川	成男ｽﾏｲﾌﾞ 和歌山 愛媛 青森	山口 福岡 徳島	福岡 佐賀 神奈川	少男FJ 佐賀 茨城 岐阜	成女ｽﾏｲﾌﾞ 福岡 香川 滋賀	成女SR 福岡 熊本 香川	成女ｼﾞｬﾝﾄﾞ 熊本 知賀 香川	静岡 岐阜 山梨	佐賀 北海道 京都
54回	熊本県 宇土市 宇土ﾏﾘｰﾅ - 1999年	香川 富山 三重	熊本 山口 山梨	神奈川 山口 愛媛	京都 佐賀 福岡	神奈川・岐阜 一 広島	千葉・香川 一 佐賀・熊本・ 鹿児島	福岡 香川・高知 一	鹿児島 高知 熊本	岐阜 青森・佐賀 一	福岡 京都 鳥取
55回	富山県 新湊市 新湊ﾏﾘｰﾅ - 2000年	神奈川 富山 静岡・徳島	熊本 広島 滋賀	成男ｼﾞｬﾝﾄﾞ 宮城 神奈川 富山	神奈川・佐賀 一 福岡	静岡 千葉 石川	京都 香川 鹿児島	京都 鳥取 山口	富山 神奈川 鹿児島	福岡 鳥取 佐賀	富山 東京 福岡
56回	宮城県 名取市 関上特設ｺﾓﾅﾙﾊﾞｰ - 2001年	山口 宮城 徳島	熊本 和歌山 愛媛・広島	山口 宮城・富山 一	東京・佐賀 一 福岡	茨城 佐賀 香川	成女SS 東京 山口 香川	京都 滋賀 東京	鹿児島 宮城・香川 一	静岡 秋田 茨城・山口	広島 山口 福岡
57回	高知県夜須町 夜須特設 ﾍﾞﾘﾝｸﾞ会場 2002年	三重 宮城 静岡	埼玉 愛媛 和歌山	山口 富山 山梨	長崎 佐賀 静岡	静岡 茨城 千葉	高知 和歌山 佐賀	高知 京都 香川	富山 香川 愛媛	福岡 岩手 静岡	鳥取 京都 千葉
58回	静岡県 御前崎町・相良町 御前崎港特設ﾏﾘｰﾅ - 2003年	福岡 静岡 和歌山	愛媛 静岡 福岡	京都 鳥取 愛媛	京都 茨城 静岡	岡山 山口 長崎	岡山 佐賀 静岡	京都 高知 香川	神奈川 高知 兵庫	静岡 宮城 大分	佐賀 静岡 神奈川
59回	埼玉県北川辺町 渡良瀬貯水池 (谷中湖) 2004年	山口 神奈川 広島	愛媛 和歌山 山梨	山梨 新潟 京都	広島 静岡 福岡	山梨 福岡 広島	山口 岡山 滋賀	岡山 山梨 香川	香川 富山 鹿児島	福岡 神奈川 佐賀	岐阜 香川 大分
60回	岡山県 瀬戸内市 岡山県牛窓ｺﾓﾅﾙﾊﾞｰ - 2005年	山口 滋賀 静岡	三重 岡山 鹿児島	新潟 新潟 愛媛	佐賀 北海道 千葉	佐賀 静岡 香川	佐賀 岡山 宮城	愛媛 高知 山梨	富山 鹿児島 東京	岩手 香川 岐阜	長崎 佐賀 石川

回数	開催地・開催年	成男470	成男ソッパル	成男ウインド	少男SR	少男FJ	成女SS	成女SR	成女ウインド	少女FJ	少女SR
61回	兵庫県 西宮市 新西宮ヨットハーバー - 2006年	滋賀 福岡 鹿児島	愛知 鹿児島 東京	愛知 山口 新潟	兵庫 鹿玉 千葉	福岡 愛兵	東京 福岡 山口	愛知 岡山 鳥	香川 山口 富山	静岡 岡庫 賀	山口 佐賀 福岡
62回	秋田県男鹿市 船山港特設 セーリング競技場 2007年	福岡 山口 三重	鹿児島 京都 愛知	新潟 新潟 山口	成女SS 山口 秋東	成女SR 岡山 山口 石川	成女ウインド 山口 滋沖 縄	少男SS 兵秋 庫田 城	少男SR 佐京 賀都 賀	少女SS 石川 岡大 山分	佐賀 滋岐 賀卓
63回	大分県別府市 北浜ヨットハーバー - 2008年	鹿児島 徳島 和歌山	東京 京都 佐賀	愛知 埼玉 神奈川	岡山 山京 福岡	沖縄 石川 静岡	秋田 香川 鹿児島	千葉 佐賀 大分	佐賀 京都 鹿児島	千葉 大分 山口	佐賀 神奈 東京
64回	新潟県聖籠町 網代浜特設 セーリング競技場 2009年	愛知 三重 山口	愛知 京都 秋田	新潟 新潟 福岡	岡山 山京 福岡	山京 愛東	新潟 香川 山口	兵庫 福岡 千葉	佐賀 大分 静岡	大分 千葉 佐賀	佐賀 新潟 大分
65回	千葉県千葉市 稲毛ヨットハーバー - 2010年	和歌山 神奈川 千葉	愛知 秋東	新潟 愛知 神奈川	東京 千葉 佐賀	愛知 福岡 北海道	岐阜 滋賀 神奈川	福岡 長崎 佐賀	佐賀 長崎 福岡	佐賀 千葉 東京	佐賀 神奈 福岡
66回	山口県光市 山口県水産交流村 及び光井港特設会場 2011年	岐阜 山口 神奈川	東京 佐賀 和歌山	新潟 岐阜 神奈川	山口 佐賀 長崎	山口 福岡 石川	岐阜 山口 新潟	山口 千葉 愛媛	福岡 佐賀 神奈川	神奈川 山口 愛知	佐賀 静岡 山口
67回	愛知県 蒲郡市 海陽ヨットハーバー - 2012年	福岡 鹿児島 東京	愛知 佐賀 和歌山	岐阜 奈良 新潟	岡山 山京 岐阜	東京 和歌山 長崎	岐阜 新潟 東京	佐賀 山口 神奈川	佐賀 静岡 神奈川	鳥取 佐賀 岐阜	佐賀 東京 静岡
68回	東京都江東区 若洲海浜公園 ヨット訓練所 2013年	東京 福岡 愛知	佐賀 京都 和歌山	新潟 大分 東京	和歌山 千葉 大阪	東京 石川 北海道	新潟 滋賀 東京	山口 佐賀 大分	佐賀 静岡 和歌山	佐賀 千葉 東京	兵庫 佐賀 神奈川
69回	長崎県 長崎市 長崎カッタマリナ 2014年	佐賀 福岡 和歌山	佐賀 京都 愛知	新潟 福岡 和歌山	和歌山 鳥取 大分	長崎 愛知 石川	東京 新潟 滋賀	山口 和歌山 千葉	和歌山 愛知 神奈川	佐賀 山口 岐阜	神奈川 千葉 東京
		成男470	成男レザ -	成男ウインド	成女SS	成女レザ - ラジ 70%	成女ウインド	少男420	少男レザ - ラジ 70%	少女420	少女レザ - ラジ 70%
70回	和歌山県 和歌山市 和歌山セーリング センター 2015年	福岡 長崎 佐賀	静岡 愛知 三重	新潟 和歌山 山口	和歌山 大分 大阪	和歌山 愛知 福岡	愛媛 東京 新潟	山口 和歌山 佐賀	山口 和歌山 広島	茨城 和歌山 佐賀	千葉 東京 佐賀
71回	岩手県 宮古市 リアハーバー - 宮古 2016年	佐賀 兵庫 和歌山	三重 鳥取 神奈川	新潟 神奈川 和歌山	山口 岐阜 佐賀	和歌山 兵庫 山口	愛媛 新潟 東京	山口 茨城 手	山口 神奈川 福岡	茨城 鳥取 千葉	東京 和歌山 佐賀
72回	愛媛県 新居浜市 新居浜マリナーズ 2017年	和歌山 福岡 佐賀	鳥取 三重 京都	福岡 滋賀 愛媛	愛媛 東京 新潟	愛媛 千葉 三重	愛媛 東京 兵庫	茨城 山口 大阪	山口 和歌山 東京	佐賀 山口 岐阜	和歌山 千葉 滋賀
73回	福井県 高浜町 若狭和田マリナーズ 2018年	佐賀 福岡 福井	鳥取 三重 神奈川	新潟 福岡 山口	山口 鳥取 佐賀	福岡 神奈川 北海道	福岡 愛媛 東京	神奈川 千葉 山口	山口 東京 広島	香川 茨城 長崎	静岡 千葉 佐賀
74回	茨城県阿見町 阿見町霞ヶ浦 セーリング 特設会場 2019年	和歌山 神奈川 山口	山口 神奈川 鳥取	和歌山 神奈川 山口	山口 鳥取 神奈川	三重 福岡 神奈川	福岡 京都 鹿児島	香川 三重 神奈川	神奈川 茨城 和歌山	山口 京都 千葉	茨城 千葉 愛媛
75回	鹿児島県 鹿児島市 平川ヨットハーバー 2020年	中止									
76回	三重県 津市 津ヨットハーバー 2021年	中止									
77回	千葉県 千葉市 稲毛ヨットハーバー 2022年	神奈川 茨城 佐賀	山口 鳥取 神奈川	山口 東京 栃木	大阪 東京 鹿児島	広島 三重 東京	栃木 滋賀 東京	茨城 東京 三重	三重 静岡 茨城	茨城 山口 岐阜	山口 滋賀 神奈川
特別	鹿児島県 鹿児島市 平川ヨットハーバー 2023年	神奈川 滋賀 鳥取	山口 鳥取 三重	神奈川 山口 大分	鹿児島 大阪 東京	福岡 鹿児島 東京	栃木 滋賀 千葉	東京 香川 茨城	広島 東京 神奈川	茨城 山口 和歌山	広島 山口 神奈川
		成男470	成男ILCA7	成男ウインド	成女SS	成女ILCA6	成女ウインド	少男420	少男ILCA6	少女420	少女ILCA6
78回	佐賀県 唐津市 佐賀県ヨットハーバー - 2024年	佐賀 滋賀 神奈川	鳥取 佐賀 山口	山口 佐賀 神奈川	東京 佐賀 鳥取	福岡 静岡 千葉	滋賀 栃木 鹿児島	三重 茨城 東京	神奈川 茨城 広島	山口 茨城 福岡	鳥取 神奈川 広島
79回	滋賀県大津市 大津市柳が崎 特設セーリング 会場 2025年	兵庫 滋賀 大分	鳥取 三重 佐賀	大阪 滋賀 佐賀	東京 佐賀 鳥取	東京 滋賀 静岡	滋賀 栃木 香川	三重 茨城 福岡	広島 神奈川 鳥取	鳥取 茨城 香川	佐賀 鳥取 兵庫
80回	青森県 むつ市 大平マリナーズ 2026年										

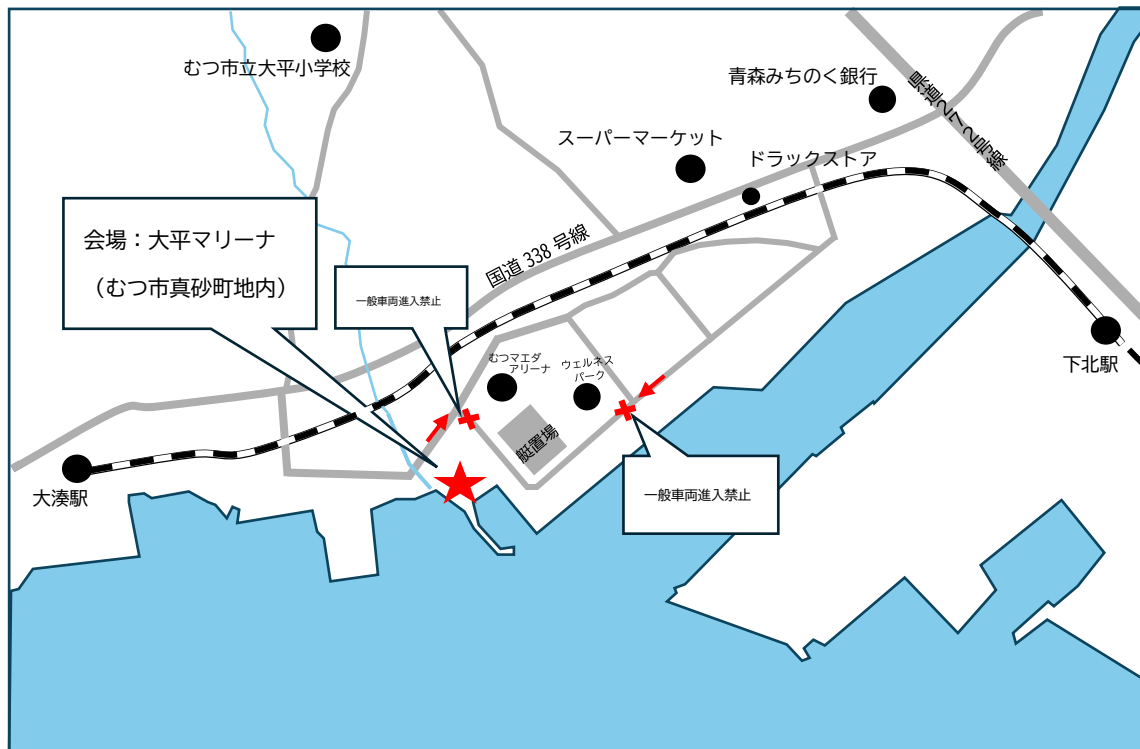
過去の成績（総合成績）

回数	開催年	天皇杯成績表			皇后杯成績表		
		1位	2位	3位	1位	2位	3位
3回	1948年	神奈川	東 京	兵 庫	—	—	—
4回	1949年	京 都	大 阪	宮 城	—	—	—
5回	1950年	神奈川	東 京	福 岡	—	—	—
6回	1951年	京 都	大 阪	神奈川	—	—	—
7回	1952年	京 都	大 阪	東 京	—	—	—
8回	1953年	京 都	香 川	大 阪	—	—	—
9回	1954年	神奈川	大阪・広島	—	神奈川	愛 知	福 岡
10回	1955年	大 阪	神奈川	東 京	神奈川	広 島	滋 賀
11回	1956年	滋 賀	東 京	神奈川	滋 賀	神奈川	広 島
12回	1957年	神奈川	滋 賀	京 都	神奈川	兵 庫	滋 賀
13回	1958年	神奈川	兵 庫	京 都	神奈川	兵 庫	広 島
14回	1959年	神奈川	東 京	兵 庫	静 岡	兵 庫	東 京
15回	1960年	神奈川	福 岡	滋 賀	千 葉	埼 玉	愛 知
16回	1961年	千 葉	東 京	福 岡	千 葉	宮 城	埼 玉
17回	1962年	岡 山	神奈川	香 川	岡 山	広 島	東 京
18回	1963年	山 口	兵 庫	岡 山	長 崎	山 口	東 京
19回	1964年	岡 山	千 葉	愛 知	静 岡	東 京	岡 山
20回	1965年	愛 知	山 口	新 潟	福岡・長崎	—	香 川
21回	1966年	愛 知	大 分	兵 庫	愛 知	広 島	静 岡
22回	1967年	茨 城	山 口	大 分	茨 城	愛 知	広 島
23回	1968年	山 口	神奈川	大 分	神奈川	大 分	山 口
24回	1969年	山 口	大 分	岐 阜	岡 山	長 崎	滋 賀
25回	1970年	京 都	山 口	神奈川	広 島	大 分	福 井
26回	1971年	愛 知	和歌山	静 岡	静 岡	京 都	福 井
27回	1972年	鹿児島	大 分	山 口	大 分	滋 賀	山 口
28回	1973年	千 葉	神奈川	大 分	京 都	千 葉	岐 阜
29回	1974年	福 岡	鹿児島	茨 城	兵 庫	大 阪	和歌山
30回	1975年	三 重	広 島	和歌山・佐賀	広 島	三重・兵庫	—
31回	1976年	佐 賀	青 森	山 口	佐 賀	滋 賀	愛 知
32回	1977年	佐 賀	香 川	鹿児島	佐 賀	愛 知	千葉・山口
33回	1978年	佐 賀	長 野	岐 阜	佐 賀	青 森	神奈川・岐阜・滋賀
34回	1979年	佐 賀	和歌山	宮 崎	佐 賀	長 崎	宮 崎
35回	1980年	佐 賀	千 葉	神奈川	佐 賀	千 葉	神奈川
36回	1981年	滋 賀	京 都	岐阜・長崎	岐 阜	滋 賀	宮 崎
37回	1982年	佐 賀	島 根	静 岡	佐 賀	岐 阜	青 森
38回	1983年	佐 賀	神奈川	千 葉	佐 賀	千 葉	鳥 取
39回	1984年	茨 城	滋 賀	佐 賀	岩 手	佐 賀	千 葉
40回	1985年	鳥 取	滋 賀	茨 城	鳥 取	山 口	佐 賀
41回	1986年	岐 阜	神奈川	山 梨	山 梨	岐 阜	鳥 取
42回	1987年	山 口	京 都	佐 賀	山 口	千 葉	沖 縄
43回	1988年	京 都	山 口	千 葉	山 口	千 葉	京 都
44回	1989年	佐 賀	山 口	千 葉	岐 阜	山 口	福 岡
45回	1990年	福 岡	佐 賀	岐 阜	福 岡	佐 賀	石 川
46回	1991年	石 川	静 岡	神奈川	鳥 取	石 川	佐 賀
47回	1992年	千 葉	山 口	神奈川	山 口	茨 城	福 岡
48回	1993年	香 川	福 岡	山 口	岐阜・香川	—	奈 良
49回	1994年	神奈川	愛 知	滋 賀	神奈川	愛 知	滋 賀
50回	1995年	神奈川	千 葉	山 口	山 口	神奈川	福 岡
51回	1996年	山 口	佐 賀	愛 知	山 口	香 川	広 島
52回	1997年	福 岡	山 口	神奈川	福 岡	岐 阜	佐 賀
53回	1998年	神奈川	岐 阜	佐 賀	岐 阜	神奈川	香 川
54回	1999年	福岡・佐賀・熊本	—	—	熊 本	佐 賀	福 岡
55回	2000年	静 岡	神奈川	佐 賀	佐 賀	鳥 取	富 山
56回	2001年	山 口	東 京	佐 賀	山 口	東 京	広島・香川
57回	2002年	静 岡	佐 賀	富 山	京 都	高 知	福 岡
58回	2003年	静 岡	福 岡	岡 山	静 岡	佐 賀	宮 城
59回	2004年	神奈川	山 口	福 岡	岡 山	神奈川	香 川
60回	2005年	静 岡	岡 山	佐 賀	岡 山	静 岡	佐 賀

回数	開催年	天皇杯成績表			皇后杯成績表		
		1位	2位	3位	1位	2位	3位
61回	2006年	福岡	兵庫	山口	山口	兵庫	佐賀
62回	2007年	山口	兵庫	秋田	山口	石川	岡山
63回	2008年	千葉	東京	佐賀	千葉・東京	—	岡山
64回	2009年	佐賀	愛知	福岡	大分	佐賀	岡山
65回	2010年	佐賀	千葉	福岡	佐賀	千葉	東京
66回	2011年	山口	神奈川	岐阜	山口	神奈川	岐阜
67回	2012年	佐賀	岐阜	山口	岐阜	佐賀	和歌山
68回	2013年	千葉	佐賀	東京	千葉	東京	佐賀
69回	2014年	和歌山	佐賀	山口	和歌山	佐賀	東京
70回	2015年	和歌山	佐賀	福岡	和歌山	佐賀	大分
71回	2016年	山口	兵庫	佐賀	山口	岡山	茨城
72回	2017年	愛媛	佐賀	和歌山	愛媛	佐賀	東京
73回	2018年	山口	福井	神奈川	福井	山口	香川
74回	2019年	神奈川	山口	和歌山	山口	神奈川	京都
75回	2020年	中止			中止		
76回	2021年	中止			中止		
77回	2022年	茨城	東京	山口	東京	佐賀	山口
特別国体	2023年	山口	茨城	神奈川	山口	茨城	鹿児島
78回	2024年	佐賀	山口	鳥取	鳥取	山口	佐賀
79回	2025年	鳥取	滋賀	佐賀	佐賀	東京	鳥取
80回	2026年						



競技会場案内図



◆会場へのアクセス

バス

muve<下北駅> から<ウェルネスパーク前>・・・約5分

青の煌めきあおもり国スポセーリング競技会 チャイルドルームのご案内



場 所：青森県むつ市
むつマエダアリーナボルダリングルーム
実 施 日：2026年9月2日（水）～9月7日（月）
開設時間：9月2日（水）～9月6日（日）
8：30～16：30
9月7日（月） 8：30～14：00

対象年齢：0歳～6歳程度参加する選手・大会役員・大会関係者の方も無料でご利用頂けます。

- 乳幼児の授乳・おむつの取り換えなどの部屋をご用意
- 休憩中の乳幼児の一時的な託児をお手伝い

8月24日までに下記URLより申し込みください

<https://ws.formzu.net/dist/S618102133/>

主催：（公財）日本セーリング連盟 レディース委員会
協力：青の煌めきあおもり国スポ・障スポむつ市実行委員会
青森県セーリング連盟

使わなくなったヨットのセールで エコバックを作ってみませんか？

使い古したヨットの帆(セール)も、捨ててしまったらゴミになってしまいます。そんな帆をリサイクルし、一緒にエコバックを作ってみませんか？リサイクル・リメイク・リユースでエコなバッグです。テープで止めるだけで、だれでも簡単に作れるバッグです。道具はすべて用意してありますので、どうぞお気軽にご参加ください。



■ 日時:9月5日(日)、6日(月)

第1回:午前11時 第2回:午後1時(予定)

■ 場所:国スポセーリング会場
むつマエダアリーナメインアリーナ内
エコバックワークショップコーナー

■ 参加費:無料 持ち物:なし

なお、参加人数に限りがあるため、当日は各回先着 20 名様とし、会場にて事前申し込みを受け付けます。

■ 主催:公益財団法人日本セーリング連盟 環境委員会



青の煌めき あおもり国スポ
セーリング競技

JSAF 国スポ講演会

たった30分で、チームと選手を守れる大きな一歩に。

監督の知識が、
選手の力を引き出す
カギになる!

2つのテーマを30分で学ぶ、明日から役立つ知識



日時

2026/9/3 (木) 15:00~15:30

ぜひご参加ください



会場

むつマエダアリーナ

2部制プログラム

第1部

15:00~15:15



医事委員会 川副先生

女性アスリートの 月経サポートについて

- ✓ 月経周期とコンディション変動
- ✓ 海上環境における月経管理と衛生対策
- ✓ 月経周期のコントロール (OC/LEPの活用)

監督の知識が、選手の未来を守ります

競技力の向上だけでなく、選手の健康管理と
ルールの理解は、監督の大切な役割です。
この30分が、チームの安心と信頼につながります。
多くの監督のご参加をお待ちしています!



第2部

15:15~15:30



アンチ・ドーピング委員会
三羽先生

ドーピング防止 (知らなかった、うっかりドーピング) から選手を守る

- ✓ ドーピング規則違反とは
- ✓ TUEの申請の仕方
- ✓ global DROについて
- ✓ サプリメント汚染による違反例と制裁の紹介
- ✓ TUE申請をしなかった場合の違反例と制裁の紹介

主催

医事委員会、アンチ・ドーピング委員会

後援

アスリート委員会、レディース委員会

たった30分で、チームと選手を
守れる大きな一歩を!

ぜひご参加ください!





挑戦者たちは越えようとする。
記録を。ライバルを。自分自身を。
過去の常識も。世界の価値観さえも。
挑戦者たちこそあたらしい未来への原動力だ。
これまでも、そしてこれからも、
わたしたちは挑戦する人たちを応援します。
スポーツの持つ様々な可能性で、
望む未来へたどり着くために。



JSPPO

Japan Sport Association

スポーツと、望む未来へ。

わたしたちは、JAPAN  GAMES を応援しています。



大塚製薬



三井住友海上

MS&AD INSURANCE GROUP

セレスポ

時事通信

NO! スポハラ

スポーツ・ハラスメント（暴力、暴言、ハラスメントなど）に、
みんなが『NO！』と言う社会を目指して

『スポハラ（スポーツ・ハラスメント）』とは？

「スポハラ（スポーツ・ハラスメント）」とは、スポーツの現場において、「暴力」、「暴言」、
「ハラスメント」、「差別」など“安全・安心にスポーツを楽しむことを害する行為”のことです。

指導者と指導を受ける者との関係のみならず、スポーツの現場における関係者の誰によっても、
また誰に対してであっても、スポハラは起こります。



Japanese
Olympic
Committee



UNIVAS



JSPO
Japan Sport Association

ぼうりょくこういとうそうだんまどぐち
スポーツにおける暴力行為等相談窓口

相談員



りょうかのう
どなたでもご利用可能!

きがる そうだん
お気軽にご相談ください

「スポハラ」をなくすためには
「いかなる理由でも、指導者・
コーチによる不適切な行為は
あってはならない」

とスポーツに携わるすべての人が思うことが重要です。

スポーツにおける暴力行為等根絶宣言・スポーツ・インテグリティ確保に関する協力覚書》》

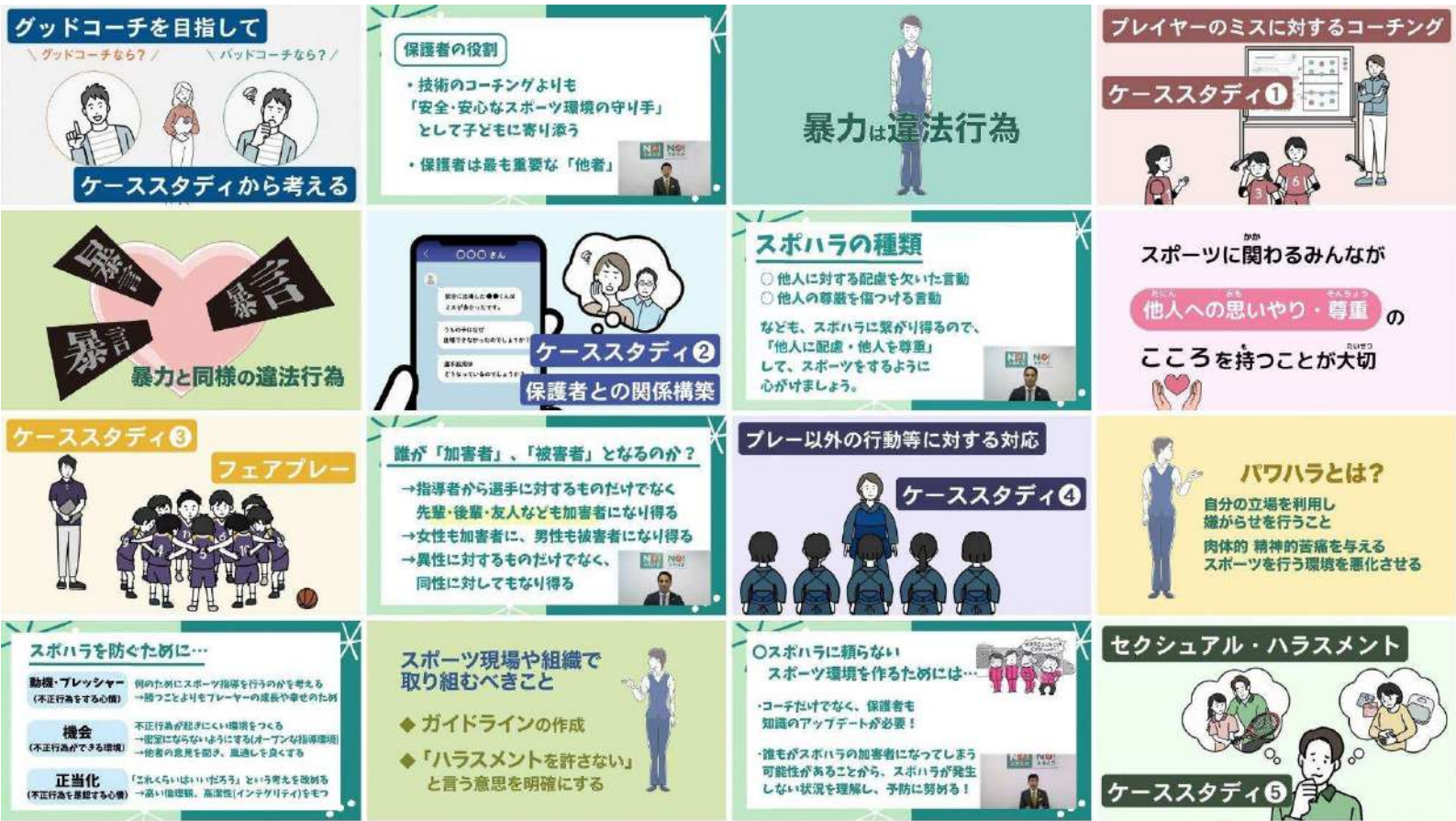


『スポハラ』根絶に向けた取組み



JSPPO
Japan Sport Association

① 教材・動画の公開



② 普及啓発活動の実施・イベントの開催



アスリートの盗撮、 写真・動画の悪用、 悪質なSNS投稿は 卑劣な行為です。

スポーツは、子供から大人まで誰もが楽しめるものです。そのためにも安心してスポーツに取り組める環境を守っていく必要があります。盗撮はもちろん、アスリートの写真・動画を使用した性的目的のSNS投稿やWEB掲載は、アスリート、更には多くのファン、家族、関係者を傷つける絶対に許されない卑劣な行為です。すべてのアスリートが競技に集中し、スポーツを心から楽しめる環境を守るため、スポーツ界全体でこの問題に取り組みます。

- ▶ 大会における盗撮防止事例を共有し、各大会での防止策の取り組みを後押しします。
- ▶ 研修等を通じ、アスリート自身がネットやSNSで身を守る必要性を啓発していきます。
- ▶ SNS投稿やWEB掲載の実態把握に努め、関係機関に共有していきます。

この問題を解決するには皆様のご理解が欠かせません。

これからも安心してスポーツができる環境を守るために、ご理解ご協力をお願いいたします。

安全な環境を、すべてのスポーツ愛好者のために。 SAVE ATHLETES, SAVE SPORT.

大会会場で盗撮等が疑われる行為を見かけましたら大会主催者にお知らせください。

アスリートを傷つける性的目的のSNS投稿やWEB掲載を見かけましたら下記サイトよりご連絡ください。
今後の対応に活用するとともに、悪質な事例については当局への通報も検討します。

<https://www.joc.or.jp/about/savesport/>



- ▶ 盗撮は迷惑防止条例で犯罪として処罰される可能性があります。
- ▶ SNS等で本人の名誉を傷つける書き込みは犯罪(名誉毀損罪)として処罰される可能性があります。
- ▶ 匿名による投稿であっても、法的手続により、投稿者が特定され、損害賠償請求の対象になる可能性があります。



勝利を超える価値がある

私たちは信じる。

正々堂々と競いあう潔さを。

相手をリスペクトすることで生まれる友情や感動を。

まっすぐ挑戦しつづける、そこに、

自分や、仲間や、社会さえ変える力があることを。

さあ、すべては、私たちの中にある

フェアネスの心からはじまる。

スポーツのフェアネスが、社会のフェアネスを支えるために。



公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構

MIZUNO SPORTS PROMOTION FOUNDATION

1970 ▶▶▶▶▶ 56TH ▶▶▶▶▶ 2026



スポーツを愛する人たちへ

私たち、ミズノスポーツ振興財団は、
スポーツの普及、振興に必要な事業を行い、
スポーツを愛する人たちを応援しています。



公益財団法人
ミズノスポーツ振興財団

競技会場地マップ

Venue map

国スポ	正式競技(37)	特別競技(1)	公開競技(7)	デモンストレーションスポーツ(39)	冬季正式競技(3)
障スポ	正式競技(14)	オープン競技(3)	(身)身体障がい者が出場できる競技 (知)知的障がい者が出場できる競技 (精)精神障がい者が出場できる競技		

東青地域

青森市

- 国スポ総合開・閉会式
- 障スポ開・閉会式
- 陸上競技
- 水泳(競泳)
- 水泳(水球)
- 水泳(アーティスティックスイミング)
- 水泳(オープンウォータースイミング)
- テニス
- バレーボール(6人制)
- バレーボール(ビーチバレーボール)
- ハンドボール
- ソフトテニス
- 卓球
- 軟式野球
- ライフル射撃(25m)
- ラグビーフットボール(15人制)
- スポーツクライミング(リード・ボルダー)
- アーチェリー
- ゴルフ
- トライアスロン

平内町

- ゴルフ
- 綱引

蓬田村

- モルック

今別町

- 年齢別バドミントン

外ヶ浜町

- ペタンク

- ウォークビンゴ
- カーリング
- ソフトバレーボール
- ターゲット・バードゴルフ
- ドッジボール
- 年齢別ソフトテニス
- 年齢別テニス
- ふれあいボウリング
- ユニバーサルホッケー
- ランジボール卓球
- ダンススポーツ
- 陸上競技(身・知)
- 水泳(身・知)
- アーチェリー(身)
- 卓球(身・知・精)

サウンドテーブルテニス(身)を含む。

下北地域

むつ市

- ローイング
- バスケットボール
- セーリング
- フェンシング
- フライングディスク
- バスケットボール(知)

大間町

- ウォーキング

風間浦村

- ノルディックウォーキング

東通村

- ソフトバレーボール

佐井村

- ふれあいソフトボール

上北地域

十和田市

- サッカー
- バスケットボール
- 相撲
- ゲートボール
- バウンドテニス
- パークゴルフ
- Let's Enjoy バウンドテニス
- バレーボール(身)

三沢市

- ホッケー
- バスケットボール
- 軟式野球
- ソフトボール
- 銃剣道
- 武術太極拳
- いきいき太極拳
- スケート(ショートトラック)
- アイスホッケー
- ボウリング(知)
- 車いすバスケットボール(身)
- デフボウリング(身)

野辺地町

- ハンドボール

七戸町

- 剣道
- ブラインドテニス(身)

六戸町

- 軟式野球

横浜町

- マラソン

東北町

- ソフトボール
- 女子ソフトボール
- ソフトボール(知)

六ヶ所村

- ホッケー
- 軟式野球

おいらせ町

- 軟式野球
- スポーツチャンバラ
- ファイン・ボール
- ブラインドベースボール(身)
- ファイン・ボール(身)

西北地域

五所川原市

- バレーボール(6人制)
- バレーボール(精)

つがる市

- バレーボール(6人制)
- 柔道
- バレーボール(知)

鰯ヶ沢町

- マスターズスイミング

深浦町

- ノルディックウォーキング

板柳町

- ふれあいゲートボール
- ウォーキング

鶴田町

- マラソン&ウォーキング

中泊町

- ビーチサッカー

中南地域

弘前市

- 体操(競技)
- 体操(新体操)
- 体操(トランポリン)
- ソフトボール
- 弓道(近的・遠的)
- ライフル射撃(50m、10m、BR・BP)
- 空手道

黒石市

- バドミントン

西目屋村

- カヌー(スプリント)
- カヌー(スラローム・ワイルドウォーター)

大鰐町

- パラグライディング
- オリエンテーリング
- スキー(ジャイアントスラローム)
- スキー(クロスカントリー)

- クレー射撃(トラップ・スキート)
- 高等学校野球(硬式・軟式)
- マスターズ陸上競技
- ビリヤード
- フライングディスク(身・知)
- ボッチャ(身)

平川市

- ウエイトリフティング
- グラウンド・ゴルフ
- エアロビック
- インディアカ

藤崎町

- なぎなた
- パワーリフティング
- スポーツウエルネス吹矢

田舎館村

- ユニカール

三八地域

八戸市

- サッカー
- バスケットボール
- レスリング
- 自転車(トラックレース)
- ソフトボール
- ラグビーフットボール(7人制)
- ボウリング
- 空道
- スケート(スピード)
- スケート(フィギュア)
- アイスホッケー
- サッカー(知)
- フットソフトボール(知)

三戸町

- パークゴルフ

田子町

- マラソン

階上町

- 自転車(ロードレース)
- フロアボール

五戸町

- サッカー

南部町

- サッカー

新郷村

- エンジョイ!グラウンド・ゴルフ

県外

宮城県利府町

- 水泳(飛込)

山梨県北杜市

- 馬術

秋田県鹿角市

- スキー(スペシャルジャンプ)
- スキー(コンパインド)

競技記録結果

開設期間

2026年9月28日（金）～12月22日（火）

PC・スマホ：<https://kirokukensaku.net/5NS26/index.html>

フィーチャーフォン：<http://kirokukensaku.net/5NS26/mob/index.html>

PC・スマホ
二次元コード



フィーチャーフォン
二次元コード



国スポチャンネル

国スポの動画配信を行っています。
※競技によって配信スケジュールが異なります。

<https://japangamestv.japan-sports.or.jp/>



むつ市実行委員会ホームページ・SNS

むつ市実行委員会HP：<https://www.city.mutsu.lg.jp/kokuspo/>

X



Instagram



Facebook



次の開催地は
宮崎県日南市！
待っているのちゃ！！



日南市観光イメージ
キャラクター
にちなんちゃ様

青の煌めきあおもり国スポ・障スポむつ市実行委員会
青森県むつ市中央一丁目8番1号 TEL：0175-22-1111
(むつ市役所市民生活部国スポ・障スポ推進課)